

夏休み体験学習プログラム

子ども アドベンチャー カレッジ

2025

開催日

8/5(火) 6(水) 7(木) 8(金)

会場

横浜市内各所

※詳細はウェブサイトをご覧ください

実施報告書

目 次

I 子どもアドベンチャーカレッジとは	1
II 子どもアドベンチャーカレッジ 2025 開催実績	
1 プログラム実施者（企業・団体）の募集	2
2 学生サポーターの募集	2
3 プログラム参加者（児童）の募集	3
4 広報用チラシ	4
III 子どもアドベンチャーカレッジ 2025 アンケート結果	
1 参加者向けアンケート	8
2 企業・団体等向けアンケート	9
3 学生サポーター向けアンケート	12
IV プログラム実施報告	14
No が 白抜き のプログラムは学生サポーターの派遣有	
【医療】	
1 公立病院のお仕事体験～命を支えるプロフェッショナルを知ろう～ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター	15
2 医療のお仕事を体験しよう 医療法人財団慈啓会 大口東総合病院	17
3 ドキドキワクワク！看護のチャレンジ&探検ツアー 横浜市立大学医学部看護学科	19
4 漢方ってどんなもの？クイズとゲームで楽しく学ぶ漢方のせかい ジェーピース製薬株式会社	21
5 カラダの音ってどんな音？看護のお仕事を体験してみよう！ 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属横浜看護学校	22
6 お医者さんが手術で使う道具を触って体験してみよう 株式会社パイオラックスメディカルデバイス	23
7 みんなを元気に！からだをまもるお仕事、大発見！ 湘南医療大学	25

8	インビザライン®矯正デジタルデザインワークショップ！ アライン・テクノロジー・ジャパン・トリート合同会社	26
9	看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！ 昭和医科大学保健医療学部	27

【運輸・物流】

10	市電保存館で、ジオラマ運転ショーの操作をしてみよう！ 横浜市電保存館	28
11	シーサイドライン車両基地を探検しよう！ 株式会社横浜シーサイドライン	29
12	コンテナを近くで見てみよう！～夏休み子ども貿易教室～ 公益社団法人横浜貿易協会	30
13	みなとみらい線お仕事体験 横浜高速鉄道株式会社	32

【科学・技術】

14	一個の石けんから地球環境を考える 太陽油脂株式会社	33
15	キミだけのホームページをつくろう♪わくわくホームページ大作戦！ 株式会社 LOCAL JAPAN	35
16	クルマのロボットを動かしてみよう！ マツダ株式会社 マツダ R&D センター横浜	36
17	ロボットとパネルでプログラミングを楽しもう！ 株式会社 ICON	37
18	わくわく♪こどもプログラミング教室 学校法人岩崎学園 情報科学専門学校	40
19	世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう！ 株式会社タスクフォース	42
20	知るって楽しい科学の絵本!! 手作り工作遊んじゃおう。 明治学院大学 読み聞かせサークル おはなしポップコーン	43
21	太陽光パネルと蓄電池で安心の生活を学ぼう 株式会社アイエーエナジー	45
22	脱炭素社会実現に役立つバイオマス発電所の仕組みを学ぼう！ 三菱重工パワーアイナンドストリー株式会社	47

23	化学を使って犯人をさがそう！～化学実験体験～ 横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用分析技術班	48
24	モノづくりを体験しよう！～リモコンカーをつくろう～ 横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用加工技術班	50

【環境・自然】

25	SDGs チャレンジ！車の廃パーツでワクワク工作体験！ 株式会社アップガレージグループ	52
26	「下水道」ってなあに？水はどこから来てどこへ行くのかな？ 管清工業株式会社（横浜 MLG 包括 JV）	54
27	ごみ処理の仕組みやお仕事の内容について学ぼう！ 横浜市資源循環局旭工場	55
28	動物愛護センターのお仕事を学ぼう！ 横浜市動物愛護センター	56
29	夏休み石の勉強会 神奈川鉱物研究会	57
30	ごみ処理のお仕事にチャレンジ！ 横浜市資源循環局金沢工場	58
31	不要になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！ 武松商事株式会社	59
32	ごみ・資源物のゆくえ探検 横浜市資源循環局鶴見工場	60
33	気象予報士といっしょにお天氣について学ぼう！ よこはま気象予報士サークルひまわり	61
34	みつばち王国の秘密を探ろう！養蜂家のお仕事体験 ヤッピーみんなのカフェ 戸塚みつばち倶楽部	62
35	水と野菜のふるさと 道志村と昭和村を体験しよう！ 横浜市政策経営局広域行政課／横浜市水道局広報課／山梨県道志村／群馬県昭和村	63

【金融・経済】

36	おこづかい、上手に使えてる？～親子で学ぶおこづかい使い方教室 横浜市経済局消費経済課・横浜市消費生活総合センター	64
37	投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム 株式会社三井住友銀行 <u>金沢文庫支店</u>	66

38	投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム	67
	株式会社三井住友銀行 <u>上大岡支店</u>	
39	投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム	68
	株式会社三井住友銀行 <u>港南台支店</u>	
40	投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム	69
	株式会社三井住友銀行 <u>戸塚支店</u>	
41	キッズ・マネースクール	70
	横浜信用金庫	
42	子どもアドベンチャーカレッジ 2025～お金のおもさを感じよう！～	72
	株式会社神奈川銀行	
43	日銀の仕事にチャレンジ！	73
	日本銀行横浜支店	
44	コールセンターお仕事体験！もしも自動車事故がおきたら？	75
	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	

【議会・政治】

45	議事堂探検！議員を体験！	77
	横浜市会議会局政策調査課	

【芸術・哲学・デザイン】

46	キャラクターデザイナーになってみよう！	78
	Craft for Kids	
47	誰もが天才画家！色の魅力を体感しよう	79
	お絵描き工房 光	
48	『?(ハテナ)』をめぐる冒険～子どものための哲学カフェ～	80
	アートの時間	
49	キッズディレクター！ グループで動画制作をしよう！	81
	特定非営利活動法人キッズディレクター	
50	子どもも大人も楽しめる「遊び」をデザイン・企画しよう	82
	関東学院大学 佐々ゼミナール	

【国際理解・文化・歴史】

51	戦後80年 こどもたちが見た戦争と感じた平和	84
	横浜市健康福祉局援護対策担当	

52	「めざせ！お箸マイスター」～箸を作って、使って、考えよう～ NPO 法人 みんなのお箸プロジェクト	86
53	多目的ホールの裏側を見てみよう！ ボッシュ ホール（都筑区民文化センター）	90
54	一日子どもアドベンチャーカレッジ留学体験 横浜市国際学生会館	91
55	横浜にある国際機関の仕事を知ろう！／エチオピア人留学生のアフリカ紹介 横浜市国際局	96

【サービス・食・販売】

56	オートバックスのお仕事を体験しよう！ 株式会社アイエー スーパーオートバックス横浜ベイサイド	101
57	ホテルシェフと一緒に「五味五感」を学び、調理＆試食を楽しもう 一般社団法人全日本司厨士協会関東総合地方本部神奈川県本部	102
58	保育業界に向けた SDGs 事業開発にチャレンジ～床材や照射器に触れてみよう～ 株式会社エコテック	104
59	エバラ研究員が教える！五感体験ラボ「味わい」を体験しよう！ エバラ食品工業株式会社	105
60	音楽ホールのお仕事を体験しよう！ 横浜みなとみらいホール（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	106
61	ホールのお仕事探検ツアー 横浜市緑区民文化センターみどりアートパーク	107

【スポーツ】

62	お腹の健康×スポーツ ガットフレイルを身に付けよう！ 横浜 FC／一般社団法人日本ガットフレイル会議	108
63	デュアルキャリアの選手を他己紹介する YG プロジェクト！ 横浜 GRITS	110
64	まちとクラブをつなぐ！地域を元気にするアイディアを考えよう 横浜エクセレンス	111
65	イーグルスのオリジナルグッズを作ろう！ 横浜キヤノンイーグルス	113

【税】

- 66 知ってる？税金がつくるみんなのまち 114
横浜市租税教育推進協議会

【図書館・博物館】

- 67 「科学」ってなんだ？ 115
はまぎん こども宇宙科学館
- 68 夏休み一日図書館員 116
横浜市神奈川図書館
- 69 図書館のお仕事体験をしよう！ 117
男女共同参画センター横浜
- 70 学芸員の仕事を体験してみよう！ 118
横浜人形の家
- 71 博物館を取材して新聞にしよう！ 119
ニュースパーク（日本新聞博物館）
- 72 点字ワークショップ「バースデータカードを作ろう！」 120
横浜市中央図書館

【福祉】

- 73 ケアプラザを知って大学生とスライムづくりをしよう！ 121
横浜市六角橋地域ケアプラザ
- 74 福祉のお仕事ワクワク体験 122
特別養護老人ホーム 芙蓉苑
- 75 おじいちゃん・おばあちゃんをよく知ろう！ 124
ニチイ学館 ニチイケアセンター戸塚柏尾
- 76 ヘルプマークを持つ人たちを助けるために明日からできること 127
特定非営利活動法人ピュアスマイルスタジオ

【保育・子育て】

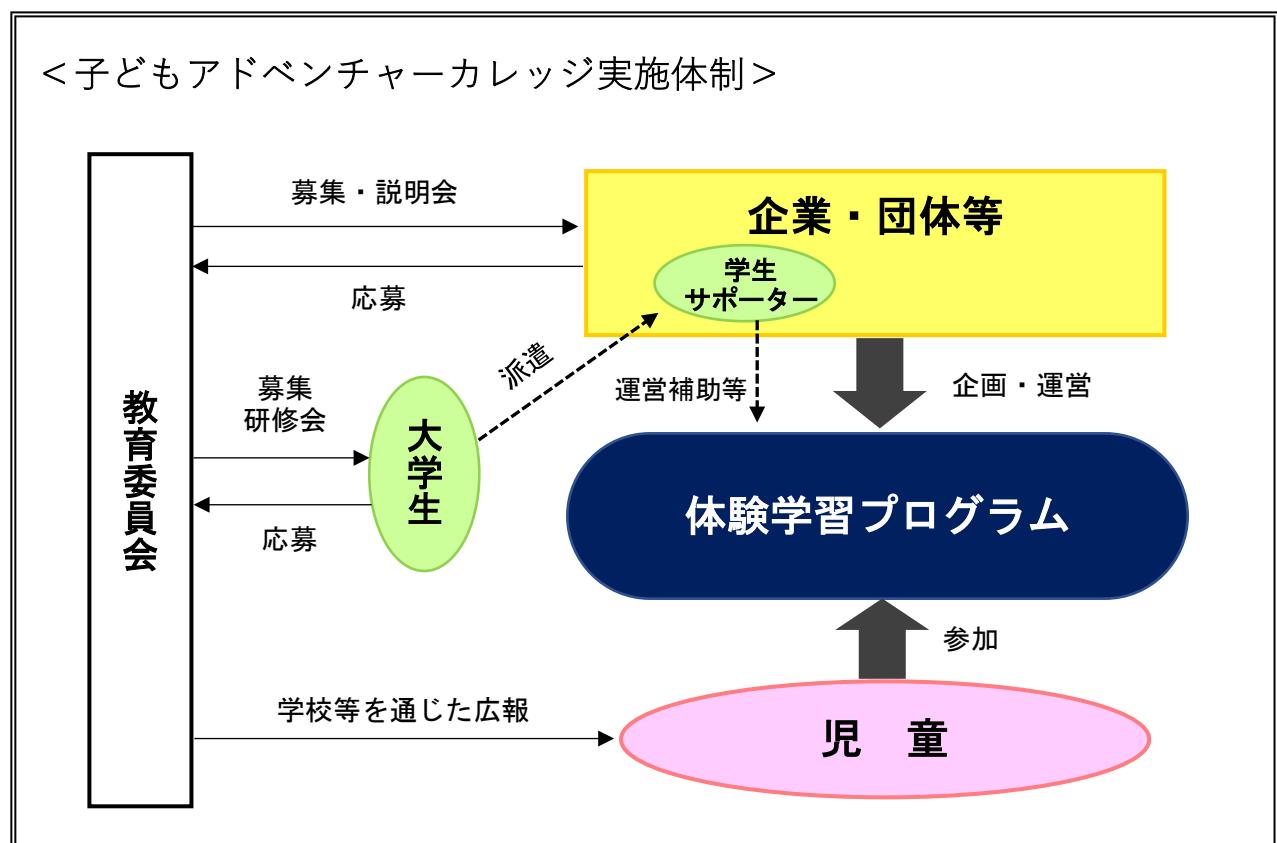
- 77 赤ちゃん人形の抱っこ、お着替え、妊婦体験など子育てプチ体験 128
青葉区地域子育て支援拠点ラフル／ラフルサテライト
- 78 赤ちゃんのお世話を体験したり、小さい子たちと遊ぼう 129
泉区地域子育て支援拠点すきっぷ
- 79 赤ちゃんのお世話や抱っこを体験してみよう！ 131
戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽／とっとの芽サテライト

80	赤ちゃんのお世話体験・入門編！ 西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート	133
81	保育園の子どもたちに絵本を読んでみよう！ NPO 法人 Small Step（すもーるすてっぷ保育園）	135
 【まちづくり・建築・防災】		
82	まちを元氣にするイベント企画のお仕事体験 大神商店会	137
83	もし学校にいるとき、大地震が来たら？地震への備えを学ぼう！ 横浜市消防局予防部横浜市民防災センター	138
84	アイデアを生み出してみよう！お仕事づくり体験プログラム ピクニックスクール（株式会社ピクニックルーム）	139
85	建設のお仕事を体験してみよう！ 一般社団法人横浜建設業協会／横浜建設業青年会／(株)アール・エフ・ラジオ日本	141
86	段ボールで横浜のジオラマをつくって謎ときタイムトリップへ 一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワーク	142
87	ペーパークラフトを使って、まちをデザインしよう！ 横浜市都市整備局景観調整課	144
88	ペーパータワーチャレンジ！ 公益財団法人横浜市建築保全公社	145

I 子どもアドベンチャーカレッジとは

市内の小学生を対象に、「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」と「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供するため、夏休み期間を活用し、民間企業や団体、大学、公的機関（以下、企業・団体等）などの協力を得て、多様な体験学習プログラムを実施します。

また、一部のプログラムでは、横浜市が公募する「学生サポーター」を運営補助役として配置することで、市民活動の新たな担い手として期待される若者の人材育成を図ります。



～ 体験学習プログラムのポイント ～

主体的・対話的で深い学びのきっかけとするため、次の要素を各プログラムに盛り込んでいます。

- ◆ 子どもたちの学ぶ意欲を高めるための講話を実施
(学校で学んだことや体験したことが、現在の仕事や活動にどう生かされているか等)
- ◆ 子どもたちが対話を通じて主体性を高められるよう、グループディスカッションや、体験を通じた気づきや感想を共有する振り返り会など、子どもたちの発言の機会を確保



振り返り会の様子

II 子どもアドベンチャーカレッジ 2025 開催実績

【開催日】令和7年8月5日(火)、6日(水)、7日(木)、8日(金)

【主催】横浜市教育委員会
(事務局：横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課)

【対象者】市内在住または在学の小学3～6年生

【実施場所】市内各所

【参加方法】事前申込制(応募者多数の場合抽選)

【参加費】原則無料(一部プログラムでは、材料費等の実費負担あり)

【プログラム数】88プログラム

【参加児童数】2,343名

【学生サポーター】16名

※プログラムにより、日時・場所・対象学年・定員が異なります。

詳細は、各プログラムの報告書をご覧ください。

1 プログラム実施者（企業・団体等）の募集

(1) 募集期間

令和7年2月17日(月)～令和7年3月19日(水)

(2) 参加者説明会

令和7年5月20日(火)オンライン開催

- ・プログラム実施上の注意、緊急時の対応、募集に関する注意事項など
- ・運営マニュアル配付

2 学生サポーターの募集

(1) 募集期間

令和7年5月1日(木)～令和7年6月1日(日)

(2) 学生サポーターオンライン説明会

令和7年5月27日(火)オンライン開催

(3) 活動内容

① 学生サポーター研修会1

令和7年6月11日(水)市庁舎にて開催

- ・社会人マナーの学習
- ・電話の練習
- ・個人目標を設定(ワーク)

② 学生サポーター研修会 2

令和 7 年 7 月 1 日（火）市庁舎にて開催

- ・派遣プログラム先とやり取りした内容の共有（グループワーク）
- ・子どもの言葉を引き出すコミュニケーション・スキルの習得（グループワーク）
- ・子どもへの接し方について目標を設定、意気込みを共有

③ 学生サポーター研修会 3

令和 7 年 7 月 31 日（木）オンライン開催

- ・本番直前の不安を解消するための意見交換等

④ 企業・団体との事前個別打合せ

⑤ プログラムの運営補助（当日）

- ・会場誘導、受付、記録
- ・グループディスカッションや振り返り会の進行
- ・小学生の体験活動のサポート

⑥ 学生サポーター振り返り会

令和 7 年 8 月 19 日（火）市庁舎にて開催

- ・研修会 1 で設定した個人目標の振り返り
- ・気付きや感想を共有

3 プログラム参加者（児童）の募集

(1) 募集期間

令和 7 年 6 月 19 日（木）～令和 7 年 7 月 4 日（金）

(2) 周知方法

- ・すぐーる（家庭と学校の連絡システム）を活用した情報発信
- ・横浜市ウェブサイトや各企業・団体ウェブサイトによる情報発信
- ・市内の区役所及び図書館にてチラシ配架

(3) 申込者数

8,615 人

(4) 当選者数

3,001 人

夏休み体験学習プログラム
子どもアドベンチャーカレッジ 2025

参加者大募集!

開催日 8/5(火) 6(水) 7(木) 8(金)

会場 横浜市内各所

※詳細はウェブサイトをご覧ください

横浜市教育委員会と民間企業や団体、大学、公的機関などが連携して、多様な体験学習プログラムを実施します。

対象 市内在住または在学の小学3~6年生

申込期限 令和7年7月4日(金)17時まで

※実施内容はプログラムにより異なります。
(開催日時、募集学年、材料費、入場料 等)
詳細は各プログラムの実施団体へお問い合わせください。

詳細は横浜市ウェブサイトをご覧ください。
子どもアドベンチャーカレッジ2025

※気象状況等により、内容変更や中止となる場合があります。

4-2 広報用チラシ（2面）

プログラム				企業・団体等 名称	会場 (区)	プログラム				企業・団体等 名称	会場 (区)
医療	1	公立病院のお仕事体験 ～命を支えるプロフェッショナルを知ろう～	横浜市立脳卒中・ 神経脊椎センター	磯子	科学 技術	18	わくわく♪こどもプログラミング教室	学校法人岩崎学園 情報科学専門学校	神奈川		
	2	医療のお仕事を体験しよう	医療法人財團 慈啓会大口東 総合病院	神奈川		19	よながへんり 世の中を便利にする コンピュータのお仕事を学ぼう！	株式会社 タスクフォース	港北		
医療	3	ドキドキワクワク！ 看護のチャレンジ&探検ツアー	横浜市立大学 医学部看護学科	金沢	科学 技術	20	たのかく 知るって楽しい科学の絵本!!	明治学院大学 読み聞かせサークル おはなしポップコーン	戸塚		
	4	漢方ってどんなもの？ クイズとゲームで楽しく学ぶ 漢方のせかい	ジェーピーエス 製薬株式会社	港北		21	太陽光パネルと蓄電池で安心の 生活を学ぼう	株式会社 アイエーエナジー	戸塚		
医療	5	カラダの音ってどんな音？ 看護のお仕事を体験してみよう！	独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター 附属横浜看護学校	戸塚	科学 技術	22	脱炭素社会実現に役立つ バイオマス発電所の仕組みを学ぼう！	三井重工 パワインダストリー 株式会社	中		
	6	お医者さんが手術で使う 道具を触って体験してみよう	株式会社 バイオラックス メディカルデバイス	戸塚		23	化学を使って犯人をさがそう！ ～化学実験体験～	横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用分析技術班	保土ヶ谷		
医療	7	みんなを元気に！ からだをまもるお仕事、大発見！	湘南医療大学	戸塚	科学 技術	24	モノづくりを体験しよう！ ～リモコンカーをつくろう～	横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用加工技術班	保土ヶ谷		
	8	インビザライン矯正デジタル デザインワークショップ！	アライン・テクノロジー・ ジャパン・トリート 合同会社	西		25	SDGsチャレンジ！ 車の扉パーツでワクワク工作体験！	株式会社 アップガレージ グループ	青葉		
医療	9	看護やリハビリのお仕事を 体験してみよう！	昭和医科大学 保健医療学部	緑	環境 自然	26	『下水道』ってなあに？ 水はどこから来てどこへ行くのかな？	賤機工業株式会社 (横浜MLG包括JV)	旭		
	10	市電保存館で、ジオラマ 運転ショーの操作をしてみよう！	横浜市電保存館	磯子		27	ごみ処理の仕組みやお仕事の 内容について学ぼう！	横浜市資源循環局 旭工場	旭		
運輸 物流	11	シーサイドライン車両基地を 探検しよう！	株式会社 横浜シーサイドライン	金沢	科学 技術	28	動物愛護センターのお仕事を学ぼう！	横浜市 動物愛護センター	神奈川		
	12	コンテナを近くで見てみよう！ ～夏休み子ども貿易教室～	公益社団法人 横浜貿易協会	中		29	夏休み石の勉強会	神奈川県物研究会	神奈川		
運輸 物流	13	みなとみらい線お仕事体験	横浜高速鉄道 株式会社	西	科学 技術	30	ごみ処理のお仕事にチャレンジ！	横浜市資源循環局 金沢工場	金沢		
	14	一個の右けんから地球環境を考える	太陽油脂株式会社	神奈川		31	不要になった素材で工作しよう！ アップサイクル体験！	武松商事株式会社	金沢		
科学 技術	15	キミだけのホームページをつくろう♪ わくわくホームページづくり大作戦！	株式会社 LOCAL JAPAN	神奈川	科学 技術	32	ごみ・資源物のゆくえ探検	横浜市資源循環局 鶴見工場	鶴見		
	16	クルマのロボットを動かしてみよう！	マツダ株式会社 マツダR&Dセンター 横浜	神奈川		33	気象予報士といっしょに お天気について学ぼう！	よこはま気象予報士 サークルひまわり	戸塚		
科学 技術	17	ロボットとハネルでプログラミングを 楽しもう！	株式会社ICON	神奈川	科学 技術	34	みつば王国の秘密を探ろう！ 養蜂家のお仕事体験	ヤッピー みんなのカフェ 戸塚みつばち 俱楽部	戸塚		

4-3 広報用チラシ（3面）

プログラム		企業・団体等 名称	会場 (区)	プログラム		企業・団体等 名称	会場 (区)	
環境・自然	35	みさと みやまち 水と野菜のふるさと 道志村と昭和村を体験しよう！	横浜市政策経営局 広域行政課／ 横浜市 水道局広報課／ 山梨県道志村／ 群馬県昭和村	中	51	ほんご ほんじ 戦後80年 こどもたちが見た戦争と感じた平和	横浜市健康福祉局 振興対策担当	港南
	36	じょうず つか おこづかい、上手に使えて？ ～親子で学ぶおこづかい使い方教室～	横浜市経済局 消費経済課・ 横浜市消費生活 総合センター	港南	52	ほし 「めざせ！お着マイスター」 ～着を作つて、使って、考えよう～	NPO法人 みんなのお着 プロジェクト	栄 戸塚
	37	とうし せんたく かね じゅぎょう 投資という選択(お金の授業)・ とうし たいけん 投資体験ゲーム	株式会社 三井住友銀行 金沢文庫支店	金沢	53	たもじて うらわ 多目的ホールの裏側を見てみよう！	ポッシュホール (都筑区民文化 センター)	都筑
	38	とうし せんたく かね じゅぎょう 投資という選択(お金の授業)・ とうし たいけん 投資体験ゲーム	株式会社 三井住友銀行 上大岡支店	港南	54	いちにち 一日子どもアドベンチャーカレッジ りゅうがくいん 留学体験	横浜市国際学生会館	鶴見
	39	とうし せんたく かね じゅぎょう 投資という選択(お金の授業)・ とうし たいけん 投資体験ゲーム	株式会社 三井住友銀行 港南台支店	港南	55	よこはま ・横浜にある国際機関の仕事を知ろう！ じりきょうかせい ・エチオピア人留学生のアフリカ紹介	横浜市国際局	西
	40	とうし せんたく かね じゅぎょう 投資という選択(お金の授業)・ とうし たいけん 投資体験ゲーム	株式会社 三井住友銀行 戸塚支店	戸塚	56	しごと たいりん オートバックスのお仕事を体験しよう！	株式会社アİYEー スバーオートバックス 横浜ベイサイド	金沢
	41	キッズ・マネースクール	横浜信用金庫	中	57	いつしょ ホテルシェフと一緒に「五味五感」を まな もより 学び、調理＆試食を楽しもう	一般社団 全日本司厨士協会 関東総合地方本部 神奈川県本部	港南
	42	子どもアドベンチャーカレッジ2025 ～お金のめざさを感じよう！～	株式会社 神奈川銀行	中	58	ほいくあい むけ じげうへつけ 保育業界に向けたSDGs事業開発に むかへ くわく ふ チャレンジ～床材や照射器に触れてみよう～	株式会社エコテック	港北
	43	にぎさん しごと 日銀の仕事にチャレンジ！	日本銀行横浜支店	中	59	じんせうじゆうぶん おじ エバラ研究員が教える！ ごんないくわん 五感体験ラボ「味わい」を体験しよう！	エバラ食品工業 株式会社	西
	44	しごとたいりん コールセンターお仕事体験！ じきしゃじけん もしも自動車事故がおきたら？	あいおいニッセイ 同和損害保険 株式会社	西	60	ひんがく 音楽ホールのお仕事を体験しよう！	横浜みどりみらい ホール (公益財団法人横浜市 芸術文化振興財団)	西
議会・政治	45	だいじ じこうさん 議事堂探検！議員を体験！	横浜市議会局 政策調査課	中	61	しことさんけん ホールのお仕事探検ツアー	横浜市緑区民 文化センター みどりアートパーク	緑
	46	キャラクターデザイナーになつてみよう！	Craft for Kids	港南	62	お腹の健康×スポーツ ガットフレイルを身に付けよう！	横浜FC 一般社団法人 日本ガットフレイル会議	中
	47	だれ 誰もが が 才能！ いろ 色の魅力を体感しよう	お絵描き工房 光	戸塚	63	せんしゅ デュアルキャリアの選手を たこひがい かれい 他己紹介するYGプロジェクト！	横浜GRITS	中
	48	ぼうけん 『? (ハテナ)』をめぐる冒険 でがく ～子どものための哲学カフェ～	アートの時間	戸塚	64	まちとクラブをつなぐ！ あい ほんき 地域を元気にするアイディアを考えよう	横浜エクセレンス	中
	49	キッズディレクター！ ぐるーで動画制作をしよう！	特定非営利活動法人 キッズディレクター	中	65	イーグルスの オリジナルグッズを作ろう！	横浜キヤノン イーグルス	中
	50	こどもたち 子どもも大人も楽しめる「遊び」を デザイン・企画しよう！	関東学院大学 佐々美ゼミナール	中	66	し 知ってる？税金がつくみんなのまち	横浜市租税教育 推進協議会	中



4-4 広報用チラシ（4面）

	プログラム	企業・団体等 名称	会場 (区)		プログラム	企業・団体等 名称	会場 (区)
図書館・博物館	67 「科学」ってなんだ？	はまぎん こども宇宙科学館	磯子	保育・子育て	79 赤ちゃんのお世話や抱っこを 体験してみよう！	戸塚区地域子育て 支援拠点 ととの芽 ととの芽サテライト	戸塚
	68 なつやす いちにちじょかんいん 夏休み一日図書館員	神奈川図書館	神奈川		80 赤ちゃんのお世話体験・入門編！	西区地域子育て 支援拠点 スマイル・ポート	西
	69 どじょかん しごとないけん 図書館のお仕事体験をしよう！	男女共同参画 センター横浜	戸塚		81 ほいくえん こ 保育園の子どもたちに 絵本を読んでみよう！	NPO法人Small Step (すもるすっぷ保育園)	南
	70 がくいん しごと たいけん 学芸員の仕事を体験してみよう！	横浜人形の家	中		82 まちを元気にするイベント企画の お仕事体験	大神商店会	神奈川
	71 ほくがん しゅさい しんぶん 博物館を取材して新聞にしよう！	ニュースパーク (日本新聞博物館)	中		83 もし学校にいるとき、大地震が来たら？ 地震への備えを学ぼう！	横浜市消防局 予防部横浜市民 防災センター	神奈川
	72 てんじ 点字ワークショップ 「バースデーカードを作ろう！」	中央図書館	西		84 アイデアを生み出してみよう！ お仕事づくり体験プログラム	ピニックスクール (株式会社ピニッケーレム)	中
	73 ケアプラザを知って大学生と スライムづくりをしよう！	横浜市六角橋 地域ケアプラザ	神奈川		85 建設のお仕事を体験してみよう！	一般社団法人横浜建設協会/ 横浜建設青年会/ (株)アルエフ・ラジオ日本	中
	74 ふくし しごと たいけん 福祉のお仕事ワクワク体験	特別養護老人 ホーム 芙蓉苑	港南		86 段ボールで横浜のジオラマをつくって 眺ときタイムトリップへ	一般社団法人 防災ジオラマ 推進ネットワーク	中
	75 おじいちゃん・おばあちゃんを よく知ろう！	ニチイ学館 ニチイケアセンター 戸塚柏尾	戸塚		87 ペーパークラフトを使って、 まちをデザインしよう！	横浜市都市整備局 景観調整課	中
	76 ヘルプマークを持つ人たちを 助けるために明日からできること	特定非営利活動法人 ビュースマイル スタジオ	中		88 ペーパータワーチャレンジ！	公益財団法人 横浜市建築保全公社	中
保育・子育て	77 あか にんぎょう だ 赤ちゃん人形の抱っこ、お着替え、 にんべんいん こそだ 妊娠体験など子育てチチ体験	青葉区地域子育て 支援拠点ラフル ラフルサテライト	青葉				
	78 あか せわ たいけん 赤ちゃんのお世話を体験したり、 ちい こ あそ 小さい子たちと遊ぼう	泉区地域子育て 支援拠点すきっぷ	泉				

詳細は横浜市ウェブサイトをご覧ください。

子どもアドベンチャーカレッジ2025



熱中症予防にご協力ください

- 体調がすぐれないときは無理して参加しないでください。
- 飲み物を持参し、こまめに水分補給を行ってください。
- 通気性のよい服装や日よけ帽子をかぶるなど、暑さ対策に工夫をお願いします。
- 体験中に具合が悪くなったときはすぐにスタッフに声をかけてください。



横浜市教育委員会事務局 生涯学習文化財課

TEL:045-671-3282 E-mail:ky-adventure@city.yokohama.lg.jp

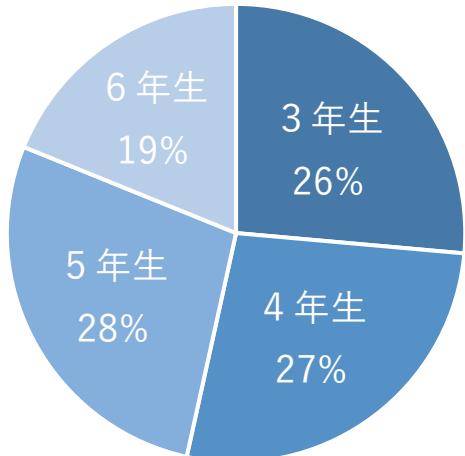
※プログラム内容については、各プログラムの実施団体にお問い合わせください。※プログラム以外のイベント全般については、横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課へ。

お問合せ

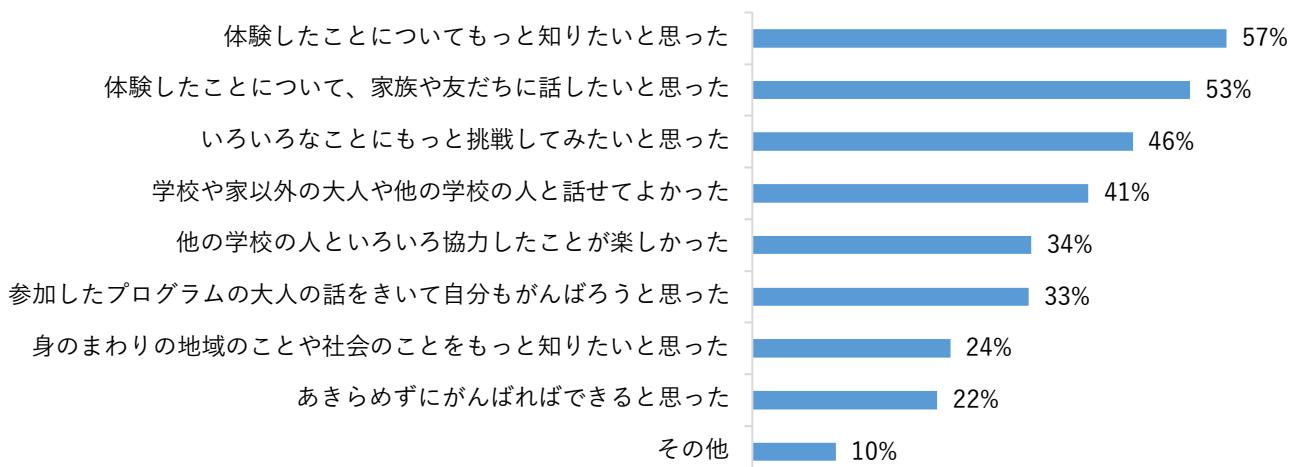
III 子どもアドベンチャーカレッジ 2025 アンケート結果

1 参加者向けアンケート（回答数：318）

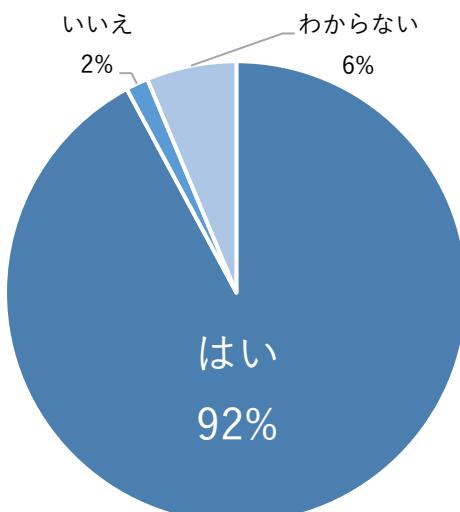
(1) 回答者の属性（学年）



(2) プログラムに参加した感想（複数選択可）



(3) 来年も参加したいですか。

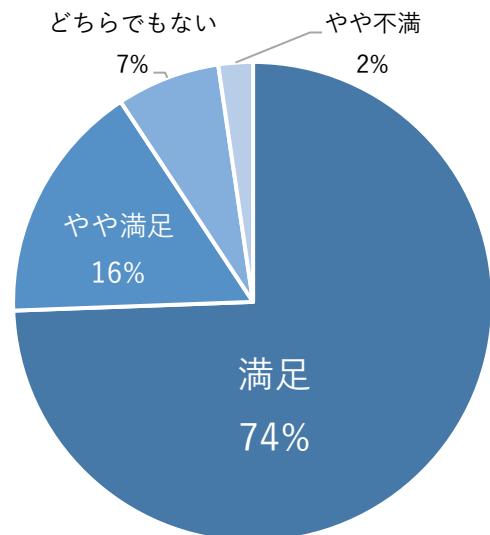


(4) 自由意見（抜粋）

- ・自分で考え行動し、何かをやり抜く貴重な経験ができた。
- ・学校での学びとは異なる、大きな学びになった。
- ・保護者抜きで、学生と子どもたちだけで取り組む企画がとても良かった。
- ・楽しめる自己紹介→作業→改善の話し合いという流れが、ただ遊ぶだけじゃなくとても良かった。
- ・自分が興味を持っていることについて子どもの頃に体験が出来るのはとてもいい。
- ・子どもは帰宅してから興奮冷めやまぬ。夕飯も食べずにずっとずっと語り続けていた。プログラムの内容に興味を持ち、それ関連の書物ばかり読み始めた。
- ・対応していただいた社員の方々は、子ども目線に立ち、わかりやすく親切だった。
- ・学生が子どもたちと優しく会話してくれたお陰で、リラックスして楽しくプログラムに参加出来た。

2 企業・団体等向けアンケート（回答数：86）

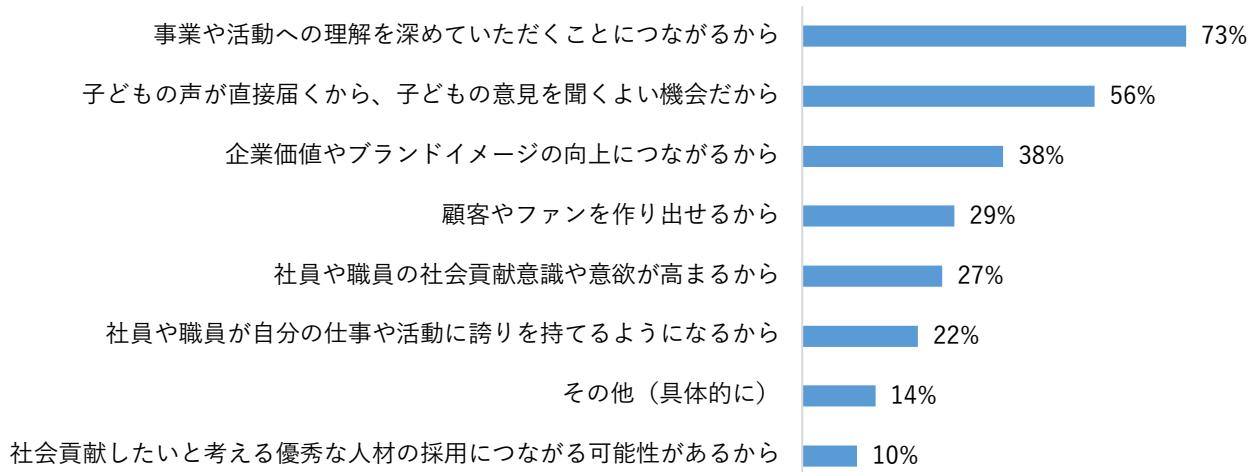
(1) 本事業参加への総合的な満足度



【理由（自由記述、抜粋）】

- ・参加した児童から面白かったとかためになったという前向きな感想が多く聞けた。
- ・運営に携わった学生たちの貴重な経験、成長に繋がったため。
- ・自社の事業内容について、体験しながら楽しく学んでいただける貴重な機会。
- ・子どもたちと触れ合う貴重な機会であり、会社の地域貢献活動のひとつになっている。社内でもやりがいを感じるという声が出ている。
- ・猛暑の影響もあり当日のキャンセルが多かったことが残念だった。
- ・全員を受付してから抽出して、改めて連絡するという流れがとても煩雑だった。

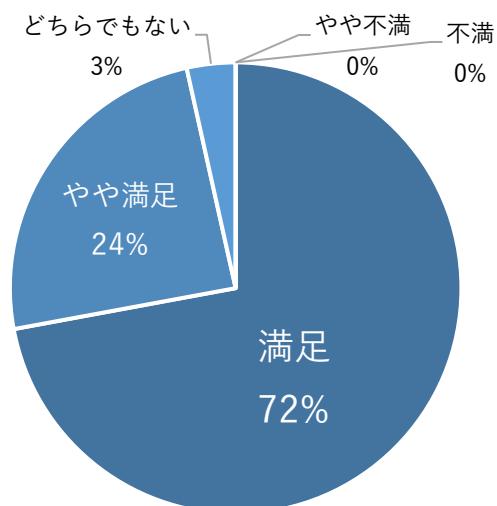
(2) 本事業参加の目的（複数回答可）



【「その他」を選んだ理由】

- ・大雨被害、落雷、河川の増水や家屋への浸水などの気象災害が発生した時、どのような行動をとるべきか子どもも学ぶべきと考えたから。
- ・地域に住んでいる妊婦や子育て世代を、小学生でも応援できる気持ちを育むため。
- ・高齢社会での共生の意味を教えたかった。
- ・職員だけでなく、運営に携わる学生の学び、貴重な経験になるとを考えたから。

(3) 本事業参加の目的の達成度



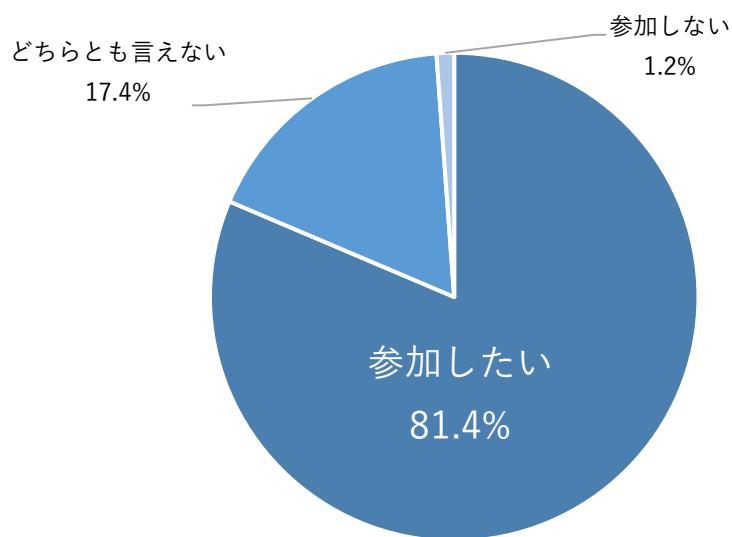
【理由（自由記述、抜粋）】

- ・事業認知のきっかけとなり、来年の開催希望もいただくことができた。
- ・参加した社員全員が回を重ねるごとに、次はこうしたら良くなりそうと改善を重ねながらできたことで、仕事に対する意識も変わった。
- ・認知度向上・新規ファン獲得を目的として参加したが、すでに自社を知っている方の参加が多く、想定している目的を達成できていない。

(4) 学生サポーター受入れについて（評）（学生サポーター受入れ企業・団体のみ回答）

- ・子どもたちを上手に誘導したり、話しかけたりしている様子が心強かった。保護者にもプログラム内容を説明し、笑顔でイベントをスタートしてくれた。
- ・指示を待つのではなく、積極的にコミュニケーションを取り動いてくれた。
- ・業務をしっかり理解し実施してくれた。細かいことをお願いしなくとも、自分なりに考えて動いてくれている部分は素晴らしいと感じた。
- ・タイムマネジメントを自身の判断でやり切ってくれた。
- ・意欲もあり、研修を受けて自分なりにディスカッションの企画をしてくれた。
- ・振り返り会の内容をどのようにしたら良いか等、一生懸命考えて進行してくれた。
- ・児童にとっても、自分たちに近い世代がいることはよかったと思う。

(5) 次回の参加意向

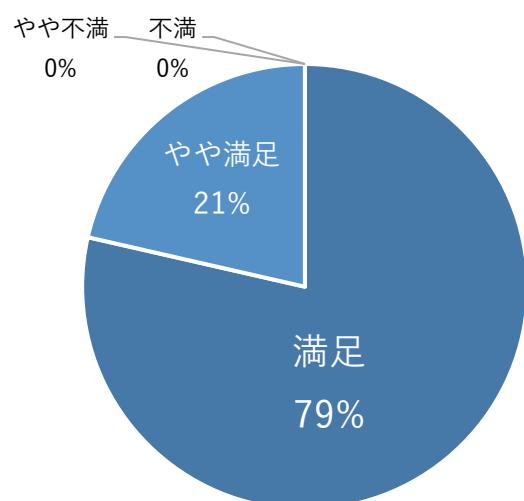


【理由（自由記述、抜粋）】

- ・子どもたちの笑顔を見るたびにやってよかったと思えるため。
- ・今後も地域の小学生や企業に喜ばれる活動を行いたい。
- ・団体独自で集めた学生スタッフの成長にも繋げることができるため。
- ・自社の業務に興味を持っていただききっかけ作りとなるため。
- ・地域貢献にも繋がるとともに、自社を身近に感じていただける機会でもある。
- ・参加してくれた子どもたちだけでなく、団体にとっても大変有意義な場である。
- ・単独で実施するイベントと比べて、告知を目にしてくれる人が圧倒的に多い。
- ・業務分担やスケジュールを考えた上で決定するため、どちらとも言えない。
- ・開催時期の関係でなかなか人員確保が難しい。

3 学生サポーター向けアンケート（回答数 14）

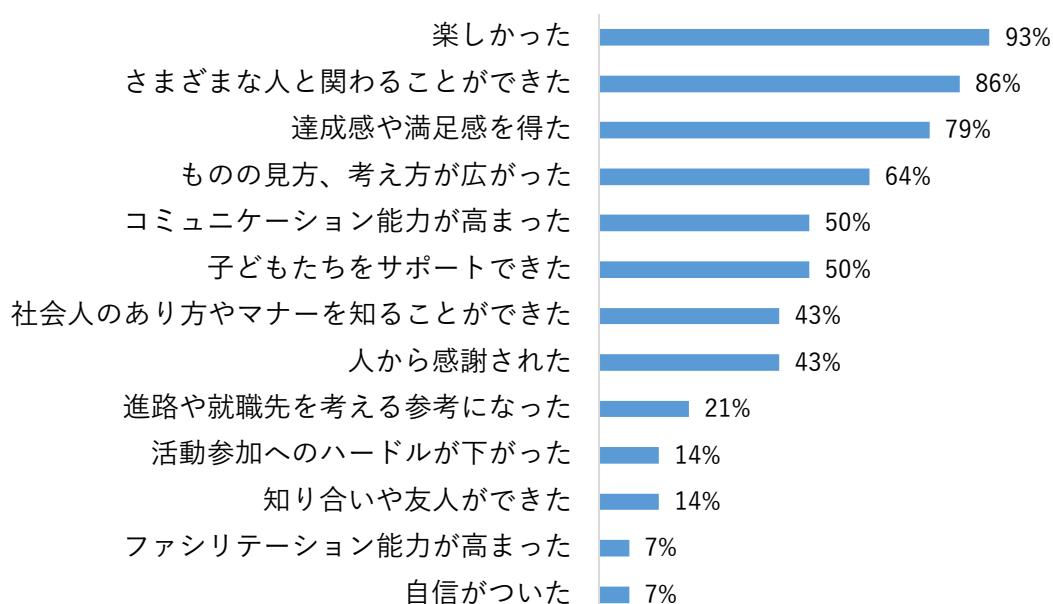
(1) 総合的な満足度



【理由（自由記述、抜粋）】

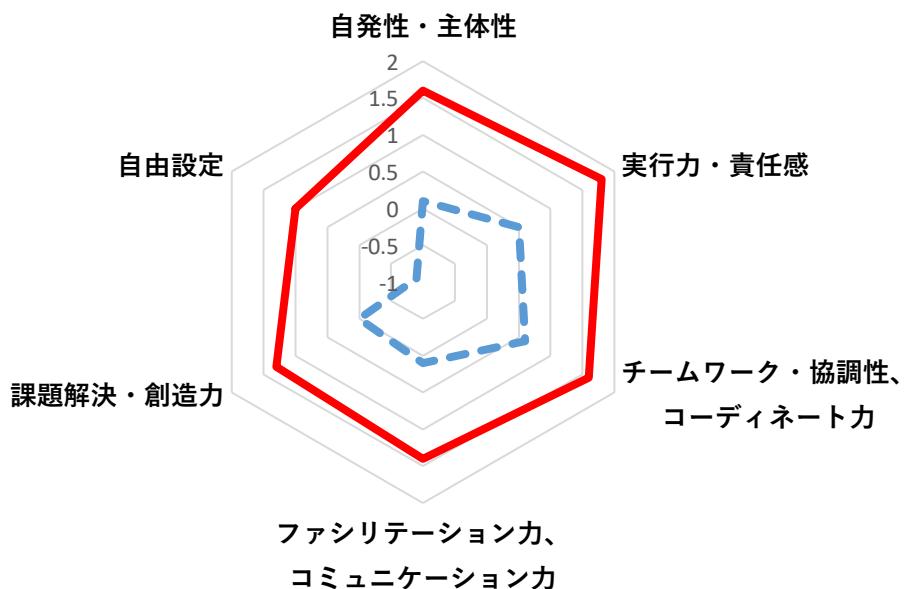
- 今まで司会や大人と活動することがなかったため、いい経験になった。
- 学生サポーター同士の共有や企業の方との打ち合わせを経て、当日子どもたちが楽しそうに参加してくれたことすごく達成感を得られた。
- 悔いが残る点もあったが、自分なりの成長を実感することが出来た。
- 夢中で取り組む子どもたちの様子に、昔の自分を重ねて温かい気持ちになった。
- 新しいことに挑戦するよい機会になった。
- 参加理由である「社会経験を積む」ということができた。
- 電話のマナー研修などこれから役立ちそうな知識を得られて嬉しかった。

(2) 本事業に参加してよかったです（複数選択可）



(3) 【学生サポーター研修会で実施】個人目標シート結果（提出 15 名平均）

--- 実施前（6/11 研修会 1）
— 実施後（8/19 振り返り会）



<自由設定した目標>

臨機応変に行動する力、対話力、企画力、計画力、決断力、洞察力、自己理解、自己管理能力、電話対応 など

【学生サポーター研修会 2 ワークから抜粋】

Q. 子どもにステキな1日をプレゼントするために、あなたは何をしますか？

- できるだけ子どもたちに明るい声掛けや接し方をし、楽しい雰囲気づくりを心掛ける。
- 自ら実践すること、発言することをほめて自信につなげて、学校でも続けていけるようしたい。
- 適度に手助けし、「自分でやった」という達成感を感じてもらう。
- 困っているのだったり、ひとりぼっちで孤独な雰囲気だったりする子どもがいたら、すぐ声をかけたい。
- 自分も人見知りなので、そんな子にも寄り添って対応する。
- 反応、発言するときは、必ず子どもがどんなふうに思っているか考えてから行動する。
- ゆっくり話して、分かりやすいようにする。
- 熱中症になる子が出ないように、皆の体調に変化がないか気を配り、こまめに水分補給するように声をかける。

IV プログラム実施報告

No.とプログラム名	No. 1 公立病院のお仕事体験～命を支えるプロフェッショナルを知ろう～
企業・団体名	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【磯子区】横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数15人
参加の目的 (150文字程度)	脳卒中・神経脊椎センターは、横浜市立病院として、多くのお子さまに医療や医療従事者を身近に感じてもらいたく参加いたしました。 本体験を通じて、将来、医療の世界で一緒に働きたいと感じるきっかけになれば嬉しく思います。

(1) プログラム内容

病院内の様々な職種の医療従事者が、仕事の内容の紹介や、特色を活かした体験プログラムを実施しました。

(2) 当日の流れ

時間	内容
13時00分～13時15分	集合・着替え・病院長からのお話・写真撮影
13時20分～16時10分	各部署でのお仕事体験（A・Bコース各2班でローテーション） ・Aコース 栄養部、薬剤部、リハビリテーション部 ・Bコース 画像診断部、検査部、臨床工学部 ・共通 看護部、医療の質管理室
16時15分～16時30分	振り返り



(3) 参加児童の様子や意見、感想など

- ・電気手術器や画像検査装置など、普段は触れない機械に触ることができて貴重な体験ができた。
- ・初めての環境での体験で、緊張したが薬剤部の一包化やりハビリの車いすに乗れて楽しかった。
- ・栄養部で飲み物のとろみあり・なしを飲み比べたときに、とろみありでも味は変わらないというお友達とまずいというお友達がいて面白かった。
- ・次回は医者のお仕事も体験してみたいと思った。

(4) 企業・団体側の気づきや感想など

- ・各職種での体験を通して、参加者側から自主的に質問が出たり、何度もプログラムに挑戦する姿が印象的で、参加者の興味や関心が非常に高いことが伺えました。
- ・当日の感想をまとめてもらった時間では、みんな筆が止まらず、感じたことを一生懸命文章にまとめてくれていました。私たちにとっても大変励みになった一日でしたが、参加者の皆さんにとっても有意義な一日になっていたようで大変嬉しく思います。
- ・将来医療従事者を目指すかもしれない子ども達へ、医療のおもしろさや大切さを伝えていくことも、病院ではたらく私たちの大切な仕事の一つだと改めて感じました。

No.とプログラム名	No. 2 医療のお仕事を体験しよう
企業・団体名	医療法人財団慈啓会 大口東総合病院
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【神奈川区】大口東総合病院 講義室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数13人
参加の目的 (150文字程度)	「看護」を中心に、「理学療法士」や「管理栄養士」などの病院での仕事を知ってもらう。実際に医療の仕事を体験してもらい、医療について興味・関心を持ってもらうため、参加いたしました。

当日のプログラム内容

- 9:00～9:20 集合、講義室へ移動、白衣に着替え
 9:20～9:40 病院長、事務長からのお話
 9:40～10:00 看護部長より病院の仕事についてのお話
 10:00～11:20 お仕事体験（理学療法士、管理栄養士、看護師）
 11:20～12:00 体験の感想発表会、質問コーナー

見て・嗅いで・触って！実際に食事を見て体験しました



栄養士：患者さんの食事について



理学療法士：車イス体験

患者さんの気持ちになって体験しました



看護師：AED体験

AEDや心電図、点滴体験や聴診器や血圧測定器など様々な道具を使って体験しました



看護師：心電図体験



看護師：点滴体験

感想発表会

- ・一番勉強になったのが、管理栄養士さんのお話です。患者さんの食事と自分たちが食べている食事の柔らかさとかがこんなに違うということが分かってよかったです。
- ・患者さんの食事を見れたことがよかったです。
- ・緊張したけど、色々な病院の仕事を体験できてよかったです。
- ・病院の仕事に興味を持った。楽しくできてよかったです。
- ・AED の体験を一生懸命やりました。
- ・AED の体験で心臓マッサージをやるのが疲れて大変だったが、良い経験ができた。
自分でも何かあったら声を掛けていきたい。

など

振り返り後の記念撮影

かんごちゃんとみんなで
写真撮影！



No.とプログラム名	No.3 ドキドキワクワク！看護のチャレンジ&体験ツアー
企業・団体名	横浜市立大学医学部看護学科
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【金沢区】横浜市立大学 福浦キャンパス
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数20人
参加の目的 (150文字程度)	看護大学での技術演習の体験や病院内で働く看護師の仕事の見学を通して、地域の子どもたちが医療職に関心を持ち、将来の進路選択に役立てることを目的としました。また、健康や命の大切さについて学ぶ機会を提供し、地域医療への理解を深めることで、医療と地域社会とのつながりを実感してもらうことを目指しました。

① 当日のプログラムの説明

横浜市立大学医学部看護学科と附属病院看護部との連携により実施した。内容は看護学科での「滅菌手袋の着用」「点滴滴下調整」の看護体験、附属病院での「入院サポートセンターと病棟」「救急車」の見学とした。

看護体験や施設見学の前に、大学での看護の学びや感染予防、輸液療法に関する講話を受講した。その後、5~6人のグループに分かれて、本学の学生ボランティアや看護教員、附属病院の看護師と一緒に看護技術の体験や病院内の見学を行い、最後に全員で振り返り会を行った。振り返り会は、体験・見学の感想の共有と、看護学生や看護師への質問の場とした。

② 児童の様子



滅菌手袋の着用



点滴の滴下調整



③ プログラム中の児童の言葉や、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

<プログラム中>

滅菌手袋の着用体験では、滅菌部分を保ちながら手袋を着用することに苦戦しながらも、成功した際には満面の笑みを浮かべ、達成感を味わっている様子が見られた。「難しい」といった声もあったが、手袋を清潔に着用する過程を楽しんでいた。点滴の滴下調整体験では、「滴下速度の計算が難しい」との声も聞かれたが、児童たちは教員や学生の説明に真剣に耳を傾けていた。滴下を調整できた際には、「すごい」という歓声が上がり、生き生きとした表情で滴下速度の違いも体験していた。病院見学では、普段

は見ることのできない病棟を見学できしたことへの喜びや、「病院の仕組みがわかった」といった感想が聞かれた。

<振り返り会>

双向型オンラインコミュニケーションツール「Slido」を用いて感想や質問を共有した。感想や質問には、以下のような内容があった。

◆感想

- ・いろいろな体験をすることができた楽しかったです
- ・大学生が優しく教えてくれたので上手にできました
- ・普段見られない所を見学できてよかったです
- ・点滴のスピードが合った時、嬉しかったです
- ・滅菌手袋がスッとはまったのが嬉しかったです
- ・ますます看護師のお仕事に興味を持ちました

◆質問

- ・大学では今日学んだこと以外に、何を学んだりしますか？
- ・大学にいるときに、一番楽しいことは何ですか？
- ・どうしたらたくさんのこと覚えられますか？
- ・看護師さんとしてのやりがいと大変なことを教えてください
- ・看護師の仕事で一番、達成感があるのはなんですか？

④ 企業・団体の気付きや感想など

看護技術体験は、児童にとって日常生活と看護の知識を結び付けて学べる貴重な機会となった。中には「将来の夢は小児科の看護師」と話す児童もあり、今回の体験がその夢をより具体的にイメージするきっかけになったのではないかと感じるとともに、看護を身近に感じ、より深く知ってもらうきっかけにもなったと思われる。

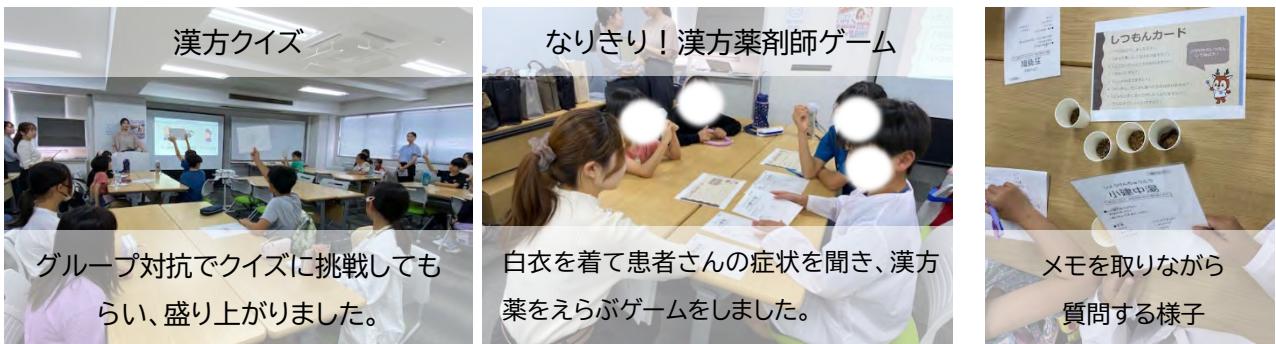
学生ボランティアにとっても、看護の知識や技術を児童が実践できるように伝えることをとおして、自分たちの学びの振り返りの機会とすることができていた。また、児童と関わることが久しぶりだった学生にとっては、看護を通じてコミュニケーションを取ることができたことが楽しく、意義深い体験となつた。

児童に理解できるように説明することの難しさを感じながらも、児童の発達段階や学習状況を踏まえ、資料や口頭での説明の言葉遣いを工夫することができた。点滴や滅菌手袋を見たことがないという児童もいたため、実際に病院で点滴を受けている様子の写真を提示する等、より日常生活と結び付けて考えてもらえるような工夫の必要性も感じた。

No.とプログラム名	No.4 漢方ってどんなもの？クイズとゲームで楽しく学ぶ漢方のせかい
企業・団体名	ジェーピーエス製薬株式会社
実施日	8月5日(火)10:00-12:00、13:00-15:00
会場	【港北区】新横浜ホール2階 第一会議室
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数30人
参加の目的 (150文字程度)	横浜市内の子どもたちに学びのきっかけや考える機会を提供することで、地域社会に貢献したい。 クイズやゲームを通じて、漢方の面白さや楽しさをもってもらいたい。

【プログラム内容】

- ・漢方について学ぶ
- ・漢方クイズ
- ・なりきり！漢方薬剤師ゲーム
- ・振り返り会



«子どもたちの感想» ※アンケートより抜粋

★また参加したいと思いますか？

→「思う」の回答率: 97%

★漢方クイズをやってみて、おもったこと

・とてもおもしろくてクイズ全問正かいできてとてもうれしかったです。

漢方ってとってもおもしろいんですね。

・自分が知らないことがあって、おもしろい半分びっくりするところもあってよかったです。

★漢方薬剤師なりきりゲームをやってみて、おもったこと

・どんなふうに体調が悪いのか、どこがいたいのかなどを患者さんに聞いて、患者さんにあった薬をえらぶのが大変だったけど楽しかったです。

«企業の感想»

漢方を身近に感じて興味をもってもらうためにクイズや実際の生薬に触れられるプログラムを行いました。

積極的に発言メモをとってくれる児童が多く、楽しんでもらえたのではないかと思います。

こういった体験が子どもたちにとって薬や健康に興味をもつきっかけになれば幸いです。

No.とプログラム名	No. 5 カラダの音ってどんな音？看護のお仕事を体験してみよう！
企業・団体名	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【戸塚区】独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属横浜看護学校 実習室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数37人
参加の目的 (150文字程度)	看護師の仕事について興味・関心をもつ機会とし、将来看護職を目指す人材を増やすことおよび当校のPR

① 当日のプログラム

- ・白衣の着用
 - ・看護師のお仕事についての説明
 - ・4グループに分かれて看護技術体験
- 新生児の抱き方、点滴の滴下調整、聴診器を使用した心音聴取、車いす乗車・移送

② 写真



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

「難しかった」「覚えることが多くて大変」「同時に色々なことをしている」「命に関わる仕事」と、看護師に求められる知識や技術について実感する一方で、「患者さんに安心してもらえる関わりの大切さ」「相手の立場に立って、思いやりの気持ちが大切」「誰かのことを支え、自分自身も成長できるやりがいのある仕事」など、人と人が関わり合う仕事だからこそこの気づきや学びも多く聞かれた。

④ 企業・団体の気付きや感想など

看護に興味をもつ小学生たちの新鮮な感想や思いを多く聞くことができ、教員としても看護の魅力を再確認する時間となった。

No.とプログラム名	No. 6 お医者さんが手術で使う道具を触って体験してみよう
企業・団体名	株式会社パイオラックスメディカルデバイス
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【戸塚区】株式会社パイオラックスメディカルデバイス 会議室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数31人
参加の目的 (150文字程度)	社会貢献 小学生の子供たちに体験コーナーや工場見学を通じて、ものづくりにおける工夫や大変さを感じてもらい、今後の学びへの意識向上につながり、将来の職業選択について考えるきっかけになればと思い参加しました。

① 当日のプログラム説明

人体のしくみや病気について学び、お医者さん体験コーナーでは実際の手術で使用されている製品に触れたり、作っている工場を見学したりした。

② 児童の様子や学生サポーターの様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・将来、お医者さんになりたいので、実際に使われている製品を触れて勉強になった。
- ・お医者の仕事が道具にも支えられていることがわかった。
- ・テレビの CM 等で名前を聞いたことのない会社でも医療に貢献していることがわかった。
- ・製品が実際に広がったり縮んだりするのが楽しかった。
- ・身体の血管が思っていたより太いのがあって驚いた。
- ・製品がいろいろな治療で使えることを知った。お医者が実際に使っている道具に触ることができて面白かった。
- ・もう少し長く触れる時間を作ってほしかった。
- ・工場見学はもう少し近くで見たかった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

暑い日だったので、熱中症にならないかを意識して、水分補給の回数を多くしました。またエアコンだけでなく急遽、扇風機も回すことで少しでも空調が行き届くように配慮して開催しました。

今回の子どもアドベンチャーカレッジに参加させていただいたことで、子供たちの何気ない発言の中には様々なヒントが隠されており私共としても有意義な場でした。ありがとうございました。

No.とプログラム名	No. 7 みんなを元気に！からだをまもるお仕事、大発見！
企業・団体名	湘南医療大学
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【戸塚区】湘南医療大学 保健医療学部棟
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数21人
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちに、「医療（からだをまもる）お仕事」について、さまざま体験をしていただき、看護師や理学療法士、作業療法士のお仕事を身近に感じてもらうとともに医療に興味や関心を持っていただき、参加してくださった子どもたちの中から未来の医療人が誕生することも願い、参加させていただきました。

① 当日のプログラムの説明

ローテーションで3つの体験をしていただきました。

体験 A 「看護師のお仕事ってどんなお仕事かな？聴診器(体の中の音を聞く道具)を人形にあてて、何が聞こえるか等を体験してみましょう！」

体験 B 「からだ博士になろう！身体の使い方で動きが変わる？正しい動き方やそのコツを学び体験しよう！」

体験 C 「リハビリの作業療法士ってどんなお仕事なんだろう？積み木を使った検査で体や脳の機能を測る検査を体験してみよう！」

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・全部楽しかった。 ・普段学べないことを学べたからよかった。 ストループテスト（認知機能テスト）が難しかった。 STEF（簡易上肢機能テスト）で利き手ではない方が上手くできたのが意外だった。 ・障がいのある人がどう感じているかわかった。 もっと運動をしようと思いました。 ・カルシウムとビタミンが大切だとわかった。 ・ヨーグルトを食べようと思いました。

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

児童一人に対し、本学の学生スタッフ1名が担当させていただき、子どもたちからの本学の学生への質問やコミュニケーションのシーンが心温まるもので大変よかったです。また、3つのプログラムを親御さんも一緒に熱心に参加していただき、大学側としてもとても励みになるイベントでした。

No.とプログラム名	No.8 インビザライン®矯正デジタルデザインワークショップ！
企業・団体名	アライン・テクノロジー・ジャパン・トリート合同会社
実施日	8月5日（火曜日）～8日（金曜日）4日間
会場	【西区】アライン・テクノロジー・ジャパン・トリート合同会社
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数31人
参加の目的 (150文字程度)	近年の歯科技工士人口減少により、歯科技工士を雇用する横浜トリートの従業員確保が難化している。今回、横浜市が主催する、市内在住小学生を対象とした体験学習プログラム『子どもアドベンチャーカレッジ』への参加で、歯科技工士という職業の認知度アップと、中長期的には歯科技工業界の活性化を目指す。

① 当日のプログラムの説明

1."素敵な笑顔で人生を変える"インビザライン矯正ってなに?

社内見学ツアー

2. 未来のお仕事体験！口腔内スキャナーとデジタルデザイン

3. ふりかえり会

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

「最初は操作が難しかったけど徐々に慣れて楽しくなった」

「将来やってみたいと思った」

など、体験を通して子どもたち同士が積極的にふりかえり会をおこなっていました。

④ 企業・団体の気付きや感想など

本年で2度目の参加となります。昨年より多くのお子様にお越しいただき、実際に弊社のインビザライン矯正をご利用いただいている方も多くみられました。実際に患者様と交流する機会が弊社社員にとって機会がないため「今つけてるよ！」と子どもたちが見せてくれる姿は、大変嬉しく感じました。子どもたちへ歯科業界のことに対する興味を持ってもらうきっかけになっていたら幸いです。

No.とプログラム名	No. 9 看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！
企業・団体名	昭和医科大学保健医療学部
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【緑区】昭和医科大学横浜キャンパス 実習室ほか
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数52人
参加の目的 (150文字程度)	小学生が看護師・理学療法士・作業療法士の仕事内容の一部を体験することで、各職業への関心を高めるとともに、医療職の役割について理解を深めてもらう。将来、医療を支える職業に関心を持つ一助となることを期待する。

【当日のプログラム】*****

参加者は3つのグループに分かれ、看護師・理学療法士・作業療法士の各ブースを順番に回り、それぞれの専門職の仕事を体験しました。看護師ブースでは、点滴の滴下や消毒・包帯といった基本的な技術を実践し、保護者が患者役を務めることで、より現場に近い雰囲気を味わいました。難しく感じる点滴も、実際に器具を扱うことで理解が深まりました。理学療法士ブースでは、ジャンプ力を高める運動やケガをしたときの応急処置を学び、身体を動かしながら専門的な視点を体感しました。作業療法士ブースでは、手の装具づくりや自助具を使った豆つかみに挑戦し、日常生活を支える工夫を学ぶ機会となりました。

【児童のアンケート・振り返りのコメント】*****

アンケートからは「とにかく楽しかった！」「たくさん体験できてうれしかった」といった声が多く寄せられました。「知らないことをいっぱい知れてうれしい」「難しかったけどできたから楽しかった」と、子どもたちは目を輝かせていました。点滴体験では「できた！やった！」と喜び、包帯を巻いたり支援用の道具を使ったときには「なるほど！」「工夫ってすごい！」と驚いていました。「将来看護師になりたい」「作業療法士になって使いやすいものを考えたい」と夢を語る児童も多く、「また来年もやりたい！」と前向きな気持ちにあふれていました。

【全体の感想】*****

今回、横浜市からの学生センターはいませんでしたが、本学の学生が多数参加し、児童の体験を丁寧に支えてくれました。振り返りの会では司会や書記を担当し、「どう思った？」「やってみてどうだった？」と優しく声をかけながら発言を引き出しました。体験ブースでも一つひとつをわかりやすく説明してくれたため、児童からは「お兄さん、お姉さんが優しくて安心した」「説明がわかりやすくて楽しかった」との感想が寄せられました。こうした関わりは児童に安心感を与えると同時に、学生自身にとっても教育者・医療者として成長する貴重な機会となりました。



看護師：消毒と包帯



理学療法士：ジャンプ力向上



作業療法士：装具の作製

No.とプログラム名	No.10 市電保存館で、ジオラマ運転ショーの操作をしてみよう！
企業・団体名	横浜市電保存館
実施日	8月7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【磯子区】横浜市電保存館 館内
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数13人
参加の目的 (150文字程度)	当館では、横浜市営交通の歴史を伝承するため、実物の市電車両および関連資料を展示しており、市内小学校の社会科校外学習や中学生の職場体験等に利用していただいております。 今回は、夏休み期間中の小学生に向けて学習の場を提供したく参加をいたしました。

① 当日のプログラムの説明

市電車内での講話から始まり、ジオラマ模型の操作、スタンプラリー等の館内イベント、オリジナル缶バッヂの製作などを体験してもらい、最後に市電車内で振り返りを実施して修了証を授与しました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

市電がまた横浜を走れるよう提案したい、市電の復活を望む

④ 企業・団体の気付きや感想など

鉄道やバス等の乗り物に关心の高い児童が集まり、楽しみながら参加していただけた印象です。また学習意欲の高さがうかがえた参加児童や保護者の皆さまから、面白かったと感想をいただけたことから充実したプログラムを提供できたのではないかと思います。

No.とプログラム名	No.11 シーサイドライン車両基地を探検しよう！
企業・団体名	株式会社横浜シーサイドライン
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【金沢区】株式会社横浜シーサイドライン 本社会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数23人
参加の目的 (150文字程度)	普段体験できない車両内からの車両基地内の見学や車両洗浄体験を通じて、シーサイドラインの裏側を知ってもらい身近に感じていただく機会として参加しました。

① 当日のプログラムの説明

注意事項等説明→ホームから特別列車に乗車→車両基地内見学→洗浄体験

→特別列車からホームに降車→ディスカッション→質疑応答

② 児童の様子

洗浄体験の様子



ディスカッションの様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- 普段体験できないことができて楽しかった。
- シーサイドラインを知れて良かった。
- 車内や室内は涼しかったが、外は暑かった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

夏休み期間でのイベントで多くの方より応募をいたただけて良かったと感じました。

しかし、気温が高すぎる中で、当日欠席の方がいたことは残念でした。

来年も参加したいとの声が多く内容に満足していただけたと感じました。

No.とプログラム名	No.12 コンテナを近くで見てみよう！～夏休み子ども貿易教室～
企業・団体名	公益社団法人横浜貿易協会
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【中区】山九株式会社 本牧ふ頭倉庫など
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数14人
参加の目的 (150文字程度)	私たちの日々の暮らしは海外との貿易によって支えられていて、貿易もたくさんの人たちが支えている。そのことを座学で学び、港湾施設の体験してほしい。

① 当日のプログラムの説明

13時～集合、バスで移動

14時～授業「貿易のはたらきと横浜港を知ろう」

15時～港湾施設の見学（随時スタッフが説明）

- ・岸壁でコンテナ船やガントリークレーンの見学
- ・冷凍コンテナを体験
- ・倉庫内の見学、コンテナシールのカット

16時～バスで移動、振り返り会開催

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・冷たいコンテナに入ることができて、不思議な体験ができた。
- ・冷凍コンテナのなか、滑りそうだった。体感温度がよかったです。
- ・冷たいコンテナに入ったり、コンテナのカギ（シール）を切ったり、大きな体験になった。
- ・冷たいコンテナが体験出来てよかったです。
- ・コンテナのロックを切る体験が出来てよかったです。
- ・暑かったけど、貿易について学べてよかったです。
- ・冷凍コンテナが冷たくて、ドアを開けるとすぐに温度があがることがわかった。
- ・楽しかった。
- ・ガントリークレーンが大きくてびっくりした。
- ・コンテナ用シールのカットは固かったけど、カットできてよかったです。

④ 企業・団体の気付きや感想など

- ・体験することに、児童たちは非常に積極的でした。
- ・お盆期間の前に開催が出来たことは、児童や保護者、プログラム提供側にもよかったです。
- ・年々暑さが増しており、熱中症対策などに気を付けることが重要だと感じます。
- ・開催前にロシアのカムチャッカ半島の地震があり、万が一のときにどう対応するかを考える必要があることを特に考えた。無事に開催が出来てよかったです。

No.とプログラム名	No.13 みなとみらい線お仕事体験
企業・団体名	横浜高速鉄道株式会社
実施日	8月7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【西区】みなとみらい駅
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数32人
参加の目的 (150文字程度)	「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」と「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供するため

① 当日のプログラムの説明

駅構内のアナウンス体験、自動改札機見学、券売機室見学など。

② 【グループディスカッションの様子】



【駅構内アナウンスの様子】



③ 児童の様子

駅構内アナウンス体験が一番人気でした。

④ 企業から

参加者が将来、鉄道関係の仕事に就くことの一助となれば幸甚です。

No.とプログラム名	No.14 一個の石けんから地球環境を考える
企業・団体名	太陽油脂株式会社
実施日	8月5日（火曜日）、8月7日（木曜日）
会場	【神奈川区】太陽油脂株式会社 会議室（本社棟 307号室）
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数18人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・石けんの持つ力や性質・特徴、作り方などを学び石けんの良さを理解して頂く。 ・太陽油脂のSDGs取組みや身近で出来るSDGs貢献活動を学び、今後のSDGs活動に生かして頂く。

<プログラムの内容>

- ① 石けんの基礎知識
 - ・石けんって何だろう（原料・作り方：製造工程映像など）
 - ・石けんの歴史、はたらき（実験）、石けんの性質（実験）
- ② 石けん工場見学（参加児童、保護者様全員で見学）
- ③ 太陽油脂のSDGs取組み例紹介
- ④ ワークショップ（こねこね石けん：オリジナル石けんづくり）
- ⑤ 振り返り（参加児童全員から当日の感想を発表）保護者様同席

<当日の写真>



① 8月5日（火）

② 8月7日（木）

<振り返り：児童の感想例>

6年生：生活の中で使われている油はほぼパーム油で「RSPO」という枠組みにも参加していることを知りました。また、パーム油にもたくさんの環境問題などがあることを知り、その環境問題を解決する努力をしていることも知りました。私の学校でも今、総合学習で廃油から石けんをつくるテーマで進めているので、今回学んだ法律のことや、作り方を生かしたいと思います。ありがとうございました。

5年生：私は最初、石けんについて知っていることは、あまりなかったけれど、この石けん教室を通して石けんについて知ることができました。特に楽しかったのは、石けん作りです。自分のオリジナル石けんが作れたからです。あと、星がただつたから！

<企業・団体の皆様の気付きや感想など>

- ・参加当選者様からの、参加確認の返信をいただいたこともあり、体調不良による欠席連絡など事前の欠席連絡をいただくことができました。(次年度以降も継続したいと思います。)
- ・車での来社不可（駐車場スペースが無い為）と募集欄へ記載、当選連絡の際もお伝えしていたが車にて来社された保護者様が数名おられました。募集欄への記載方法を再検討したいと思いました。
- ・猛暑の中ご来社いただきありがとうございました。お子様も親御様も楽しくお過ごしいただけたかなと思います。今後も皆様の健康や安全を第一に取り組んで参りたいと思います。
- ・猛暑の中、来社いただきました。水分補給等を適切に取れていたので体調不良やケガをする方もなく、無事に終わり安心しました。聴講するだけでなく実験をプログラムに盛り込むことで、楽しそうに取り組まれていたので良かったと思います。

No.とプログラム名	No.15 キミだけのホームページをつくろう♪わくわくホームページづくり大作戦！
企業・団体名	株式会社 LOCAL JAPAN
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【神奈川区】六角橋地域ケアプラザ 2階多目的ルーム
対象学年と参加人数	小学6年生、参加児童数2人
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちの関心が高まっている情報発信に対して、より知識や理解を高めてもらうことで、子どもたちの成長に寄与したいと思い参加させていただきました。

当日内容

- ・「ホームページとは何か」の説明
- ・「ホームページの作り方、フレームワークを考える」ワークを実施
- ・考えたフレームワークを実際にホームページに落とし込み、ホームページを制作



参加者の感想

- ・大人が作るものだと思っていたけど、今回自分でやってみて身近に感じることができました。
- ・すごく楽しかったからまた他のテーマで作ってみたいし、このホームページもかいりょうしてより良くしていきたい。
- ・字や写真の大きさ、アニメーションなど、自由自在に変えることができるということにおどろきました。

実施者の感想

子どもたちの講座に対する真剣な様子や質問内容・感想を見ていて、情報を発信することへの子どもたちの関心が高いことがよく分かりました。

定員6名に対し82名の応募をいただくという状況でしたので、来年度も機会があればまた参加させていただきたい。

天候（猛暑）の影響もあってか当日欠席の参加者が数名出てしまったが、その分参加者により向き合うことができた。

No.とプログラム名	No.16 クルマのロボットを動かしてみよう！
企業・団体名	マツダ株式会社 マツダ R&D センター横浜
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【神奈川区】マツダ R&D センター横浜 ホワイエ
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数31人
参加の目的 (150文字程度)	マツダでは、子どもたちに乗り物としての自動車だけでなく、産業としての自動車をもっと知ってもらいたいと考えている。自動車のアクティブセーフティ装備やその開発を子ども向けにディフォルメしたものとして、クルマ型ロボットを用いたプログラミング体験を企画・実施した。

① プログラム内容

まずは座学で「マツダの研究所がなぜ神奈川区にあるのか？」を紹介。続いて、教材として使用するロボットにどんなセンサがついているのか、制御ソフトウェアの使い方、気持ちのよい走り/ブレーキとは？等を説明しました。どのお子さんも飲み込みが早く、自分の考えたプログラムを作成～ロボットの走行テストに取り組みました。プログラミング体験終了後は、マツダの予防安全開発の紹介、歴史車両の見学を実施しました。1回あたり8名（ロボット・制御用PCは一人1台ずつ）、休憩等含め120分での実施としました。

② 当日の様子



③ 児童の意見・感想

子どもたちからは「面白かった」「もっとプログラミングをしてみたい」などの感想をいただきました。歴史車両の見学も、保護者さま含めて喜んでいただけたと思います。

④ 企業側の気づき・感想

マツダは今回で2回目の子どもアドベンチャーカレッジ参加となりました。子どもたちの柔らかな発想は私たちエンジニアにとっても良い刺激となり、楽しく実施させてもらっています。

横浜市のHPや小学校（すぐーる）でイベントPRを実施いただいたおかげで多数の応募をいただき、誠に残念ですが多くの子どもたちへ落選通知を送ることとなってしまいました。一方で、別のプログラムからマツダへ“はしご参加”したお子さんもおられました。プログラムの実施日を市が指定するのであれば、ぜひ参加応募受付～当落管理も横浜市で担っていただき、ひとりでも多くの子どもがいずれかのプログラムに参加できるよう、調整いただけたらと思います。

No.とプログラム名	No.17 ロボットとパネルでプログラミングを楽しもう！
企業・団体名	株式会社 ICON
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【神奈川区】一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数65人
参加の目的 (150文字程度)	横浜の企業として、自社で開発した子どものための知育教育セットを地元の子どもたちに体験してもらい、難しいことでも楽しみながら解決できることを学んで、将来の人生や社会のために役立ててもらいたいという思いから参加させて頂きました。

プログラムの内容

ロボットとパネルの知育セット「クミータ」を使って、プログラミングの基礎となる論理的思考力を、楽しんで身につけるための体験をするプログラムです。



◀知育教育セット「クミータ」

それぞれ違う命令を持つパネルたちを組み合わせて並べ、その上をロボットが命令を実行しながら進んでいきます。スタートからゴールまできちんとたどり着けるようにパネルを組み合わせることが目的です。

当日の様子

午前の回、午後の回とも同じプログラム内容で行いました。（各回2時間）

- 挨拶（10分）
- クミータ基礎編（50分）
- 休憩（15分）
- クミータ応用編（45分）



会場の大型スクリーンを使用して、基本的なルールの説明や問題の出題を行いました。



4～6人程度のグループに分かれ、1つのクミータセットを使用して協力しながら問題を解いてもらいました。1つのグループに異なる学年の児童を混合で配分しましたが、一緒に仲良く楽しんできました。

子どもたちの様子

- はじめは知らない同士で緊張気味だった子どもたちも、問題を解いていくにつれてだんだんと熱中し、同じ問題と一緒に解決することで自然と打ち解けあえているようでした。
- たくさんの子どもたちが、解決法がひらめいたときに「わかった！！」と大きな声を上げて、夢中で問題を解いてくれました。
- 体験はトータルで2時間ですが、終了時間になるまで集中力が途切れることなく問題に取り組んでくれているようでした。

主催者の感想

- 今年で3回目となる子どもアドベンチャーカレッジへの参加でしたが、過去の回と同様、今回も大変充実感のある体験となりました。前回、前々回の反省点を踏まえて細かな点で改良を重ねた結果、今回は当選後のキャンセル率・当日の無断欠席率共に低下し、付き添いの方たちへの配慮も含めてスムーズに進行することができました。
- 会場は神奈川県情報サービス産業協会の会議室をお借りしましたが、やはり他の会社さんのオフィスも入っているビルなので、子どもたちの歓声などの音の問題への懸念がありました。スペースの確保は今後の課題となりそうです。
- 今回は学生サポートの割り当てが無かったので、少ないスタッフでの対応となりましたが、参加児童たちがこちらの想定より理解力に優れていて、大人がリードしない中での自主的な学びが生まれ、思ってもみない解答が出てきた例もありました。

No.とプログラム名	No.18 わくわく♪こどもプログラミング教室
企業・団体名	学校法人岩崎学園 情報科学専門学校
実施日	8月5日（火曜日）～8日（金曜日）
会場	【神奈川区】情報科学専門学校 608教室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数37人
参加の目的 (150文字程度)	<p>小学校教育の場においてもプログラミング的思考やタブレットの配布など、ITに触れる機会が多くなっている。そこで、ITを専門的に学ぶ専門学校生の立場から、ITに関する新たな気付きや発見のきっかけを作り、今後の興味関心の一つにしてもらいたいと考え、参加した。</p> <p>また、運営を行う専門学生にとっても自らプログラムを構成し、参加児童と関わりあうことで、普段の授業では身につけられない、スキルアップの機会になるとも考えた。</p>

1. 当日のプログラムの説明

(1) 8月5日、6日

- ・「クーブ」という教材を用いたロボットプログラミングを実施
- ・参加児童が自らブロックでパトカーやリフトカーを制作しうえで、パソコンでプログラミングを行って走行させた。

(2) 8月7日、8日

- ・「メッシュ」という数種類のセンサーを用いたプログラミングを実施
- ・人感、振動、照度など普段の生活にも用いられるセンサーと、モノを動かすためのモーターなどを、参加児童それぞれがプログラミングで連動させて、作品を制作した。

なお、いずれの日程においても制作して終わりではなく、このプログラムでの気づきを残せるようにワークシートを配布し、記入してもらった。

2. プログラム中の児童の言葉や、児童の意見や感想など

- ・一人ひとりに専門学生がついていたので、分からぬことがあれば、「できない」「教えて」というようにヘルプを求める声はよく聞かれ、すぐにフォローができていた。
- ・ロボット、センサー、いずれも動いた時が一番盛り上がり、「動いた！」「やった！」といった声が非常に多かった。
- ・これは保護者からの感想だが、「他の団体と違って、大人ではなくて専門学生がメインでやっていたのが新鮮で、すごくよかったです」という感想が複数あった。参加児童も専門学生をニックネームで呼ぶなど、親しみを持って接してくれていた。

3. 専門学生の様子や気付き、感想など

- ・普段から小学生向けにプログラミング教室の運営を行っている専門学生が多かったが、普段とは違って一度に幅広い学年のサポートを行う必要があったため、難易度の設定やペースの調整に苦戦する場面が見られた。ただ4日間のプログラムを通じて、臨機応変な対応にも慣れ、スキルアップにつなげることができていた。
- ・参加児童自らが発見、気付きを得られるようなコーチング、ファシリテーションがとても難しく、多くの専門学生の成長につながったと同時に、今後伸ばしていかなければならない部分であると感じていた。

4. 企業・団体の気付きや感想など

- ・専門学生主体で運営することにより、参加児童とも気さくに接しながら良い雰囲気でプログラムを進めることができたのが非常に良かった。
- ・事前申込者数が定員を超えていたことから、次年度はより多くの児童が参加できるようなプログラムができないかも検討していきたい。
- ・夏休みの自由研究にもつなげられるようワークシートを配布したことは、保護者からも非常に良いリアクションをいただくことができたので、次年度もこの形式は継続していきたい。

5. 児童の様子や専門学生の様子

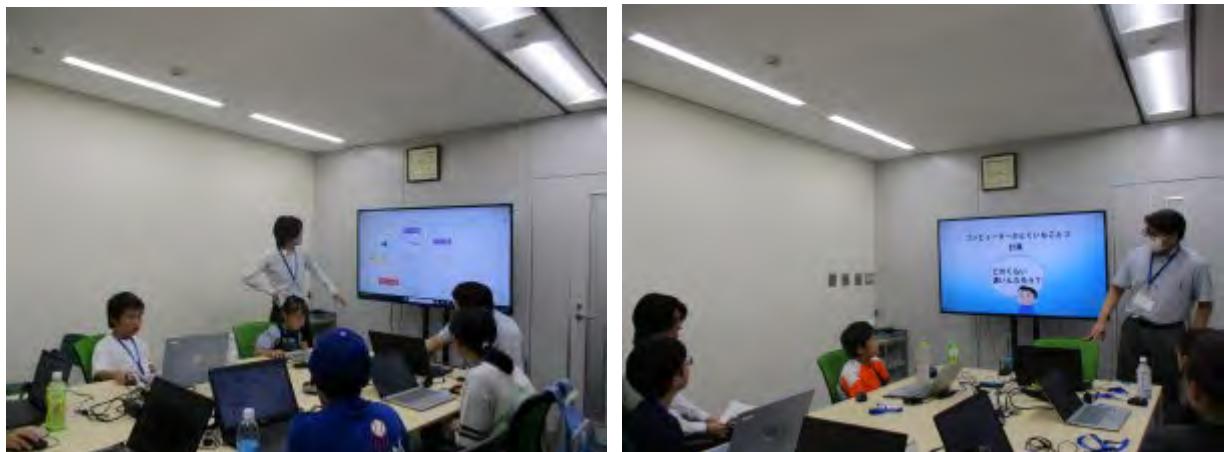


No.とプログラム名	No.19 世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう！
企業・団体名	株式会社タスクフォース
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【港北区】株式会社タスクフォース 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数9人
参加の目的 (150文字程度)	コンピュータがどのように進化してきたか振り返る。 普段の生活の中でどんなところに使われているか認識する。 どんなコンピュータがあったら便利か想像する。 プログラミングをしてコンピュータの動きを確認する。

① 当日のプログラムの説明

コンピュータがどんなところで使われているのか、
どのように私たちの生活に役立っているのか一緒に考えましょう。
世の中をどんどん便利にする仕事について理解を深めましょう。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

「プログラミングが難しかったけど、面白かった！」

「コンピュータのことをもっと知りたいと思った」

「今日学習したことを、これから他のところでも活かしたい」

④ 企業・団体の気付きや感想など

若手社員を中心にプログラムを進めました。

どうしたら分かりやすく説明できるか？楽しんでもらえるか？等、工夫しながら行い、社員にとっても良い機会となりました。ありがとうございました。

No.とプログラム名	No.20 知るって楽しい科学の絵本!! 手作り工作遊んじゃおう。
企業・団体名	明治学院大学 読み聞かせサークル おはなしポップコーン
実施日	8月6日（水曜日）①10:00～11:00 ②11:30～12:30 計2回
会場	【戸塚区】とつか区民活動センター 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数22人
参加の目的 (150文字程度)	糸電話やエコー電話を使った音の振動に関する実験を大学生と子どもたちが共に行い、新たな発見や疑問を得て、家庭で調べたり、自由研究に活かしてほしいと思ったため。また授業とは異なる学びや夏の思い出を残すとともに、横浜市の子どもたちにおはなしポップコーンの活動を知ってもらうため。

①当日のプログラムの説明

体験内容：

風船による音の震えを体感する実験、紙コップ+アルミ箔、ビーズ、濡れ布を用いた糸こすり実験による、音の振動が見える体験、紙コップ+スプーンによる音の伝わり方の実験、針金が使われたエコー電話で遊ぶ体験、「糸電話」に関する絵本の読み聞かせ

振り返り：

体験の感想発表、認定証・実験に使用した道具の授与

②児童の様子



③プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・全体として、エコー電話の実験と、濡れ布を用いた糸こすり実験が面白かったという声が多かった。

【児童の意見や感想等】

- ・実際に自由研究で、調べてみようと思いました。
- ・糸電話の糸をつまむ位置を工夫したりすると、音の聞こえやすさが変化するのがおもしろかった。
- ・スプーンを叩く位置によって、耳から感じる振動の違いが生まれることにおもしろさを感じた。

④企業・団体の気付きや感想など

- ・音の振動に関する実験を多く取り入れたことで、子どもたちが興味関心を持ち、楽しんでいるよう見えた。
- ・募集人数について、当初各回 20 名程度を想定していたが、想定よりも前日までの辞退者が多かつたことから、来年度も実施する場合は、募集人数を想定よりも増やすことも検討したいと感じた。
- ・子どもたちが紙コップや風船など身近なものを使って、楽しそうに実験に取り組む様子が印象的でした。
- ・様々な種類の実験を用意したことで、子どもたちが楽しむ姿や音の振動を感覚的に理解する姿を見ることができ、とても良かったです。

No.とプログラム名	No.21 太陽光パネルと蓄電池で安心の生活を学ぼう
企業・団体名	株式会社アイエーエナジー
実施日	8月5日（火曜日）、8日（金曜日）
会場	【戸塚区】アイエーグループ株式会社 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数64人
参加の目的 (150文字程度)	発電、太陽光パネル、蓄電池、電気自動車についての基礎的な知識を学習し、停電時の安心な生活に加え、環境問題にも関心が向くようにする。自転車による発電体験や「ソーラーエコハウス」キットの工作により、学習内容が身近なものだと認識してもらい、学習内容や思い描く安心な生活をグループディスカッションで共有する。

① 当日のプログラムの説明

- 【授業】発電、太陽光パネル、蓄電について学ぼう：
- 【授業】電気自動車について学ぼう
- 【工作】ソーラーエコハウスをつくろう
- 【発表】グループで学んだ内容やソーラーエコハウスのこだわりを共有しよう

② 児童の様子や学生サポーターの様子



A:ソーラーハウスの工作をする様子



B:ソーラーハウスと疑似停電する様子

③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- 太陽光パネルの仕組みがわかった。
- 地球温暖化と電気の関係がわかった。
- 電気自動車は環境に優しいのがわかった。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

- 全4回の回を重ねる中で、子どもとの関わり方や、発表をする姿勢などに成長が見られました。
- 子どもたちとの関わりを通じて、企業のサステイナビリティへの取り組みを体感できたことが良い経験となったようです。

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

今回の参加対象児童が3～6年生と幅広い学年を対象としており、小学3年生では学校で電気を習っていないタイミングでのプログラムの実施だったため、プログラムの内容が理解できる児童とそうでない児童のギャップが生まれてしまうことを懸念していたが、身近な生活と結びつける内容にすることで、児童たちが興味を持って参加してもらうことができ、非常に有意義な学びの機会になったと感じている。

また、コミュニケーションの機会では活発で自発的な児童がリードをしてくれて、場を温めてくれたおかげで、低学年の児童や控え目な児童の発言の後押しとなり、学年のギャップがある中でコミュニケーションの良い相乗効果生まれていた。

授業の内容も昨今の記録的な猛暑→地球温暖化→温室効果ガス→再生可能エネルギー→太陽光発電や電気自動車といった、身近で感じている“課題”から地球全体の問題へ移り、日々の暮らしの中での“解決”ということをテーマに進めたが、ソーラーエコハウスの工作による“課題解決”的体験を通して、大きな問題でも私たちの暮らしの意識が変わることで良い変化のきっかけになることを学んでもらえたのではないかと感じている。

暑い中にも関わらず多数の児童に足を運んでいただき、楽しく学ぶ機会を提供できたことに感謝している。

No.とプログラム名	No.22 脱炭素社会実現に役立つバイオマス発電所の仕組みを学ぼう！
企業・団体名	三菱重工パワーアイナストリー株式会社
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【中区】三菱重工パワーアイナストリー株式会社 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数28人
参加の目的 (150文字程度)	エネルギーと脱炭素に関する正しい知識を得る機会を提供すると共に、子どもたちの理科への関心を高め、科学分野の次世代を担う人財を育てるため。

① 当日のプログラムの説明

- ・生活に欠かせない電気をつくる発電所の仕組みと、発電方式の一つであるバイオマス発電所がどうして地球に優しいのかを、講師からの説明で学習
- ・工場内に設置されている、実際に発電所で使われていたボイラーやタービンの実物、経年劣化して破損してしまった部品の実物を見学
- ・「こんな発電が出来たらいいな」をテーマにグループワークを行い、個人毎に皆の前で発表。また、プログラムの感想も一人ずつ発表

② 児童の様子や学生サポーターの様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・なにかを燃やして発電するのはどんなものでも環境に悪いと思っていたけど「バイオマス発電」は化石燃料より地球に優しいことを知りました。
- ・今日の授業を通して、発電方法、環境にやさしい理由、発電機を見せてもらって、環境問題への興味がますます高まって、いつか自分もその仕事に就いて解決したいと思いました。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

- ・学生サポーターにはグループディスカッションのファシリテーションを担当してもらいました。事前のシナリオ作りもしっかりとしていて、当日の進行も物怖じすることなく、ハキハキと子どもたちをリードできていました。
- ・本人の学びの場にもなったとの感想をいただきました。

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

- ・大変暑い中での授業になりましたが、子どもたちは集中力を欠くことなく、しっかりと話を聞いていました。それは各自に書いてもらった発電のアイデアや感想文にも現れていて、非常に頼もしく感じました。

No.とプログラム名	No.23 化学を使って犯人をさがそう！～化学実験体験～
企業・団体名	横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用分析技術班
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【保土ヶ谷区】横浜国立大学 化工・安工棟 製図室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数17人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の大学として地域に貢献する。 ・参加児童に対して化学実験体験を通じ、理系分野（特に化学分野）への興味を深めてもらう。 ・参加児童に学びの場としての大学の雰囲気を感じてもらう。

■当日のプログラムの説明

『仲良なかよし小学生が集まって遊んでいたところ、事件が発生！犯人にたどりつけるか？』をテーマに科学捜査の方法を使って化学実験を体験し、話し合いを通して犯人を推理してもらいました。

事件は小学生5人が1人の児童の家に集って遊んでおり、隣の部屋から破裂音がしたという設定で始まりました。主として以下の3つの実験を行い、結果を手掛かりに犯人を当ててもらうという内容でした。

- ① ガス発生実験（pH試験紙により特定した液体と金属と液体の反応を確認）
- ② ペーパークロマトグラフィ実験（犯行に使われたペンを特定）
- ③ ルミノール反応実験（疑似血痕の反応を確認）

■児童の様子

参加児童には「子ども研究員」として白衣を着てもらい、必要に応じて保護具を付けた上で実験に臨んでもらいました。



会場の様子



ガス発生実験



ペーパークロマトグラフィ実験



ルミノール反応実験

■プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッションで出された児童の意見や感想など

ネタばれになってしましますので具体的な意見、感想は書けませんが、実験により特定できた内容や5人の小学生の事件当日の行動などから最終的に誰が犯人かを考えもらいました。小さな手掛かりを元にグループディスカッションによって意見がまとまり、最終的に犯人にたどりつけたグループもありました。

■企業・団体の気付きや感想など

今回団体として初めて参加させていただきました。「化学とは何か」「理科の基本はよく観察すること」などの説明を行った上で取り組んでもらいましたが、手がかりをわかりにくくしていたこともあり、結果的にはなかなか犯人にたどりつけなくなってしまったと反省しております。

スライドについてはわかりやすく作成したつもりでしたが、プレゼンテーションや進行の部分で課題が残ったと思っています。

No.とプログラム名	No.24 モノづくりを体験しよう！～リモコンカーをつくろう～
企業・団体名	横浜国立大学 工学研究院等技術部 応用加工技術班
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【保土ヶ谷区】横浜国立大学 理工学部講義棟A104
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数10人
参加の目的 (150文字程度)	メカトロニクス分野の教育・研究に使用している設備や環境を活用し、子どもたちが“モノづくりの楽しさ”を体験しながら学びのきっかけとなるような機会を提供することで地域社会に貢献したい。

■ プログラム内容

1. はじめに（講話）



2. リモコンの組み立て



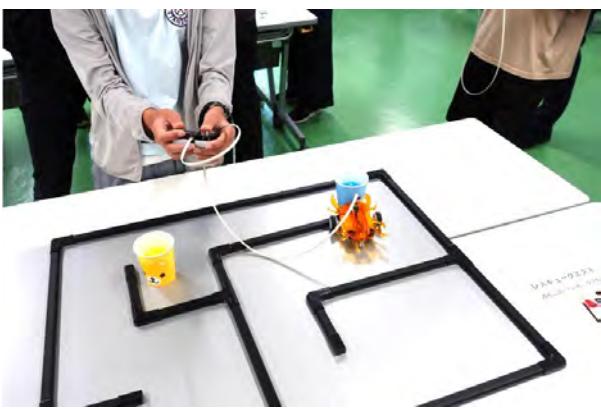
3. 部品の製作過程（3Dプリンター）



4. リモコンカー本体組立



5. 走行（ゲーム）



6. ふりかえり



■ 児童の様子



リモコンカー本体の組み立て中



ゲームでさらに盛り上がった！

■ 参加児童の感想など

- ・3Dプリンターで部品を作っているところを見られてすごかった。
- ・組み立てるのに焦ることなく充分な時間があったので安心して取り組めた。
- ・組み立て方のレジュメがとても分かりやすかった。
- ・先生がたくさんいたので、質問したい時にはすぐに聞けるのがよかったです。
- ・アイデアを形にする設計図を書いてパーツから手作りされた技術力に驚いた。
- ・ゲームの種類がたくさんだったので時間をもっと増やしてほしい。

■ 企業・団体の気付きや感想など

企画したイベントに多くの方から申込みをいただきスタッフ一同大変嬉しく思った。反面、技術部として初めての取組であり関係スタッフの苦労も大きかった。我々にできることは何か、参加者が求めていることは何かという点をポイントに今回の企画を実施した。参加者アンケートに「子どもたちにイベントを通じて、近い将来の進路を感じさせてほしい」「理科や数学ができるとどう樂しいかを教えてほしい」等我々への期待が記されており、地域貢献を行う意義を実感した良い経験になった。

本イベント実施にご支援いただいた関係各位に深謝申し上げる。

No.とプログラム名	No.25 SDGs チャレンジ！車の廃パーツでワクワク工作体験！
企業・団体名	株式会社アップガレージグループ
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【青葉区】株式会社アップガレージグループ 3F
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数30人
参加の目的 (150文字程度)	地域の子どもたちに、SDGsが自分たちの身近なものであるということの理解を今まで以上に深めてもらうため。 また、アップガレージグループの事業について知ってもらい、企業として大切にしている内容を子どもたちに伝えるため。

① 当日のプログラムの説明

1. 楽しく学ぼう！リユースクイズ

リユースに関するクイズを通じて、リユースの大切さやリユースショップのお仕事について楽しく学びました。

2. 車やバイクの廃パーツで自由工作！

実際の車の廃パーツを使用して、子どもたちが自由な発想で工作を楽しみました。普段触れることのない車の部品に興味津々で取り組む姿が印象的でした。

3. 憧れのレーシングカーに！86乗車体験

実際に過去に SUPER GT で走行していたレーシングカーへの乗車体験では、子どもたちから保護者の方まで、興味津々でした。

② 児童の様子





リユースクイズの様子



自由工作の様子

③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

「着れなくなった服を弟にあげることも SDGs につながっていることが分かった。」(4年生)

「世界にもっとアップガレージみたいなリユースショップがあればいいのにと思った。」(6年生)

「使わなくなった部品で工作をすることもリユースになっていてうれしかった。」(5年生)

「レーシングカーは速く走るためにいろいろな工夫がされていておもしろかった。」(6年生)

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

- ・プログラムの目的としている、私たちが日頃ステークホルダーに対して伝えている、企業として大切にしている内容を子どもたちに伝えることができた。

- ・児童の感想や当日の反応から、改めて私たちの事業や活動が社会に貢献できていることを実感できた。

- ・小学生に SDGs について伝える機会をもっと増やし、自分たちの将来について考えてもらい、環境改善につなげていきたい。

No.とプログラム名	No.26 「下水道」ってなあに？水はどこから来てどこへ行くのかな？
企業・団体名	管清工業株式会社（横浜 MLG 包括 JV）
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【旭区】管清工業株式会社 3階会議室等
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数12人
参加の目的 (150文字程度)	横浜市中大口径下水管路施設包括的維持管理業務委託（その2）業務で弊社が提案している事項に「VR機材等を市民参加の催しに出展するなどし、下水道の維持管理について市民の理解促進に努める」とあるため、参加をしました。また、今年の1月末に起きた埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けて水道・ガス・電気などのインフラについて注目されており、下水道についてももっと市民の方々に知ってもらいたいと思い参加をしました。

① 当日のプログラム内容

下水道についての授業と実験・VR体験・マンホールの見学・調査機械の操作体験

② 児童の様子



③ 児童の意見や感想など

下水道に流してはいけないものがある事がわかった・本物のマンホールが覗けて楽しかった・実験が楽しかった（スーパーボールすくい）・ドローンが飛んだのがすごかった。VRが楽しかった・ボット（調査用機械）を動かしたのが楽しかった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

子供達のみならず、親御さん達がとても下水道に興味を持っているようで、多くのご質問をいただきました。やはり、埼玉県八潮市の道路陥没事故と子どもアドベンチャーカレッジ開催直前に起きた埼玉県行田市マンホール転落事故の影響が大きく影響しているのだと感じました。

No.とプログラム名	No.27 ごみ処理の仕組みやお仕事の内容について学ぼう！
企業・団体名	横浜市資源循環局 旭工場
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【旭区】横浜市資源循環局 旭工場
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数20人
参加の目的 (150文字程度)	収集体験や工場見学などを通してごみの収集から処理までの工程や仕事内容を学んでもらい、これから環境問題やごみ分別の重要性を考えるきっかけづくりの場を提供するため、参加させていただきました。

① 当日のプログラムの説明

- ・焼却工場の見学
- ・プラ5.3（ごみ）分別クイズ
- ・缶バッジ作成
- ・ゴミクレーンUFOキャッチャー体験（プラ5.3計量ゲーム）
- ・ごみ収集体験、ごみ収集車の乗車体験

② 児童の様子



焼却工場見学



プラ5.3（ごみ）分別クイズ



ゴミクレーンUFOキャッチャー体験



収集・乗車体験

③ プログラム中の児童の意見や感想など

- ・ごみ収集車の乗車体験や収集体験など、貴重な体験をすることができて楽しかった。
- ・プラごみの分別をクイズ形式で楽しく学ぶことができた。
- ・お家でもごみの分別を心掛けたい。
- ・夏休みの自由研究にしたい。

④ 企業・団体の気付きや感想など

当日は普段見ることのできない工場内の施設見学や体験型・ゲーム形式のイベントを体験してもらい、楽しみながら学んでいただけたと感じております。

また、プラ5.3（ごみ）分別クイズでは児童だけでなく、保護者の方も分別について「えっ、知らなかった」の声を多くいただき、プラスチック資源の正しい分別方法の啓発にもつなげられたと感じております。

当工場にとっても今後の啓発活動に活かせる非常に有意義な機会となりました。

No.とプログラム名	No.28 動物愛護センターのお仕事を学ぼう！
企業・団体名	横浜市動物愛護センター
実施日	8月7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【神奈川区】横浜市動物愛護センター
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数75人
参加の目的 (150文字程度)	動物愛護センターの業務説明や犬猫クイズ、犬猫のおうち探し体験やお仕事ディスカッションを通して、動物愛護センターの仕事や動物の適正飼育について学んでもらう。

【プログラム内容】

1 センターのお仕事説明

スライドを使い、動物愛護センターの仕事について説明



2 犬猫クイズ

犬や猫の収容頭数や譲渡にまつわるクイズ



3 お仕事ディスカッション

センターの抱える課題に対して、子供たちが解決策を考え発表する



4 犬猫のおうち探し体験（スタンプラリー）

犬猫のぬいぐるみを使用し、マイクロチップや迷子札等のヒントを見てお家を探す体験

【グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想】

- ・動物の大切さや愛護センターでどのような仕事をしているのか知ることができて嬉しかった。
- ・ただ勉強するだけでなく、スタンプラリーができて楽しかった。
- ・親戚が犬を飼っているため、今日学んだ事を伝えたい。

【感想】

当センターのイベントでは参加者を小学5、6年生に絞って募集し、高学年向けのイベント内容を実施した。犬猫のおうち探し体験では、迷子札やマイクロチップ等の所有者明示することの大切さを知ってもらうことができた。お仕事ディスカッションでは、動物の収容数や迷子の犬猫についての課題に対し、本イベントで学んだ事を振り返りながら子供たちの考える解決策を聞くことができた。また、お仕事ディスカッションは、人数調整のため3班に分かれて行い、少人数で行うことで子供たちとの距離が近づいたと考える。今年度も応募人数が多く、小学生やその保護者から非常に注目度の高い事業であると改めて感じ、今後もぜひ参加したい。

No.とプログラム名	No.29 夏休み石の勉強会
企業・団体名	神奈川鉱物研究会
実施日	8月5日、(火曜日)
会場	【神奈川区】かながわ県民センター 会議室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数48人
参加の目的 (150文字程度)	水晶と方解石の観察を通して鉱物から石の勉強をしてもらう。

プログラム内容

- ・水晶や方解石を使って石の勉強をする。
- ・持ってきた石を講師の先生が鑑定する。

児童の意見や感想など

- ・方解石の実験が面白かった。
- ・石のことが良くわかって良かった。
- ・石が前よりもっと好きになった。
- ・自分の持ってきた石が何かわかって良かった。

企業・団体の気付きや感想など

- ・参加した子供さんたちの反応は良く、皆喜んでくれたので当事者は全員満足することが出来た。
- ・役割分担が明確でなかったため、授業の様子を写真撮影がキチンと出来なかった。
- ・思った以上の子供さんがわからない石を持ってきたので鑑定に時間がかかり過ぎた。

No.とプログラム名	No.30 ごみ処理のお仕事にチャレンジ！
企業・団体名	横浜市 資源循環局 金沢工場
実施日	8月7日（木曜日）
会場	JFE 横浜金沢マリンエネルギーセンター（金沢工場）
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数13人
参加の目的 (150文字程度)	横浜市資源循環局金沢工場では、ごみ収集やごみ処理のしくみ、そしてそれらに携わる職員の仕事を実際に体験していただくことで、ごみ分別の大切さやごみ処理行政への理解を深めていただけることを期待しています。



参加児童の意見や感想など

- ・収集車に乗って投入ステージや選別センターに行けて楽しかったです！
- ・ごみクレーンの運転がとても楽しかったです。
- ・普段は入れない場所を見学できて、すごくおもしろかったです。
- ・焼却工場はいろんな仕事をあるのを知りました。
- ・将来、ここで働きたい！と思いました。

企業・団体の皆様の気付きや感想など

・金沢工場では市民の皆様の見学を受け入れてますが、施設内を見ていたくことが中心で、体験していただける内容は少ないため、子どもアドベンチャーカレッジでのプログラム実施は貴重な機会となっています。ただ、ごみクレーンの疑似運転体験やごみ収集車乗車体験などは時間的に少人数でしか行えず、募集人数が限られてしまうことを心苦しく思っております。参加された子どもさんが楽しみながら学ばれただけなく、保護者の方々も環境問題やごみ行政に高い関心を持たれ、積極的に質問してくださったことが印象的でした。

No.とプログラム名	No.31 不要になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！
企業・団体名	武松商事株式会社
実施日	8月6日（水）、7日（木）
会場	【金沢区】武松商事株式会社 大会議室・工房
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数19人
参加の目的 (150文字程度)	地球環境保護が全世界共通の重要課題となっている今、不用になったものを使用した工作教室を通じて子どもたちに環境保護について楽しく学んでもらうため

1・当日のプログラム

ごみについての講話、アップサイクルワークショップ、振り返り

2・プログラム中の児童の様子



講話ではクイズや体験も交えて参加型にしました。

ワークショップでは自由にデザインができるお財布とミニショルダーバッグ制作を体験してもらいました。

3・子供たちの感想

- ・学校でごみの学習をしたから、その続きで自由研究をしたいと思って参加してくれた子
- ・一人のドライバーがごみ回収する件数や夜の回収に興味を持ってくれた子
- ・リサイクルについてさらに興味をもって、お父さんにも作ってあげたいと思ってくれた子

4・気付き、感想

自動抽選だったので女の子が多い回、男の子が多い回とあり、心配をしていましたが、子供達にはそんなこと関係なく、仲良く楽しく参加してくれました。

保護者の方にも見守っていただき、安全に進めることができました。感謝いたします。

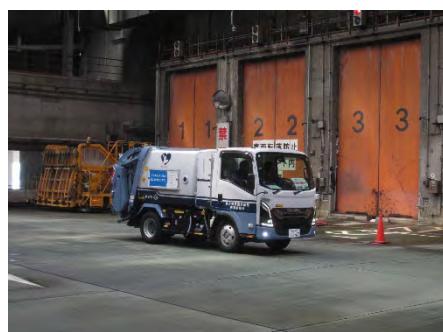
一人の子の感想に『これからもゴミのかいしゅうよろしくおねがいします。』と書いてくれた子がいました。この感想には特に子どもアドベンチャーカレッジへ参加して良かったと感じました。

No.とプログラム名	No.32 ごみ・資源物のゆくえ探検
企業・団体名	横浜市資源循環局鶴見工場
実施日	8月7日(木)
会場	【鶴見区】資源循環局鶴見工場、鶴見資源化センター
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数19人
参加の目的 (150文字程度)	持続可能な循環型社会の実現に向けた取組を推進し、市民や事業者を支える安定的なごみ処理の継続を目的として、市民への啓発活動の一環としてイベントを開催しました。 今回は、小学3年生から6年生を対象に、ごみ処理工場の設備を実際に操作できる体験イベント等を実施し、楽しみながらごみ処理やリサイクルの大切さを学んでいただきました。

1 当日のプログラム

- ・ごみ収集車乗車体験
- ・ごみクレーン操作体験
- ・管制室操作体験
- ・せん断式破碎機操作体験
- ・ペットボトル等選別作業体験

2 当日の写真



3 児童の意見や感想

- ・ごみを減らすためにエコバッグを使用したり、食べ残したりしないようにしたい。
- ・ごみ収集車に乗車できて楽しかった。
- ・ペットボトル・缶・びんを人の手で分別しているとは思わなかった。など

4 気付きや感想

鶴見工場が子どもアドベンチャーカレッジを実施するのは2019年以来6年ぶりであり、過去の内容を知っている人もほとんどいない状況でしたが、無事に実施できて良かったです。

子どもたちも色々な体験をしながら楽しくごみ処理やリサイクルについて学べたと思います。

No.とプログラム名	No.33 気象予報士といっしょにお天気について学ぼう！
企業・団体名	よこはま気象予報士サークルひまわり
実施日	8月6日（水曜日） 13:30～15:00
会場	【戸塚区】とつか区民活動センター会議室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数16人
参加の目的 (150文字程度)	小学生にとって「お天気」は最も身近なサイエンス。本講座では「雲」について学びを深める。「天気」を知るということは、まず空を見上げることが第一歩。ぜひ空を見る習慣をつけてほしい。 また、小学校高学年になると一人での行動が増えるので、気象災害（大雨・雷など）から身を守るために「自分で考え行動する力」が必要になる。そのような場面で取るべき行動について再確認する。

気象予報士といっしょにお天気について学ぼう！

当日の流れ

◆気象予報士ってどんなことをするの？

現在の気象予報士の人数や最年少合格者について説明しました。気象予報士は、気象キャスターや予報業務だけではなく、様々な場面で必要とされ活躍しています。



◆雲のパズルで雲の種類を覚えよう！

まずは十種雲形カードで雲の名前を確認。実際の雲の写真と見比べながら、その特徴を覚えます。いよいよパズルを開始。まず雲のピースを切り取って、ヒントを頼りにパズルのように配置していきます。グループのみんなで話し合いながら答え合わせ。「これは小さいぶつぶつだから巻積雲！」「この雲は何だろう？」「家に帰ってもう一度やってみる！」など楽しい会話が聞こえてきました。



◆ペットボトルで雲を作てみよう！

雲の名前を覚えたら、次は雲ができる仕組みを学びます。そして持参したペットボトルの中に雲を作る実験。力いっぱいプシュプシュ空気を詰め込んで手が疲れたかな？ここを頑張ると真っ白い雲ができます。みんな大成功！歓声が上がりました。

◆防災のおはなし

クイズを通して大雨や雷のときの行動を確認。気象災害は地震と違って「いつくるか？」予報を見て確認できます。「自分の身は自分で守る」ことができるよう願って、講座は終了しました。

スタッフの感想

◆グループ毎に気象予報士が1名付き、適宜アドバイスをすることができた。

初めは知らない者同士おとなしかったが、作業をしていくうち、楽しそうに会話をしていた。

◆ペットボトルで雲を作るための道具を持ち帰ってもらった。これで家でも再度実験することができると思う。パズルも是非もう一度やってほしい。

◆暑い日が続いたせいか、体調を崩し欠席するお子さんが多く残念だった。しかし、きちんと欠席連絡をいただき、こちらとしては大変ありがたかった。



No.とプログラム名	No.34 みつばち王国の秘密を探ろう！養蜂家のお仕事体験
企業・団体名	ヤッピーみんなのカフェ 戸塚みつばち俱楽部
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【戸塚区】テラキッズヤッピー庭
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数8人
参加の目的 (150文字程度)	豊かな自然環境を後世に残すために、今ある自然に親しむ入り口として養蜂家という仕事をしています。みつばちが怖くない、みつばちは刺すと死ぬことをわかっているから人を指したいわけではない、というメッセージをより多くの人に伝えられる子供を増やしたいと思い参加させてもらいました。

当日のプログラムの説明

みつばちの1年の流れを紙芝居立てで伝えました。かなりデフォルメされたイラストなので、リアルなみつばちを見に行こうと、実際に外に行く代表を決め、他の子達は安全で安心してみつばちを見学できるガラス越しに見学しました。そこから、自分が見たものを絵にしよう、ということでいろいろと個々の絵を描きました。最後に採蜜をして、はちみつを瓶に入れて持ち帰りました。

児童の様子や学生サポーターの様子



プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会で出た児童の意見や感想など

- 「みつばちの女王は赤かった」「女王蜂がいない巣があることに驚いた」
- 「本物のはちみつがあるなんて知らなかった」
- 「はちみつがとても貴重だとわかりました」
- 「みつばちを身近に知る機会を作ってくれて感謝しています」

企業・団体の気付きや感想など

みつばちが好きで、興味がある小学生が集まってくれたことが嬉しかったです。「みつばちさん、ありがとう！」という人が社会に増えることを願って活動しているので、子どもが後から他の参加していない人に伝えやすい形での内容のブラッシュアップをしたいと思いました。

No.とプログラム名	No.35 水と野菜のふるさと 道志村と昭和村を体験しよう！
企業・団体名	横浜市政策経営局広域行政課/横浜市水道局広報課/山梨県道志村/群馬県昭和村
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【中区】横浜市役所 横浜市市民協働推進センター スペースAB
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数25人
参加の目的 (150文字程度)	様々な社会体験を通じた「人との交流」の場や「他自治体との友好交流」について考える機会を提供するため、横浜市の友好交流自治体である「山梨県道志村」と「群馬県昭和村」の協力を得て実施

1 プログラムの概要

横浜の水源地 <道志村>

- 道志村の特徴等の説明
- きれいな水と水源涵養林の関係を学ぶ実験
- 道志村の間伐材のキーホルダーブルクリ体験



実験で道志村の水源林のはたらきを学ぶ

やさい王国 <昭和村>

- 昭和村の特徴等の説明
- トウモロコシの収穫方法を動画で視聴
- 農家さんとオンライン交流・質疑応答



昭和村のトウモロコシ畑にいる農家さんに直接質問

2 振り返り会で参加児童から出された感想

「道志村・昭和村に行ったらやってみたいこと」をテーマに、グループごとに振り返りを実施。

道志村

- 川遊びや釣り、キャンプをしたい
- 道志村と横浜市の水のきれいさを比べたい
- 道志村の児童と交流したい 等

昭和村

- トウモロコシ、こんにゃく芋を作りたい
- 実際に畑に行って収穫体験をしたい
- 採れたての野菜を昭和村で食べたい 等



インターンシップの大学生が子どもたちと一緒に振り返り

3 子どもアドベンチャーカレッジに参加しての気付きや感想

「山梨県道志村」・「群馬県昭和村」との友好交流を継続・発展させていくためには、市民の皆様に両村を知っていただき、親しみを持っていただくことが大切です。参加された児童・保護者の皆様には、両村を身近に感じていただけたのではないかと思います。次回はさらに魅力あるプログラムとなるよう検討し、より多くの児童に参加いただきたいと考えています。

No.とプログラム名	No.36 おこづかい、上手に使ってる？～親子で学ぶおこづかい使い方教室～
企業・団体名	横浜市経済局消費経済課・横浜市消費生活総合センター
実施日	8月5日（火曜日）午前・午後の計2回実施
会場	【港南区】横浜市消費生活総合センター5階 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数 47人
参加の目的 (150文字程度)	お買い物ゲームやクイズなど、保護者と一緒に子どもたちが楽しく参加できる「おこづかい使い方教室」を通じて、子どもたちの金銭教育を支援します。また、ゲーム課金や友達同士のお金の貸し借りなど、身近な金銭トラブルについて学ぶことで、お金に対する理解を深め、自分で考える力を育みます。

■ プログラム内容

お金に関するクイズやお買い物ゲーム、お小遣い帳をつけるワークなどの参加型のプログラムを通じて、お金の大切さや使い方などを学びます。講師には、(一社)消費生活総合サポートセンターより専門の講師をお招きしました。

また、身近な消費者トラブル事例として「ゲーム課金の高額請求」を取り上げ、グループワークで「どうすればトラブルを防げるか？」を話しあい、発表してもらいました。

■ 当日の流れ

- ①生活をするにはお金が必要！（お金の基本を学ぼう）
- ②クイズで確認！「お金と契約」
- ③お買い物ゲーム「今日は留守番。お昼ごはんを買いに行こう！」



500円でなにを買おうかな？



キャッシュレス決済も体験！

- ④お小遣い帳をつけてみよう！（ワーク）
- ⑤こんな時どうする？（ゲーム課金トラブルのグループワーク）
- ⑥消費生活総合センターの見学



みなさん、積極的に講座に参加していただきました！

■ 企業・団体の気づきや感想など

定員を超えるお申込みをいただき、金銭教育への高い関心とニーズを実感しました。当日は、おもちゃのお金やキャッシュカードを手に、500円以内で何を買おうか真剣に計算する姿や、親子で話し合いながらお小遣い帳をつける様子など、意欲的に講座に参加される様子が見られました。

また、小学生の相談事例が多い「ゲーム課金による高額請求」については、グループで「どうすればトラブルを防げたか？」を話し合い、発表してもらいました。「課金する前に必ず親に確認する」「そもそも有料ゲームはやらないというルールを決める」など、グループごとにさまざまな意見が出されました。

アンケートでは「満足」と回答した方が90%を超え、充実した講座となりました。お金の大切さを考えるきっかけにしていただき、子どもたちの消費者力を高める一助となれば幸いです。

No.とプログラム名	No.37 投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム
企業・団体名	株式会社三井住友銀行 金沢文庫支店
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）、7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【金沢区】株式会社三井住友銀行金沢文庫支店 会議室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数14人
参加の目的 (150文字程度)	当社の知識やノウハウを活かし、金融経済教育を実施することにより社会に貢献するため。金融リテラシーの向上により誰もがお金に対する正しい知識を身に付け、安心して暮らせる社会を実現するため。

① 当日のプログラムの説明

投資体験ゲーム2種類実施。（複数の経済予想カードを使用し自分に合う投資方法を選択/株価を予想し投資タイミングを選択）



② 児童の感想など

- ・投資について知れて良かった。・投資の理解を深めることができた。・実際に投資してみて流れを読み取ることができた。・投資ゲームが楽しかった。
- ・株や分散・貯金のことを習えて楽しかった。・投資について教えてもらううちに分かるようになった。・すごくわかりやすかったしおもしろかった。
- ・またこの体験を受けたいです。・先が見通せない時は分散投資することでリスクが少なくなるということが分かりました。・投資をするときは色々な資料などを参考にして投資することが大切だし投資は先がわからないので色々なことを考えて投資をすることが大切だと分かったので来て良かったです。・言葉の知識も増えた。

③ 企業から

熱心に受講いただき投資への関心の高さを感じられた。ゲームを通じて理解を深めていただいた。
投資そのものや、分散投資の重要性を理解できたというコメントもあり参加の目的である金融リテラシーの向上に貢献できたものと思料。
参加者全員アンケートの「楽しかった」にチェックされていたため実施して良かったと感じた。

No.とプログラム名	No.38 投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム
企業・団体名	株式会社三井住友銀行 上大岡支店
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【港南区】株式会社三井住友銀行 上大岡エリア 会議室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数11人
参加の目的 (150文字程度)	・地域貢献 ・お金や投資について、身近なものと感じてほしいため

① 当日のプログラムの説明

- ・お金についての講義・10万円を増やす投資体験ゲーム

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・お金でお金を増やせると初めて知りびっくりした。
- ・楽しくて分かりやすい授業でした。ゲームが楽しかったです。
- ・授業を聞いて予想して投資することが出来て良かった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

- ・小学校では金融経済教育の授業がないため、投資についての知識は自分で学ぶしかないと保護者の方から伺いました。今回の授業が少しでもお金や投資について興味を持っていただけるきっかけとなれば幸甚です。

No.とプログラム名	No.39 投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム
企業・団体名	株式会社三井住友銀行 港南台支店
実施日	8/5（火）15：00～16：30 各10名 8/6（水）15：00～16：30 各10名 8/7（木）15：00～16：30 各10名 8/8（金）15：00～16：30 各10名
会場	【港南区】株式会社三井住友銀行 港南台支店 セミナールーム
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数23人
参加の目的 (150文字程度)	銀行全体で金融経済教育に力を入れており、市での本イベントの開催を知り、近隣店舗（港南台支店、上大岡支店、戸塚支店、金沢文庫支店）でそれぞれ参加させていただくこととなった。

① 当日のプログラム内容

投資体験ゲームを通して、株価の変動要因を考え、投資について学ぶコンテンツ。ライフプランの中でお金がどの程度かかるか考え、投資体験ゲームを通じて10万円を増やす経験をしてもらう。

② 児童の感想など

「投資ゲームをしたことでリスクや方法が分かった。」「株が上がったり下がったりすることや引っ越しや免許にお金がかかることが分かった。」「投資がお金に困ったときに役立つと思った。」「投資のリスクを減らすためにしたほうがよいことを学べてとても参考になりました。」「お金や時間に投資することの大切さをリスクを知ることができてとても面白かったです。」「浪費が無駄遣いということが特に印象に残りました。」

③ 企業から

今後のライフプランのために投資をしながら資産形成する必要性を学んでもらうことができた。児童の方だけではなく、親御さんも一緒に参加してもらうことで、両親が稼いできたお金は限りのある大切なものだと気付いてもらうことができた。



No.とプログラム名	No.40 投資という選択（お金の授業）・投資体験ゲーム
企業・団体名	株式会社三井住友銀行 戸塚支店
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【戸塚区】戸塚区総合庁舎3F 多目的スペース（中）
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数55人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・金融経済教育 ・投資ゲーム体験

① 当日のプログラムの説明

- ・「10万円を10万円以上にしよう」投資体験ゲームに参加し、お金の勉強をするプログラム

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・投資体験ゲームを通じて、お金をふやすことができて楽しかった。
- ・銀行の仕事内容がわかった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

- ・今回はこのような機会を企画いただきありがとうございました。
- 参加者の子どもたちと楽しくお金の勉強ができました。
- 今後も子どもたちとの接点を増やし、金融経済教育に力を入れていきたいと思っています。

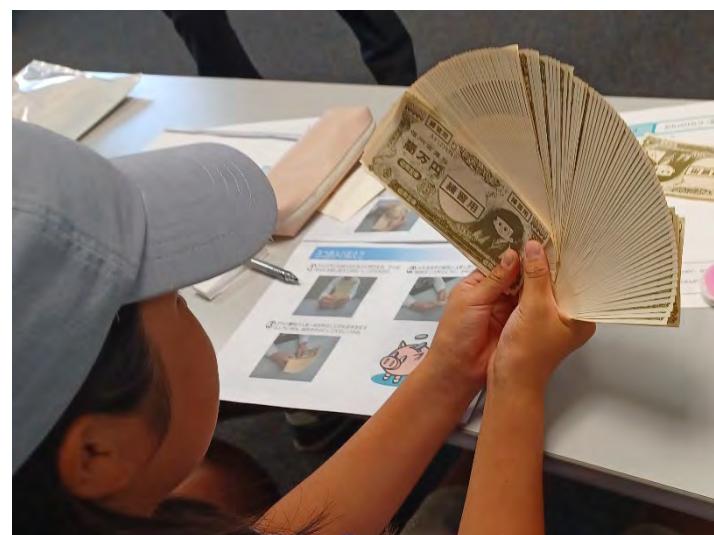
No.とプログラム名	No.41 キッズ・マネースクール
企業・団体名	横浜信用金庫
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【中区】横浜信用金庫 8階大会議室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数30人
参加の目的 (150文字程度)	キャッシュレス化が進み「お金」の使われ方が見えにくい現代だからこそ、お金を取り扱う仕事の様子やお札を使った体験を通して、子どもたちに「お金」について学んでいただく良い機会ととらえ参加いたしました。

① 当日のプログラムの説明

- 1 信用金庫のお仕事（講義）：30分
～信用金庫はどんな仕事をしているのだろう？～
- 2 本店営業部内見学ツアー：30分
～実際に仕事の様子を見てみよう！～
- 3 1億円の重さ体験：10分
～1億円の重さってどれくらい？～
- 4 お札の偽造防止技術説明：20分
～新しいお札の秘密を見つけよう！～
- 5 お札の勘定体験：20分
～札勘上手にできるかな？～

② 児童の様子





③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- 信用金庫の裏側が見れて楽しかった。
- お札の秘密を知れて自由研究に役立ちました。
- お札の数え方は、上手になりたい。また来たい。
- 信用金庫内の探検楽しかったです。
- 100円玉の塊や千円札の束を見て楽しかった。
- 金庫の中は安全と知りました。
- 一億円はとっても重かったです。
- たくさんの楽しい思い出をありがとうございました。

④ 企業・団体の気付きや感想など

「キッズ・マネースクール」は、子どもアドベンチャーカレッジに参加する前から当金庫で実施しているプログラムです。

これまで保護者の方より、小学校高学年になりお金のことを学ばせたいが、どのように説明したら良いか分からぬとの意見が多く寄せられていました。

当金庫としては、キャッシュレス化が進み「お金」の使われ方が見えにくい現代だからこそ、お金を扱う仕事の様子やお札を使った体験を通して、子どもたちに「お金」について学んでいただく良い機会と捉え本スクールを実施しています。

子どもたちから、積極的に質問が出るなど改めて子どもたちの探求心の高さに驚かされ、「お金」について学びたいニーズが多いことを改めて実感しました。

今後も子どもアドベンチャーカレッジに参画し、地域の皆様のニーズにお応えできるよう努力していきたいと考えています。

No.とプログラム名	No.42 子どもアドベンチャーカレッジ 2025～お金のおもさを感じよう！～
企業・団体名	株式会社神奈川銀行
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【中区】株式会社神奈川銀行 本店
対象学年と参加人数	小学3～4年生、参加児童数18人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のおもさ（=大切さ）を学んでもらうため。 ・将来を担う子どもたちに、地域金融機関として「金融経済教育」を行い、金融リテラシーの向上へ貢献するため。

① プログラムの内容

- ・銀行・お金の役割、大人になるまでに必要なお金について（講義・クイズ形式）
 - 講義形式でお金の「大切さ」という意味での「重さ」を学んでもらいました
- ・銀行探検（本店営業部の見学）　　・札勘（紙幣の数え方）体験
- ・お金の重さ当てクイズ
 - 硬貨の入った袋を持ってもらい、お金の「物質量的」な意味での「重さ」を体感していました
- ・本物の1億円を持つ体験　　・おこづかい帳の使い方



② 児童の感想

- ・大人になるまでに3000万円も必要なことに驚いた。
- ・お金を大切にしようと思った。
- ・お金の歴史が分かった。
- ・札勘を家でもやってみたいと思った。
- ・銀行は大事な役割をしていることを知った。

③ 企業・団体の気付きや感想など

積極的に取り組んでくれており、銀行やお金について興味を持ってもらえたことを伺えた。今後も地域に根差す金融機関として、子どもたちの金融経済教育に取り組んでいきたい。

No.とプログラム名	No.43 日銀の仕事にチャレンジ！
企業・団体名	日本銀行横浜支店
実施日	8月5日（火）、6日（水） 両日とも午前・午後に実施（計4回）
会場	【中区】日本銀行横浜支店 会議室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数42人
参加の目的 (150文字程度)	夏休みの機会を捉えて、児童に日本銀行の仕事やお札に興味をもっていただくため。「日銀の仕事にチャレンジ！」をテーマに、楽しく日本銀行やお金について学べるような機会にしていただくため。

① 当日のプログラム内容

「1日課外授業」の形式で、日本銀行の仕事内容紹介やお金の使い方について考える「カレー作りゲーム」等を実施しました。

- ・ 1時限目（社会）：日本銀行の業務内容の紹介
- ・ 2時限目（理科）：お札の偽造防止技術の紹介
- ・ 3時限目（体育）：1億円の重量体験や広報グッズを用いた記念撮影
- ・ 4時限目（総合）：予算内でカレー作りに必要な材料を買い集めるゲームを体験
 - ゲーム後に、これからお金を使う際に気を付けたいことおよび当日の感想を各自発表

② 当日の様子

○銀行券の偽造防止技術の観察



○広報グッズの見学の模様



○カレー作りに必要な材料を買い集めているところ



○お金の重量体験



③ グループディスカッション、振り返り会で出された意見や感想など

○振り返り会（カレー作りゲーム）

- ・買いたかったものの値段が上がっていたので、予算内で買えるものに変える工夫をした。
- ・限られた予算で買い物することの大変さが分かった。
- ・予算に余裕をもち、お金を残しておくことが大切だと思った。
- ・普段の買い物も、お財布にいくらあるのか確認し、買いたいものを考えてから行くようにしたい。

○その他のプログラム

- ・マイクロ文字など、身近なお札に隠されている偽造防止技術を知ることができてよかったです。
- ・子どもが現金を使う機会が減っているので、じっくり観察する良い機会になった。
- ・1億円の重さ体験などをすることができてよかったです。

④ 当店における気付きや感想等

- ・透かしやマイクロ文字といったお札の偽造防止技術をご紹介し、参加者の方にも実際にお札の表面をルーペ等で確認していただき、大変盛り上りました。
- ・自由見学の時間では、1億円の重量体験や日本銀行の業務内容を紹介するパネルをご覧いただきました。記念撮影をされる方も多く、好評でした。
- ・カレー作りゲームでは、買いたい材料の一部が値上げになっているなか、手元の予算で買えるものを考え直すなど、一生懸命取り組んでいただきました。振り返り会では、カレー作りゲームの感想とゲームを通じて感じたことを1人ずつ発表してもらい、今後のお金の使い方について考える良い機会になったのではないかと思います。
- ・今後も日本銀行の役割や業務を広く皆様にご理解いただけるよう努めて参ります。

子どもアドベンチャーカレッジ 2025 プログラム実施報告書

No.とプログラム名	No.44 コールセンターお仕事体験！もしも自動車事故がおきたら？
企業・団体名	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
実施日	8月5日（火）6日（水）
会場	【西区】MMパークビル4階あいおいニッセイ同和損害研修室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数34人
参加の目的 (150文字程度)	当社は地域密着を経営方針とし、地域社会の発展に貢献することを重視しています。本プログラムの参画を通じて、損害保険業務やコールセンター業務への理解促進につなげたいとの思いから毎年参加しています。

1 当日のプログラムの説明

自動車事故等の受付を行うコールセンターの電話受付システム・インカム（いずれも実機）を使用し
ダミーの自動車事故の受付体験（保護者の方にもご参加いただきお客様役をお願いしています）

2 児童の様子や学生サポーターの様子

振り返りの会の様子



お仕事体験の様子



3 プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

○お仕事体験をしてどんな気持ちになった？

- 大変だったけどお客様にありがとうといつてもらえるとうれしいと感じた
- 入力等が大変だったけど、すごく勉強になった
- すごいなと思った - 楽しかった - 自分が今働いているような気持ちになった
- またやってみたい

4 学生サポーターの様子や気付き、感想など

想像以上に難しく、子どもたちと一緒に体験できて楽しかったとの感想をもらいました
(学生サポーター受け入れプログラムのみ)

5 企業・団体の気付きや感想など

感想でコールセンターのお仕事で一番大切だと思ったことをきいています
その中で多数のお子さまから
-お客様に安心してもらえること
-お客様によりそうこと
-いつでも明るく元気でいること
-電話は顔が見えないので明るく話す
といった、我々が日々応対品質向上のために留意していることを短時間の体験から感じてもらい
小学生もこんな短時間で重要だと感じているといったことに驚嘆するとともに、改めて身が引き締まる思いです。

No.とプログラム名	No.45 議事堂探検！議員を体験！
企業・団体名	横浜市会議会局政策調査課
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【中区】横浜市会議事堂
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数38人
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちが横浜市会について知り・学ぶことで、議会をより身近に感じ、政治や議会に興味・関心を持ってもらうことを、本プログラムの参加目的としております。

① 当日のプログラムの内容

- 10時00分～ ガイダンス、学習動画視聴&市会クイズ
- 10時20分～ 議員体験「ボタン採決」、写真撮影&質問タイム
- 10時50分～ 議事堂探検ツアー
- 11時10分～ クロスワード答え合わせ、振り返り会

議員体験「ボタン採決」では、架空の議題について、実際に使用している議場システムを用いて賛成・反対の押しボタン採決を行いました。議事堂探検ツアーでは、議事堂内に掲示した横浜市会に関するキーワードをクロスワード形式で埋めていくことで、楽しみながら議会について学習しました。



議員体験「ボタン採決」の様子



議事堂探検ツアーの様子

② プログラム中の児童の言葉や振り返り会などで出された児童の感想など

（参加した児童の皆さんのが感想の一部です）

- ・多数決でボタンを押すのが楽しかった！
- ・社会の教科書に載っていないところが見れて嬉しかった！
- ・市のことについて、話し合って決めていることがわかった。

③ 企業・団体の気付きや感想など

参加した児童から「次は傍聴に来てみたい！」との声もあり、横浜市会について理解・関心を深めて頂く機会になったと考えております。また、児童のみならず、保護者の方も積極的に耳を傾けてくださいました。運営側としても有意義な2日間となりました。

No.とプログラム名	No.46 キャラクターデザイナーになってみよう！
企業・団体名	Craft for Kids
実施日	8月6日(火)
会場	【港南区】上永谷駅前コミュニティハウス 会議室
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数15人

【参加の目的】

将来どんな職業が必要？働くってどんな気持ち？ChatGPTなどが普及する昨今。自分で考えるのって大変で面倒だと感じる子どもも。実際にクライアントから依頼を受け、それに向き合いキャラクターを作っていく中で相手の立場になって想像したり仲間と協働したり。その中で得られる様々な《感情》や《達成感》は実際に人と人が心を通わす多くのコミュニケーションの中にこそ存在する。その気持ちは将来どれほどAIが進化してもどんな仕事にも必要だということをこのデザイナーエクスペリエンスを通して感じて貰いたかった。

《プログラムの内容》キャラクターをデザインするデザイナーのお仕事体験。



①どんな風にキャラクターが生まれていくか？
デザイナーの実際の仕事例を見ながら知る。

②4グループに分かれファシリテーター扮するクライアント（お客様）から
どんなキャラクターをなんの為に作りたいのか？などさまざまな質問を
しながらヒアリングシートを埋め、全体のコンセプトをまとめていく。▼



クライアントの要望例：

- ・赤ちゃん連れでも利用できる親子カフェをオープンするので看板キャラクターをつくりたい。
- ・地元で古くからやっている銭湯をリニューアル。若者にも親しんでもらえるキャラがほしい！
- ・など。



③頭に浮かんだキャラクターをそれぞれラスベガス。
話し合って一つのキャラクターにまとめ、デザインシートに清書する。



④各チームみんなの前でプレゼンテーション（お披露目）
全体のコンセプトや制作過程の苦労、思いなどを発表。
クライアントからの感想、お礼を貢って体験の振り返り。

《児童の意見や感想》

- みんなの絵がバラバラでなかなかまとまらなかったけど、良いところを取り合ってひとつのキャラクターになって大満足！
- なかなか思いつかずに考えるのは大変だったけど最後にクライアントの人からお礼を言われて感動した！
- 本当に自分たちでキャラクターが作れるのか心配だったけどみんなで意見を言い合って完成できたから嬉しかった！

《今回の気付き、感想》

- クライアントとのやり取りの中、キャラクター設定に留まらずお店のキャンペーングッズなどを提案する姿もあった。
- みんなの意見が分かれ悩む場面も見られたが、それぞれの良い点を上手く組み合わせ一つの形にしていく姿が見られた。
- インタビュー形式でクライアントと会話を交わしシートにコンセプトをまとめていくことで相手の立場になって考えられた。
- クライアントの為に素敵なキャラクターを完成させたい！という気持ちがメンバー同士に広がり絆がどんどん深まった。

No.とプログラム名	No.47 誰もが天才画家！色の魅力を体感しよう
企業・団体名	お絵描き工房 光
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【戸塚区】とつか区民活動センター 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数22人
参加の目的 (150文字程度)	「誰でも簡単に素敵なお絵が描けて心身に平穏と活力をもたらす」そんなパステルシャインアートを体験してもらうことにより、子ども達の自己肯定感を高めるお手伝いが出来ればと思い参加しました。

① プログラムの内容

ストレッチと深呼吸で緊張をほぐしてから色についての簡単な説明(5分)

パステルアートで“海月”を描く(70分)

- ・講師インストラクション
- ・お絵描きタイム

テーブル毎に作品をシェア(1テーブル4人または5人)(15分)

② シェアタイム・終了後の子ども達の感想

- ・思っていた色と実際の色が違ったけど納得のいく絵が描けて良かった
- ・グラデーションが凄くきれい！
- ・同じテーマでもみんな違うのが面白い
- ・初めてだったけど簡単だった

③ スタッフメンバーの気付きや感想

- ・初めての書き方に戸惑っていたのか？頭の中で構想を練っていたのか？最初なかなか手が動かなかった子ども達でしたが、気づけば皆没頭して描いていたので、あまり口出しせずに見守る事も必要なのだと思いました。
- ・シェアの時にあまり発言しない子の言葉をどうしたら引き出せるかが今後の課題。
- ・時間配分を工夫して絵を描く時間をもう少し充実した方が良かった。
- ・帰り際の子ども達の笑顔が良かった。



No.とプログラム名	No.48 『? (ハテナ)』をめぐる冒険～子どものための哲学カフェ～
企業・団体名	アートの時間
実施日	8月8日(金)
会場	【戸塚区】とつか区民活動センター・会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数14人
参加の目的 (150文字程度)	対話の重要性が説かれる昨今、大人向けに『哲カフェ』を定期的に開催している。自分の言葉で語り、多様な考えを受け止め合い、自身の考えが揺らぎ、更に深めるという体験を、正解のない人生において良き礎の一つにしてもらえた、という思いで参加。

① 当日のプログラムの説明

カフェネームと「好きなもの」で互いを知り合う→『ちぎった紙は何に見える？』=何を言っても安心な場、多様な見方に気づく→『抽象画にタイトルをつけよう！』=自由な発想、他人のアイデアの面白さに気づく→本日のテーマを参加者全員で出して1つに決める→『恋って何だろう？』→意見を出し合う→出きらないところでタイムアップ→「これから的人生で答えを見つけてください」で終了。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

色々な場面で「私はこう思う」「そうだ、そうだ」「○○さんの意見もわかる」「自分はこう思っていたが、○○さんの意見もいいと思う」「でもやっぱり私はこう思う」などの発言がたくさん聞かれた。一方で、熟慮の末に出産と育児について他のアドベンチャーカレッジの体験を語ってくれた子の発言を周囲が重く受け止める場面もあった。最後に感想を聞くと、全員が「楽しかった」と言ってくれた。「すごく頭を使った」とも。

④ 企業・団体の気付きや感想など

想定外に意見が活発に出て、思うように進められなかつたが、多くの子どもたちから、意見の中身云々の前に、まず自分を十分に受け止めて欲しいという思いが伝わってきたのでそこを重視した。大人数で活動する普段の学校では、そういう体験が乏しいのかも知れない。「受け止めてもらうこと」「真剣に考えること」、これが「楽しい」につながったのなら大変光栄である。

No.とプログラム名	No.49 キッズディレクター！ グループで動画制作をしよう！
企業・団体名	特定非営利活動法人キッズディレクター
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）、7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【中区】横浜市青少年育成センター 研修室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数38人
参加の目的 (150文字程度)	1自分を表現できることの大切さ 2創造することを楽しむ 3映像制作のスキルアップ 4完成させることでの達成感 を目的にいたしました

① 当日のプログラムの内容の簡単な説明

映像制作を体験 映像制作の基礎、映像と動画の違い、協働すること、伝わることを学習いたしました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

参加者より 楽しかった 作品が完成してうれしかった 編集がむずかしかった

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

気温がものすごく高かったので、口ケでの撮影が厳しかったので飲み物や氷などの用意が乏しくて反省しています

保護者の方や現場のスタッフの方々にお世話になりました

No.とプログラム名	No.50 子どもも大人も楽しめる「遊び」をデザイン・企画しよう
企業・団体名	関東学院大学・佐々ゼミナール
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【中区】関東学院大学 関内キャンパス 教室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数99人
参加の目的 (150文字程度)	主に、大学生のゼミナール活動として活用させていただいている。活動を通じて、学生の成長が期待できるからです。

① 当日のプログラムの説明

まず、ジンガを使って自己紹介を行いました。次に、物語を子どもたちに作らせて、その物語にそったオリジナルすごろくを企画、制作し最後にそれで遊ぶというものです。遊んだ結果をふまえてオリジナルすごろく改善を行います。デザイン思考という手法にそっています。

② 児童の様子や学生の様子

写真撮影の許可を得たものだけを掲載しております。



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・楽しかった
- ・オリジナルのすごろくが作れて良かった
- ・このすごろくが製品化された場合、500円以内なら買う
- ・大学のキャンパスの中が見ることができて、楽しかった。

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

- ・盛り上がりすぎ、時間がおした会があるほどだった。
- ・大学生と小学生が大変に仲が良くなり、大学生と手をつないで行動する様子が見受けられました。
- ・全体的には、去年の活動をふまえ、さらにバージョンアップしました。

No.とプログラム名	No.51 戦後 80 年 こどもたちが見た戦争と感じた平和
企業・団体名	横浜市健康福祉局 援護対策担当
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【港南区】かながわ平和祈念館
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数22人
参加の目的 (150文字程度)	今年は戦後80年を迎え、戦争を体験された方が少なくなる中、戦争の記憶を共有・継承し、その学びを現在・未来に生かしていくため、戦争を体験した方のお話を聴いたり、戦没者の遺品展示の解説を通して、戦争とは何か・平和とは何かについて学ぶ機会を設けることを目的としました。

■プログラム内容

- ①遺品展示ホールを県遺族会の方に解説していただきながら見学
- ②お父様が硫黄島で戦死されており、硫黄島での遺骨収集に参加され、ご自身も戦争を体験された方からのお話と質疑
- ③学んだこと・感想の発表

■参加児童の意見、感想など

（遺品展示ホールの見学）

- ・いろんな国で死んじゃった人がこんなにいて驚きました。
- ・私たちと同世代の子どもたちがいっぱい亡くなってしまった事。



(戦争を体験された方からのお話を聴いて)

- ・80年経っているのに、まだ見つかっていない遺骨があるというお話が印象に残った。
- ・お父さんが戦死し、お父さんとの記憶が一つしかないことが心に残った。
- ・(硫黄島の壕について) 土の中で長い時間過ごしていて、トイレやキッチンも手作業で作っていて、今の家のように部屋が分かれていないということが心に残った。
- ・硫黄島に行って、早く（遺骨を）見つけたいという気持ちが伝わってくるお話でした。

(全体を通じて)

- ・いろんな怖いことが起きていて、戦争が起こらないでほしいなと思った。
- ・戦争では、普通に暮らしていた人も関係なく死んでいくのが怖いと思いました。
- ・戦争について詳しく調べたい。広島の原爆や、原爆ドームについても。
- ・家族と一緒にいられることは幸せだということが分かりました。
- ・戦争中はみんなが苦しい思いをして、命がけで生きていたことが分かりました。



■企業・団体の気付きや感想など

- ・参加児童は、現在の自分の生活と戦時中の生活、硫黄島の壕での様子等を比較し、考えている様子がうかがえました。保護者の方からも、保護者も戦争を体験していない世代だからこそ、今回のお話を聞けた事はとても貴重な体験でしたというお声を頂きました。
- ・各自の感想を発表し、共有する時間を設けましたが、初めて会う人の中で発表をするというのは参加児童にとって緊張する場面のようでした。

No.とプログラム名	No.52 「めざせ！お箸マイスター」～箸を作つて、使って、考えよう～
企業・団体名	NPO 法人 みんなのお箸プロジェクト
実施日	8月5日（火）・6日（水）・7日（木）・8日（金）
会場	【戸塚区】とつか区民活動センター 【栄区】栄区民文化センターリリス・あーすぶらざ
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数103人
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちが箸の文化を学び、箸作りを体験することで、箸が単なる食具ではなく、日本の文化の象徴であることを知り、自国の文化を大切に思う心を育てる目的としています。また、保護者の方々にも当団体の活動をご理解いただき、活動を広めることも目的として参加いたしました。

■当日のプログラム内容

* プログラムのテーマ

「世界へ羽ばたく子どもたちのために、日本の箸文化を伝える」

* プログラムの構成

箸は単なる食具ではなく、命を繋ぎ感謝するための日本文化として捉えることを基本とし、以下の内容で実施いたしました。

1.箸の歴史・文化学習

- ・箸の語源・歴史・世界の三大食事方法などをクイズ形式でわかりやすく説明
- ・「はし」の語源を知ることにより、「いただきます」の意味を学習
- ・自然界の恵み、動植物の命への感謝について考察

2.箸作り体験

- ・箸を上手に持つためには、自分の手にあった箸（一咫×1.5）が必要なことを学習
- ・手のサイズに合わせたマイ箸の製作

3.箸の持ち方練習

- ・製作した箸を使用した正しい持ち方の練習
 - ・歌に合わせた持ち方練習
- （動画使用：(<https://youtu.be/7g1C4bK5gPc>)）

4.グループワーク・発表

- ・ワークシートを基に気付きや自分ができることなどをグループで話し合い
- ・各自による発表

めざせ！お箸マイスター

(1) この講座を選んだわけ

(2) お箸deクイズの答え

(3) わかったこと・もっと知りたいこと

(4) これから、行動できそうなこと

自己評価

箸育キッズ

もっと箸のことを調べたい方は、こちらから

QRコード

ワークシート↑

■ 当日の流れ

ガイダンス・お箸クイズ	20分
箸作り体験	30分
箸の持ち方練習	20分
グループワーク・発表	20分

■ 当日の様子



■ 児童の感想（ワークシートより抜粋）

* 箸の持ち方について

- 「お箸の持ち方を詳しく知れたので、よかったです。正しい持ち方をしたら、いつもより持ちやすかったです。これから正しい持ち方を癖にして、ご飯を食べたいと思います。」

* 箸の歴史・文化について

- 「箸の歴史がわかりました。箸の練習をして箸の持ち方を意識して、ご飯を食べるようになしたいです。」
- 「国によって箸の形が違うことを知り、もっと詳しく調べてみようと思いました。
- 鉛筆と箸が同じ持ち方だと初めて知りました。正しく持ちたいです。」
- 「実は箸は、すごいものだとわかりました。」
- 「箸で吃るのは、当たり前だと思っていたが世界でそうではないことがわかりました。」

* 今後の目標

- 「正しい持ち方で慣れていって、きちんと使えるようになりたいです。」
- 「きれいに食べられるようになりたいから、お箸の持ち方を練習します。」

* 家族への共有意欲

- 「学んだことを「父・母・兄弟・友だち」などに教えたいという声が多数ありました。」

* スッタフが見た子どもの様子

- 「世界の中で、手で食事をしている人は40%もいることに驚いていました。食事方法について考えたこともなかったようで、世界を見ると～という視点が加わることで視野が広がり、多様性に気づくことができたようです。」
- 「箸の歴史に関心を持ち、箸への興味が増したようでした。」

■ 保護者の感想（アンケートフォームより抜粋）

* 箸の持ち方・食に対する意識の変化

- ・「箸の持ち方に対する意識が変わったと思います。」
- ・「あまり食べることに興味がないので、自分で作った箸で食に関心が持てたのではと思います。」

* 文化・歴史への理解

- ・「毎日何気なく使っていたお箸にも、文化や歴史があることに気づくきっかけになったと思いました。」
- ・「お箸の歴史から学べて、自分にあったサイズのお箸を製作できたので、愛着が湧き、丁寧に使うようになると思います。とても良い経験になりました。ありがとうございました。」

* 学習方法への評価

- ・「知るだけではなく体を動かして体験すること、考えて発表することで五感全てで学ぶことができたと思いました。」
- ・「本人はあまり乗り気ではなかったですが、楽しんでおり、箸についての知識や、日本文化への興味を広げるきっかけになったと思います。」

* 団体への評価

- ・「ボランティアの方がすぐ近くにいて分かりやすかったです。」
- ・「説明がとてもわかりやすくて、大人も楽しかったです。」

* まとめ

保護者の満足度は「満足・やや満足」を合わせると、どの項目でも90%以上の満足感が得られています。

座学、工作、練習に加えてグループワークにも意義を認めていただきました。

時間的にもう少し余裕がほしいという意見もありましたが、少人数でボランティア、スタッフの目が届きやすく安心して活動できたとの感想も多くいただきました。

■ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

* 学生サポーターの感想

・私が参加したみんなのお箸プロジェクトでは、子どもたちに箸の長さを測ってもらい、自分に合った長さのお箸を作る活動を担当しました。その過程で電気ペンやのこぎりを使うため、子どもたちの安全を常に見守る必要がありました。

最後のまとめの時間には、子どもたちが自分の意見を発表できるようにサポートしました。

この活動を通じて、子どもとのコミュニケーションには難しさがあることを実感しました。

話し方や声のトーンに気をつける必要があり、優しい言い方や笑顔で接することが大切だと感じました。

全体として、とても良い経験になったと思います。

分からぬところは先生が教えてくださり、他の学生サポーターの助けもあったので、難しさを感じることはあまりありませんでした。

子どもたちの未知のものに対する好奇心を見ることで、自分の子どもの頃を思い出し、この活動に参加できたことをとても幸運に思います。

・今回、お箸プロジェクトさんに学生サポーターとして関わらせて頂きました。事前に打ち合わせと箸作り体験を行い、プログラムの全体像を掴んだものの、自分には何が出来るのだろうかと考えていました。その中で自分が箸を作った際、かなり時間がかかってしまった反省を生かし、限られた時間でどう子ども達を安全で円滑にサポートするかに注視していました。

今回、小学3～6年が対象で各班の4、5人を担当していましたが、大人しい子から活発な子までおり、満遍なく見ること自体が難しいとまず感じました。正直、初日の時点では自分にとっても未知な要素が多く、とにかくスタッフの皆さんを見よう見まねするのが精一杯で困った際は手厚く教えて頂き逆にサポートされる場面もありました。

ただ、2日目以降はその学びを活かして対応することが出来たように感じています。前半のクイズで子ども達がどのようなキャラクターを持っているかを簡単なコミュニケーションで掴みながらそれに合わせて箸作りでの関与の具合を調整することで作業の進行に合わせた対応ができました。また、バーニングペンやのこぎりを使用する工程でもそれぞれの安全に気をつけて取り扱いができる、怪我なく終えられたことも良かったです。

子どもアドベンチャーカレッジを通してお箸プロジェクトさんに関わったことで大学4年間で授業を受けているだけでは出来ない経験を積むことができ、非常に有意義な時間でした。4日間で自分なりに試行錯誤し取り組んだ結果、何人の子どもが箸を持って笑顔で帰ってくれたことが何よりも嬉しくやりがいを感じられました。

■ 団体の気付き、感想など

アドベンチャーカレッジへの参加も3年目となり、スタッフも慣れてきて、プログラム進行もスムーズになりました。

今回は、開催会場を少なくしたことで、当日のスタッフの負担も軽減されたと思いますが、事前準備や事務作業等の負担は変わらずでした。

プログラム全体としては、子どもたちの積極的な参加と保護者の方々からの高い評価をいただくことができ、箸文化の普及という当団体の目標に向けて有意義な活動となりました。

*まとめ

本プログラムを通じて、子どもたちは箸が単なる食具ではなく、日本の文化の象徴であることを学び、正しい箸の持ち方を身につけることができました。

また、世界の食事方法の多様性を知ることで、自国の文化への理解と誇りを深めることができたと考えています。

保護者の方々からも高い評価をいただき、家庭での食事マナーや文化への関心向上につながったと思われます。

今後も継続して参加し、より多くの子どもたちに日本の箸文化を伝えていきたいと考えています。

No.とプログラム名	No.53 多目的ホールの裏側を見てみよう！
企業・団体名	ボッシュホール（都筑区民文化センター）
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【都筑区】ボッシュホール（都筑区民文化センター）ホール
対象学年と参加人数	小学3～5年生、参加児童数22人
参加の目的 (150文字程度)	ボッシュホールは、子どもたちに文化芸術や創造体験の場を提供し、地域交流と学びを促進するとともに、文化センターの魅力と親しみを広く伝えることを目的に参加します。

・ 当日のプログラムの説明

第1部では、舞台裏を巡るバックステージツアーと、照明体験・スポットライトルームからスポットライトの操作体験・音響操作体験を実施。

第2部では落語の舞台である高座を設営し、三遊亭萬丸氏の落語鑑賞。そして舞台撤収までの興行する際のスタッフ体験プログラムを開催しました。

・ 児童の様子



・ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

参加者の多くは家族から本イベントを知り、約9割が「とてもおもしろかった」と回答。プログラム内容の落語の小話、照明・音響を操作する体験型バックステージツアーは普段入れない機構室やスポットライト操作が好評でした。また舞台設営・撤収や照明調整を協力して行う中で、仲間と協力する力や初対面でも交流する力が育まれたとの声が多く、落語に興味を持った参加者も多数。スタッフへの感謝の言葉も多くいただきました。

・ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

子どもたちが最後まで安全に楽しめたことに安堵し、落語への関心の高まりを嬉しく感じました。アンケートから得た気づきを生かし、今後も地域に根ざした企画を届けてまいります。

No.とプログラム名	No.54 一日子どもアドベンチャーカレッジ留学体験
企業・団体名	横浜市国際学生会館
実施日	8月7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【鶴見区】横浜市国際学生会館 3Fホール
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数72人
参加の目的 (150文字程度)	学生会館の活動や仕事内容を知ることを通して、児童たちの国際理解を深め、国際交流関係に关心を持つ人材育成の第一歩とする。

① 当日のプログラムの内容の簡単な説明

別添①タイムテーブルのとおり

② 児童の様子

別添②のとおり

③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

別添③のとおり

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

- ・今回が初めての参加であり、手探りの開催であったが、児童たちは関心を持ってくれたと思われる。
- ・当初は4回の開催で、毎回20人、計80人を当選者とする予定が、応募状況をみて毎回30人、計120人の当選として、より多くの児童が参加できるようにした。
- ・学生会館の仕事である「民族衣装の貸出業務」の説明の一環として最後に民族衣装の試着の機会を設けたが、これが児童たちの印象に強く残ったようで、それに関する感想が多くかった。
- ・中国とミャンマーの留学生に手伝いを依頼したが、彼らのことも児童の印象に残ったようである。
- ・振り返り会では全児童一人ひとりに感想を聞き、発言をしてもらった。中には感想を言えない児童もいたが、その場合には無理強いはしなかった。

別添①

子どもアドベンチャーカレッジ 2025 タイムテーブル			
2025年8月7日（木）・8日（金）			
午前の部	午後の部	次 第	内 容
10:00～	14:00～	学生会館の説明	
10:05～	14:05～	施設見学	参加者を2グループに分け、会館内を案内
10:25～	14:25～	会館の仕事紹介①	スクールビギットクラス
10:55～	14:55～	～休憩～	
11:05～	15:05～	会館の仕事紹介②	民族衣装の貸出業務（試着あり）
11:25～	15:25～	振り返り会	子どもたちの感想を聞く
11:30	15:30	終了	修了証の配付

別添②



別添③

～子どもアドベンチャー感想～ 8月7日 AM

- ・初めて着てみて分かったことがあった
- ・日本の服と違うのがおもしろかった
- ・お洋服がかわいかった
- ・色々な服が着られて楽しかった × 3
- ・13階の図書室からの景色がきれいだった × 2
- ・もっと色々な服が着たかった
- ・色々な国の方が知れて嬉しかった
- ・中国語の「きらきら星」が歌えて良かった、楽しかった × 3
- ・色々な服がきれいで良かった
- ・学生会館で行っていることが分かった
- ・服を着て色々な国の文化を楽しめた
- ・色々な柄の服があってすごい
- ・柄、イメージがみんなちがって面白かった
- ・住んでいる部屋が思ったより広かった。よかったです
- ・部屋を見て住んでみたくなった
- ・色々な服、形、色がちがって面白かった
- ・もっと色々な服も試したかった
- ・日本は上下分かれた服が多いけど、つながっている服があっておもしろかった
- ・きらきら星、中国語難しかった
- ・留学生が住む部屋があつてビックリした
- ・衣装のししゅうがきれいで良かった
- ・ここでどんなことをしているのか知れた
- ・なんでこんなに重たい帽子かぶってるんだろう？

～子どもアドベンチャー感想～ 8月7日 PM

- ・来てみてここでやってる事、中国のことをよく知れてよかったです
- ・この服が着れてよかったです
- ・いろんな服をきてよかったです × 3
- ・国の方が知れてよかったです
- ・中国のご飯が知れてよかったです
- ・中国の事やいろんな民族衣装があつてすごかったです
- ・すこしやすそうでよかったです
- ・ドレスがかわいかったです
- ・ここに住んでいる人の住んでいる所、中国のことも知れてよかったです
- ・色々な国の服を着れてよかったです
- ・色々な服が着れて楽しかった

- ・服がかわいかった
- ・ここを知れてよかったです
- ・色んな国の民族衣装が見れて良かった
- ・色々な服が着れてよかったです、2~3つ切れた

～子どもアドベンチャー感想～ 8月8日 AM

- ・外国から来た人が安心して住める工夫がたくさんされていて驚いた
- ・13階建てのマンションだと知らなかった
- ・いろんな国の留学性が住んでいるのはすごいと思った
- ・色々な民族衣装があったのが驚きだった
- ・色々な民族衣装があって着方も様々で面白かった
- ・部屋で勉強できる机や図書館があってすごかった
- ・民族衣装に一つ一つ特徴があって面白かった
- ・たくさんの留学生を支えているのがおどろいた
- ・安全・安心にすごせる環境があってすごい × 2
- ・たくさんの留学生がすんでいてビックリ！
- ・300着の服！すごい！
- ・民族衣装がはで！！
- ・国によって服がちがう、おもしろい（中国は歩きにくい、韓国は逆）

～子どもアドベンチャー感想～ 8月8日 PM

- ・ミャンマーとか色々な国の人のこと知れてよかったです
- ・13階からの眺めがきれいだった
- ・13階の学生の部屋が楽しかった
- ・13階の図書室が楽しかった
- ・色々な国の服が着れてよかったです × 2
- ・色々な国の服が見れてよかったです × 2
- ・色々なことが知れて楽しかった
- ・建物も色々回って、民族衣装もたくさん着れてよかったです
- ・色々な服が着れて楽しかった
- ・色々な国の服や言葉などが知れて楽しかった
- ・色々な国の方が知れてよかったです
- ・ミャンマーについて知れて楽しかった
- ・ミャンマーのおいしい食べ物は知れて楽しかった

No.とプログラム名	No.55 ・横浜にある国際機関の仕事を知ろう！ ・エチオピア人留学生のアフリカ紹介
企業・団体名	横浜市国際局
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【西区】横浜国際協力センター GALERIO
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数43人
参加の目的 (150文字程度)	横浜国際協力センターに入居している国際機関等と連携して、食や熱帯林をテーマにワークショップを開催し、地球規模の課題について子どもたちに自分事として考えてもらう機会を提供したり、エチオピア人留学生に協力してもらって子どもたちにアフリカの文化に触れる機会を提供することで、次世代を担う国際的な人材の育成に寄与することを目的に開催しました。

詳細は2ページ以降をご覧ください。

～育ててから食べるまでの「もったいない」を大学生と一緒に見つけよう！～
(IFAD Youth Club Japan)

※IFAD=国際農業開発基金

IFAD Youth Club Japan のメンバーと一緒に、「食品ロス」について学び、考えました。
ワークショップでは、消費者と生産者それぞれの立場になって、見た目の悪いきゅうりをどうしたら
無駄にしないですかを考え発表してもらいました。

～イベントの概要～

【日時】

8月5日(火)午前の部:10時～12時 午後の部:14時～16時

【プログラム】

- ・アイスブレイク
- ・IFAD Youth Club Japan からの授業
- ・ワークショップ～野菜の仲間外れをなくそう～
- ・まとめ



～参加した子どもたちの感想(一部抜粋)～

規格外野菜は普通の野菜と
見た目が違っても、とても
おいしいことを友達に伝え
たいです。

規格外野菜を、今度スーパ
ーや紹介されたお店やアイ
スクリーム屋さんに行って
買ってみようと思った。

仲間外れの野菜を買った
りしたら、地球温暖化の
ためにもなることを知れ
てよかったです。

～あなたと私、そして熱帯林～ (国際熱帯木材機関(ITTO))

ITTO の職員と一緒に、ワークショップ形式で、自分たちの生活の中で熱帯林に関係するものを探し、熱帯林が私たちの生活の中でどんな役割を果たしてくれているかを学びました。
そして、熱帯林を含めた地球の未来のために自分たちができることを発表してもらいました。

～イベントの概要～

【日時】

8月6日(水)午前の部:10 時～12 時 午後の部:14 時～16 時

【プログラム】

- ・アイスブレイク
- ・ワークショップ①「Getting to know you」(自分を知ろう)
- ・ワークショップ②「Tropical forests in our lives」(私たちの生活の中の熱帯林)
- ・まとめ



～参加した子どもたちの感想(一部抜粋)～

私たちが普段普通に使っているものが、熱帯林につながっていると知ってびっくりしました。

色々の木から作られて
いる物が分かり大切に
していこうと思います。

楽しかった。
未来のこと興味が持て
た。

おしえて！アフリカ先生！！～What a wonderful Africa/Ethiopia！～ (横浜市国際学生会館)

3人の留学生の先生によるアフリカやエチオピアの地理や文化、スポーツや料理についての発表を聞き、地域の特性や日本との関係・違いを考えながら学びました。

ワークショップでは、留学生と直接お話ししたり、英語でクイズや自己紹介をしました。

～イベントの概要～

【日時】

8月7日(木)午前の部：10時～12時

【プログラム】

- ・横浜市国際学生会館の紹介
- ・ケフィー先生によるアフリカ紹介
- ・留学生との交流会
- ・まとめ



～参加した子どもたちの感想(一部抜粋)～

すしのネタがけっこうエチオピアから来ることを初めて知った。

アフリカの食べものがおもしろかったからちょっと調べてみたい。

自分は今までアフリカが遠く感じていたけど今回の話を聞きアフリカが身近なそんざいになったと思います。

～IFAD Youth Club Japan の感想～

私たちは、これまで小学生対象のプログラムを企画した経験はありませんでしたが、小学生が規格外野菜に触れる機会はあまり多くないと思うので、伝えたいメッセージをいかに分かりやすく、興味を持てるようにプログラムに組み込むか試行錯誤しました。参加者の方からは、関心を持つ契機となったとの感想を頂いて大きな達成感があり、今回の学びを今後に活かしていきたいです。

～国際熱帯木材機関(ITTO)の感想～

It was a great opportunity to share ITTO's mission with the children. And we always take pride in sharing our work and activities, and most especially to enlighten the people on the value of tropical forests.

(仮訳:子どもたちにITTOの使命を伝える素晴らしい機会となりました。私たちは、常に私たちの活動について紹介できることを誇りに思っており、とりわけ熱帯林の価値について人々に啓発できることを大切にしています。)

～国際学生会館の感想～

参加した子どもたちにとって、普段会う機会が少ないエチオピアの方々との交流を長時間にわたって体感する貴重な経験は、他の事業にはない特徴的な内容となりました。今後もアフリカを含めた様々な国の出身者と交流する機会を保ちつつ、コミュニケーション重視で展開をしながら満足度を高めていきます。

～横浜市国際局の感想～

国際機関の皆様が取り組んでいる地球温暖化や食などの様々な課題解決について、子どもたちが真剣に考え、沢山の素晴らしいアイデアを発表する姿が頼もしく、励みになりました。

また、多くのお子さんや保護者の方々にアフリカ・エチオピアを身近に感じていただく機会をご提供できました。

今後も、世界の様々な課題をこのようなイベントを通じて発信し、子どもたちに“自分事”として考え、行動してもらえるよう取り組んでいきたいと思います。

No.とプログラム名	No.56 オートバックスのお仕事を体験しよう！
企業・団体名	株式会社アイエー スーパーオートバックス横浜ベイサイド
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【金沢区】株式会社アイエー スーパーオートバックス横浜ベイサイド 売り場・ピット（冷房完備）
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数20人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けイベントを通じて、オートバックスを好きになって頂く。 (未来客創造・永く繋がる) ・社会との関わりを大切にし、豊かな社会作りに貢献。

① 当日のプログラムの説明

- ・オリエンテーション・店内ツアー・作業体験・クイズ大会・振り返り

② 児童の様子や学生サポーターの様子がわかる写真（左：学生サポーター）



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・車好きの児童が多く、タイヤ交換作業や商品の品出しなどの業務体験では、目を輝かせて楽しんでいるように感じた。また、次回は「洗車体験もしたい」という声も多くあった。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

・事前に2回打合せを実施し当日を迎えた。学生サポーターは「人見知りを改善する事」と自ら課題を持ち、全体的なサポートに加え、児童との会話、保護者様との関わり、クイズ出題、振り返り実施、片付けを積極的に行った。私たち運営側との振り返りでは「もっと出来ることがあった」と悔し涙を流す場面はとても印象深く、実のある時間を共有できたと感じています。

⑤ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

- ・小3以下の児童も参加できるようなプログラムがあつても良いかもしれません。

No.とプログラム名	No.57 ホテルシェフと一緒に「五味五感」を学び、調理＆試食を楽しもう
企業・団体名	一般社団法人全日本司厨士協会 関東総合地方本部神奈川県本部
実施日	8月8日（金曜日）
会場	ウィリング横浜 調理実習室
対象学年と参加人数	小学5,6年生 参加児童数30人
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちと保護者を対象に、食育活動を通して食の大切さや楽しさを伝え る。体験やプロのシェフとの交流を通じて、日常の食事や食材に関心を持ち、 健康的な食習慣を育むきっかけを提供するため

①当日のプログラムの説明

- ・舌の味蕾の役割と味を感じる仕組みの説明
- ・五味が日常の食生活にどのように関わっているか紹介
- ・五味の味比べ体験（各味を試して違いを感じる）
- ・五感についての解説（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）
- ・嗅覚を使った香り当て実験
- ・五味・五感を意識しながらの調理実習

②児童の様子



③プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・実験で全問正解をすることができて嬉しかったです。でも、思ったより難しくて大変でした
- ・調理実習では、班のみんなと協力して作ることができました
- ・自分たちで作ったミルフィーユ、茶碗蒸し、凄く美味しかったです！
- ・五味五感について良く知れて、今までには無い体験をさせて貰って凄く、感謝しか無いです！
- ・私も食品関係のお仕事に就職したいなと思いました！
- ・いつも食べている時に、五味五感を感じてこんな感じなんだーとやってみたいと思います！
- ・元々料理をするのが好きだけど、将来シェフをやってみたいと思いました。

(保護者から)

- ・改めて食事の楽しみ方を見つめ直す機会になり、とても良かったです。ただお腹いっぱい食べるだけでなく、五味五感を感じながら味わい食材に感謝しながら子ども達と、これからも美味しい、そして楽しい食卓にしていこうと思いました。
- ・子どもが料理を好きになる秘訣（母は苦手なため）も、温かいエールと共に頂き、嬉しかったです。

④企業・団体の気付きや感想など

今回3回目の参加となりましたが、初めて実験を取り入れました。その結果、以前の回よりも消極的な子も積極的な子も分け隔てなく参加でき、テーブル毎に初対面である子どもたちが互いに楽しみながら学び合う姿が見られ、参加者・スタッフ双方にとって、非常に良い成果となりました。

No.とプログラム名	No.58 保育業界に向けたSDGs事業開発にチャレンジ ～床材や照射器に触れてみよう～
企業・団体名	株式会社エコテック
実施日	8月5日(火)
会場	【港北区】株式会社エコテック 2階 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数4人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> 超少子化となった時代の今、保育園や幼稚園などに通う子どもたちに何ができるか SDGs を絡めながら学んでほしい。 「コーティング」や「園舎点検」を知り、興味を持ってほしい。 地域の子どもたち・保護者に根付いた企業を目指したい。（地域貢献活動）

①当日のプログラムの説明



「開催内容」

- ①園児の床・園舎点検・SDGsについて簡単に説明・保育園の情勢を説明
- ②グループワーク：「保育園や幼稚園の子どもたちにどんなことができるか」SDGsのリソースカードを使用してアイデアを生み出そう
- ③コーティングされた床材に触れてみよう
- ④点検者になって園舎のイラストからどこが危なさそうか考えてみよう
- ⑤照射器に見て触ってみよう（自走式・ハンドの照射見学）

②児童の様子

③プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

→大人でも難しいSDGsの課題

カードに書かれた絵をヒントに、4つの項目を埋めていきました。
「花」をみんなで育てる。使わなくなったおもちゃを「フリーマーケット」で売る「お祭り」を開催して人を「集める」「ドローン」を使って清掃をするなど様々なアイデアが出ました。

その後、サンプル板を使いコーティングされた床部分とされていない箇所の比較をしていきました。お絵描きを楽しみながら消える様子の差が格段に違うことに気づき驚いている様子が見られました。また園舎の点検イラストから園に危ない箇所がないかを自ら考える時間もありました。「クラック」という建物用語を覚えたり、「バケツが危ないところに配置されている」のはどうして？など疑問が生まれました。最後に「照射器」の自走する様子や実際の照射様子を見学してもらいました。見慣れない機械に困惑し、実際の匂いの発生にも素直に「臭い」と意見が出ていました。



④企業・団体の気付きや感想など

初対面のメンバーの中で、自分の意見も持ちアイデアを出す小学生の姿に刺激をもらいました。子どもたちの夏の思い出の1つになれば幸いです。

また・地域の保護者、小学生に「株式会社エコテック」と「園児の床」「園舎の健康診断」という事業認知のきっかけとなり、来年の開催希望もいただくことができたことで開催の成果を感じています。この度は企業としてイベントに参加させていただきましてありがとうございました。

No.とプログラム名	No.59 エバラ研究員が教える！五感体験ラボ「味わい」を体験しよう！
企業・団体名	エバラ食品工業株式会社
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【西区】エバラ食品工業株式会社 本社
対象学年と参加人数	参加児童数 57人(5年生 28名、6年生 29名)
参加の目的 (150文字程度)	・横浜市の企業として、地域貢献活動の実施 ・会社の認知度向上（エバラファンづくり） ・従業員のエンゲージメント向上

① 当日のプログラムの説明

五感を働かせて表現することは、ヒトの成長過程においてとても重要だと言われています。

プログラムでは、味覚と嗅覚を連動した風味体験や五味の識別体験をしたのち、調理法とそれの違う2種類の肉の食べ比べをしました。「味わい」を自分自身の言葉で表現して、グループにわかつて意見交換しながら「味わうことの大切さ」を学ぶ機会を創出しました。

② 児童の様子や学生サポーターの様子がわかる写真



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・五味のテストがおもしろかった。
- ・緊張したけどみんなと意見を出しあえてよかったです。お肉がとっても美味しかった。
- ・じっくり味わって感覚を研ぎ澄ますのはおもしろいなと思った。
- ・みんなと意見交換ができるよかったです。いろんな意見があって勉強になった。いろいろな気づきがあった。
- ・自分が思っていなかしたことやいろんなことを知れたり、共感ができるから良かったなと思いました。
- ・同じものを食べているのに、みんなでいろんな意見が出るのがとても面白かったし勉強になりました。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

最初から最後まで楽しみながらやりきることができました。子ども目線や活動者目線からこの活動をみて、改善しながら進めていく中で、学校では学べないような新たな知見を得ることができました。

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

「味わって感じて表現すること」を大きなテーマとしてプログラムを実施しました。

くり返し行うことで感覚は磨かれると言われていますが、児童のみなさんが前半の官能検査の体験をいかし、後半の肉の試食で想像以上に味の違いを感じ表現できていたことが印象的でした。保護者の方々からも今回の体験を通して「勉強になった、貴重な機会になった」とのコメントをいただき、一緒に参加してもらい良かったと感じています。

また、学生サポーターの方がとても細やかに動いてくれたほか、積極的な提案もしていただき、私たち従業員の学びになりました。プログラムでは普段の業務で消費者と接する機会の少ない従業員が講演者やファシリテーターになり、自身の業務の魅力に気付く機会になりました。ありがとうございました。

No.とプログラム名	No.60 音楽ホールのお仕事を体験しよう！
企業・団体名	横浜みなとみらいホール（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
実施日	8月8日（金）
会場	【西区】横浜みなとみらいホール
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数3人
参加の目的 (150文字程度)	夏休み期間中に開催している子ども向け事業での仕事体験を通して、音楽ホールの仕事を知り、心構えや気を付けることなどを学んでいただき、今後、参加者自身がお客様として訪れる際の視点が変わることを期待します。

① 当日のプログラムの説明

横浜みなとみらいホール こどもフェスタ「みなとみらい遊音地」期間中に開催した「オルガン＆ホール探検！」の受付の仕事体験を行い、探検ブックの配布およびスタンプラリー景品引換を担当しました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・大変だったが、お客様と直接接することが新鮮な体験だった
- ・裏方として色々な人が働いていることが分かった。
- ・まだやりたかった。

④ 企業・団体の気付きや感想など

皆さん最初はとまどっていても、慣れてくると自分から声をかけたり、探検ブックを渡した時にお礼を言ってもらえることもあり、だんだん楽しくなってきたようです。終わりの会では、今回体験してもらった以外の仕事（レセプショニスト、設備スタッフ、舞台スタッフ、チケットセンター等）を写真で紹介しました。コンサートホールの特徴を知ってもらうために、新国立劇場の写真と比較し、幕類等が何もなく、マイクを使わずに音がよく響くようになっていることを伝えました。

No.とプログラム名	No.61 ホールのお仕事探検ツアー
企業・団体名	横浜市緑区民文化センターみどりアートパーク
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【緑区】みどりアートパークホール
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数23人
参加の目的 (150文字程度)	ホールにはどのような仕事があるのか具体的に知ってもらい、コンサート・演劇などを鑑賞する際、一步踏み込んだ見方をしていただき、興味をもつていただくと共に、より一層みどりアートパークに親しみを持ってもらう為。

① 当日のプログラムの説明

舞台・音響・照明効果などの説明。調整室（音響卓・照明卓・ピンスポット）の操作体験、シーリング室・キャットウォークなど見学、音響反響板・ピアノ体験など

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

「調整室の中で自分が操作することが出来て楽しかった。」
「音響反響板がある時のピアノの響きがとても良かった。」
「普段入れないすごく高い場所まで登れて面白かった。」
「音響反響板の出し入れする作業の迫力がすごかった。」

④ 企業・団体の気付きや感想など

参加予定人数をはるかに上回る50組の皆さんから、お申し込みをいただきました。参加されたお子さんには楽しんでいただき、ホールの仕事に興味を持つていただくことができました。中には将来このような仕事をしたいというお子さんもいました。また付き添いの保護者の方々も、ホールの客席・舞台上などで興味深そうに説明を聞き、お子さんの行動を見守っていました。

No.とプログラム名	No.62 お腹の健康×スポーツ ガットフレイルを身に付けよう！
企業・団体名	横浜 FC & 一般社団法人日本ガットフレイル会議
実施日	8月6日(水)
会場	【中区】横浜市役所 アトリウム
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数41人
参加の目的 (150文字程度)	横浜市内の小学生に向けて、これまで横浜FCとの接点があった子や試合を観戦したことがある子だけでなく、はじめての出会いとなるイベントとして位置づけております。サッカー以外の生活上の課題として関心の持てるテーマを選び参加いたしました。

イベント内容について：

「腸内細菌とスポーツ」をテーマに、子どもたちが体を動かしながら学ぶクイズ形式のワークを実施。クイズは「腸内細菌」という言葉を学ぶことからスタートし、近年、腸内細菌がスポーツのパフォーマンスや回復力に影響することが分かってきていることやマラソン選手には疲れのもとをエネルギーのもとに変えてくれる腸内細菌が多く存在することや、ゴリラの筋肉と腸内細菌の秘密などを三択クイズ形式で高木先生の解説を交えながら和やかにワークが行われました。

また元Jリーガーの内田智也の現役時代の食事メニューも紹介し、腸内細菌とスポーツの深い繋がりなど日々の生活やスポーツのパフォーマンスにおなかの健康が与える影響をクイズとワークショップ形式のプログラムでお伝えしました。

以下、子どもたちがワークショップの中で完成させたガットフレイル啓発のポスターです。



子どもアドベンチャーカレッジ2025





イベントの中では、自身の身体について関心高く学んでいただきました。

また、子どもたちからワークショップ中に「腸内細菌」というワードが多く飛び交うなど、通常の生活の中では出会うことのない情報を提供できたと考えております。

その中で自然と腸内細菌とスポーツについて議論を深めることができました。

また、保護者の方からも児童の体調面での質問も個別に先生に相談されるなど、関心の高いテーマの中で有意義な時間にできたと感じています。

横浜FCとしても、サッカーだけではなく、日常に潜む様々なテーマから子どもたちとの接点をつくることがクラブの持続的な活動にとっても非常に重要と感じており、このような機会はとても貴重な時間となりました。ありがとうございました。

No.とプログラム名	No.63 デュアルキャリアの選手を自己紹介するYGプロジェクト！
企業・団体名	横浜 GRITS
実施日	8月5日（火曜日）
会場	中区 横浜市庁舎 アトリウム
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数12人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツチームとしての地域貢献 ・新たなファン層の獲得に向けた関心喚起 ・港北区を中心とする地域の子どもたちに横浜 GRITS を知ってもらうため

① 当日のプログラムの内容の簡単な説明

スポーツチームにおける広報業務を体験してもらうことを目的に選手の魅力を自己紹介の形式で発信するワークショップを実施いたしました。

90分間のワークショップでは、クラブスタッフの仕事、広報の仕事を紹介した後、グループワークとして選手へのヒアリング実施、アウトプットとしては紹介シートの作成を行いました。

選手へのヒアリングでは質問も活発に飛び交い、子どもたちならではの目線での問い合わせなど、クラブスタッフとしても新たな気づきを数多く得ることの出来た時間となりました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・選手の人たちがとても優しく答えてくれたので緊張せずに参加できた。
- ・自分のワークシートが試合会場で張り出されるのがとても楽しみ。
- ・初めて会った人と一緒に作業するのが楽しかった。

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

子どもならではの視点からユニークかつ斬新な切り口で質問が飛び交いました。日々、チームに携わるスタッフが見ている角度とは異なり、新たなファン獲得に向けた認知拡大に向けて多くの気づきがある時間でした。選手の予習をしてきてくださる児童もいらっしゃいました。

参加した選手たちもプロスポーツ選手にとって重要な要素の一つであるセルフプランディングの観点から、学びを受けていた様子でした。

No.とプログラム名	No.64 まちとクラブをつなぐ！地域を元氣にするアイディアを考えよう
企業・団体名	横浜エクセレンス
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【中区】横浜市役所アトリウム
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数11人
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの交流の場 ・長期休暇中の子どもたちの学びや、居場所づくり ・クラブ周知のため

① 当日のプログラムの説明

「まちとクラブをつなぐ！地域を元氣にするアイディアを考えよう」をテーマに、まちの人にクラブを知ってもらい、地域の人とクラブがもっとつながるためのアイディアをグループワークで学びました。初対面の子どもたち同士がグループワークでアイディアを出し合い、最後には発表会も行いました。「バスケが好き！横浜エクセレンスが好き！」という思いを持った子どもたち同士、たくさんのアイディアを出しながら、制作に取り組んでくれました。

② プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・緊張したけど、伝言ゲームなどが楽しかった
- ・意見をまとめのを頑張った
- ・みんなと仲良くなれて楽しかった
- ・アイディアがあふれていた



No.とプログラム名	No.65 イーグルスのオリジナルグッズを作ろう！
企業・団体名	横浜キヤノンイーグルス
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【中区】横浜市庁舎
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数30人
参加の目的 (150文字程度)	横浜キヤノンイーグルスの周知・PR

① 当日のプログラムの説明

90分のプログラムの中で、スタッフからスポーツチームの仕事・グッズについて説明をおこなった後、実際に、参加者が自分で絵を描いて、オリジナルデザインのトートバッグを製作しました。参加者は時間いっぱいに使い、熱心に取り組んでくれました。

イーグルスのジャージを着てきてくれた子もいましたが、イーグルスを初めて知った！という子もたくさん参加してくれました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

イーグルスを知らなかったけど今日話を聞いてラグビーを見てみたいと思った、といううれしい感想がありました。

No.とプログラム名	No.66 知ってる？税金がつくるみんなのまち
企業・団体名	横浜市租税教育推進協議会
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【中区】横浜中税務署（よこはま新港合同庁舎）2階大会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数28人
参加の目的 (150文字程度)	税の大切さを知り、親しみを持っていただくことを目的として実施しています。 みなさんの暮らしている街や、学校にも税金が使われていることを、講話やクイズ、グループディスカッションを通じてお伝えしました。

プログラム内容

税金ってなんだろう？

1億円のレプリカ登場！

公共サービスはどれだ！？○×クイズ

グループディスカッション

・街の様子をみてみよう！

・予算のつかいみちを選んでみよう！

振り返り発表会



マリノスケ君(横浜F・マリノス公式キャラクター・横浜市の財政広報大使)

イータ君(国税庁 e-Tax キャラクター)登場！
プログラムを盛り上げてくれました！



参加児童の感想

楽しくクイズをしたり、面白く税金について学べてよかったです。

税金に興味がわきました！

他の人の意見を聞いて、ちがう見方や同じ考えがあり、とても楽しかった。

世界がひろがり税金を納める気になりました！



スタッフの気付き・感想

- ・キャラクターの登場、1億円レプリカ登場、○×クイズでは、緊張した様子が一気にほぐれ、楽しんでいる様子が伝わってきました。
- ・自分のことだけでなく「みんなのためにこういう街にしたい！」という広い視野をもっていて、感動しました。
- ・緊張する発表タイムでも、自発的に手を挙げて発表してくれてうれしかったです。

No.とプログラム名	No.67 「科学」ってなんだ?
企業・団体名	はまぎん こども宇宙科学館
実施日	8月8日(金)
会場	【磯子区】はまぎん こども宇宙科学館 2F 実験室
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数7人
参加の目的 (150文字程度)	科学館という場所を運営する仕事をあることを、横浜市在住の小学生に知ってもらう

① 当日のプログラムの説明

⇒科学館職員の仕事を紹介した後、科学館で行っているサイエンスショウと科学実験工作を体験してもらった。

② プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

⇒科学館職員の仕事の説明の際に、表に見えるスタッフの動きのイメージはあったようだが、裏で動いているスタッフについて話すと納得した様子や驚いた反応があった。職種が多くいろいろな仕事があって、それぞれが大事といった言葉が聞けた。

③ 企業・団体の気付きや感想など

⇒科学館での仕事に興味を持っていた参加者が多く、ワークショップや演示が本番だけでなく準備が大事なことに気付いていた。今回紹介したポジションではプラネタリウムの解説員に興味を持つ参加者が多く、今後はそういった部分もピックアップしていきたい。



No.とプログラム名	No.68 夏休み一日図書館員
企業・団体名	横浜市神奈川図書館
実施日	8月6日（水曜日）
会場	横浜市神奈川図書館
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数16人
参加の目的 (150文字程度)	神奈川図書館の児童フロアや郷土資料を紹介し、図書館へ関心をもってもらう。また、図書館のお仕事体験を通じて、図書館利用の促進をはかる。

・当日のスケジュール

図書館の説明、館内見学（児童書フロア、書庫、返却ポストなど）、レファレンス・配架、カウンターでの貸出・返却、アンケート記入

・アンケートの集計から抜粋

「楽しかった」「カウンターのお仕事が思ったよりも大変だった」「本の分類について知れてためになった」「普段は入れない書庫などを見て新鮮だった」など、満足度の高い意見が多かった。

・担当者の所感

参加児童は、積極的に参加し、疑問点は自分から質問してくれた。楽しんでくれた子どもが多かった印象。暑い盛りということもあり、子どもたちの体調面への配慮が必要だと感じた。



No.とプログラム名	No.69 図書館のお仕事体験をしよう！
企業・団体名	男女共同参画センター横浜
実施日	8月7日（木曜日）
会場	【戸塚区】男女共同参画センター横浜 情報ライブラリ
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数10人
参加の目的 (150文字程度)	小学生及びその家族の男女共同参画センター横浜と情報ライブラリについての認知度を高め、利用のきっかけをつくるため。また、参加者に男女共同参画センターやジェンダー平等について啓発を行うため。

① 当日のプログラムの説明

お仕事紹介（男女共同参画センターおよび情報ライブラリの業務内容についてのレクチャー）、本の貸出・返却作業や、本を紹介するためのPOP作成、本の展示作業 等

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・男女みんなが楽しくすごせる図書館。 •男女平等に接していると思った。
- ・本の貸出や返却のやり方がわかった。 •POP作りが楽しかった。
- ・おすすめの本を棚の上に置いたり、工夫をしていると思った。
- ・子どもの読みやすい本があって良いと思った。
- ・楽しかったのでまた来たい。もっと色々な本が読みたい。

④ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

本が好きな参加者が多かったので、どの作業にも興味を持って主体的に取り組んでいました。POP製作は苦戦しながらも全員最後まで完成させました。男女共同参画センターの取り組み（仕事）についても関心を持つ機会を提供することができました。

No.とプログラム名	No.70 学芸員の仕事を体験してみよう！
企業・団体名	横浜人形の家
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【中区】横浜人形の家 あかいくつ劇場ホワイエ他
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数14人
参加の目的 (150文字程度)	本事業への協力を通じて、博物館における学芸員ほかさまざまな職種や業務の認知を高めるとともに、小学生との交流により今後の事業につながる気づきを期待する。

「横浜らしい」人って誰だろう？と例を出し合ってから常設展示を見学し、約100年前、関東大震災からの復興期に創作された「横浜開港人形」について学んだ上で、それぞれが考える現代の横浜開港人形をデザインし、カードに書いて発表しました。



カードをバランスよく貼る前のグルーピング。
「まず全部並べてみよう」
「Aとそうでないのに分けてみようか」
6年生が上手にひっぱってくれました。



各自発表して、フレームに貼って、できた～！
海の近くや中華街で働く人、よく見かけるおじさん、
ベイスターズの選手などいろいろ。
後日、展示室入口にフレームを置きました。

横浜市の小学生はまだ普段「横浜らしさ」を意識することが少ないので、具体的なイメージが浮かぶまでに苦労したようですが、有名人よりも身近な人をよく見ているなあと感心させられました。「横浜港」ではなく「平潟湾」など「海」のイメージもそれぞれ。

それらをうまく「伝える」体験が少しでもこれからに活きればと思います。

No.とプログラム名	No. 71 博物館を取材して新聞にしよう！
企業・団体名	ニュースパーク（日本新聞博物館）
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	ニュースパーク（日本新聞博物館）2階イベントルーム、3階常設展示室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数43人
参加の目的 (150文字程度)	「取材して記事にまとめて新聞を作る」という体験を通して、子どもたちに新聞記者の仕事を知つてもらうとともに、新聞を身近に感じてもらいたい。また博物館全体を取材することで、日本の新聞の歴史や、情報とのつきあい方、多くの人が関わっていることなどを知つてほしい。

■ プログラム内容

新聞製作マネジャー（元記者）から「新聞とは・取材の仕方」のレクチャーを受けたのち、館内で取材。その後、パソコンを使った新聞づくりに挑戦した。

■活動中の写真



■参加児童の意見や感想など

多くの児童が真剣に話を聞き、集中してメモを取っていた。自由取材の時間では、気になる展示を家族と探し、疑問点を職員に積極的に質問する姿勢が見られた。パソコンづくりでは保護者の協力のもと、自らパソコンで文章を作成する児童が多くいた。

振り返り会では、「最初は難しかったが、楽しくなった」「自分だけの新聞が完成したらうれしかった」などの感想が発表された。アンケートでは、「情報を集めるとき（取材）が楽しかった」「知らないことが多かったからびっくりした」などの感想が寄せられた。

■学生サポーターの様子や気付き、感想など

スピーチ用の台本を用意しているなど、真剣に取り組む姿勢を感じた。パソコンに苦手意識のある児童には、積極的に声がけをするなど、子どもたちが楽しめるように細かな配慮をしていただけた。当日の感想では、親子での参加を求めていることのメリット・デメリットも考察しており、意欲的に参加していることがうかがえた。

■企業・団体の気付きや感想など

子どもたちは取材中、積極的に質問し、限られた時間の中で多くの情報を得ようとする姿勢が見られた。アンケートでは、夏休みを利用して、楽しみながら子どもに勉強させたいという保護者の思いが感じられた。文章を考えるときは鉛筆と原稿用紙を使いたいという子どもがかつては大多数だったが、年々減少している。このことからもパソコン等の情報機器の利用が子どもにも浸透してきていることがうかがえた。

No.とプログラム名	No.72 点字ワークショップ「バースデーカードを作ろう！」
企業・団体名	横浜市中央図書館
実施日	8月6日（水曜日）
会場	【西区】横浜市中央図書館地下1階
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数14人
参加の目的 (150文字程度)	第三次横浜市民読書活動推進計画における「柱3 読書バリアフリーの推進」の取組の目標である「5 効果的な広報・啓発戦略」の「図書館、学校での知識や情報を得る機会の充実」を測り、子どもたちの障害への理解を深める一助とするため

① 当日のプログラムの説明

- ・講師による点字の仕組みの説明
- ・点字器で名前練習・バースデーカード製作
- ・感想の発表・アンケート記入

② プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・文字を書くのに音がしておもしろかった。
- ・わかりやすく教えてくれて、はまったときに音がするので気持ちよくて楽しかった。
- ・字や模様を点字で表して書くことができるなんてすごいなと思った。

③ 企業・団体の気付きや感想など

広報がとても効果的で、参加者の出席率もよく子どもアドベンチャーに参加させていただけてよかったです。ワークショップ中は初めて学ぶ点字のルールを理解し、熱心に参加する様子が見られた。親子で考えながら、時には親も打ちながら楽しんで参加していた。職員により点字を読んでもらえることがうれしいと感じた参加者も多く、いろいろな文章を作って見せてくれた参加者もいました。講師がアンケートを読めるように、アンケート用紙に点字で感謝の言葉を書いてくれるなど、早速学んだ点字を活かしている様子も見て取れ、ワークショップの効果を実感した。

No.とプログラム名	No.73 ケアプラザを知って大学生とスライムづくりをしよう！
企業・団体名	横浜市六角橋地域ケアプラザ
実施日	8月6日（水）7日（木）
会場	【神奈川区】六角橋地域ケアプラザ
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数10人
参加の目的 (150文字程度)	○小学校の福祉授業の一環で「まちをしる」体験からケアプラザを知る時間が あるが、より多くの小学生にケアプラザを知っていただきたかったこと。 ○六角橋地域ケアプラザと連携している大学生のボランティア団体と交流を はかるため。

① 当日のプログラムの説明

→地域ケアプラザ、六角橋地域ケアプラザの紹介と役割

② プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会など で出された児童の意見や感想など

- 大学生の人が楽しく交流してくれて楽しかったです。
- やさしく教えてくれて嬉しかった。
- スライムをつくれてよかったです。
- 勉強がんばってください。など。

③ 企業・団体の気付きや感想など

- ケアプラザのことが知れてよかったです。
- 子どもたちと関われてよかったです。
- 一日目より二日目の方が力を入れすぎず進行できた。



No.とプログラム名	No.74 福祉のお仕事ワクワク体験
企業・団体名	特別養護老人ホーム 芙蓉苑
実施日	8月8日（金曜日）
会場	【港南区】特別養護老人ホーム 芙蓉苑 1F 多目的ホール
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数25人
参加の目的 (150文字程度)	『福祉のお仕事ワクワク体験』では、 ・老人ホームってどんなところだろう? ・車椅子に乗ってみよう! ・お年寄りの体を体験しよう! ・お年寄りと一緒に楽しもう! のイベントを通して、お年寄りについて皆さんに学んでもらい少しでも福祉の 仕事や高齢社会に対して興味を持っていただきたく、応募しました。

① 当日のプログラムの内容の簡単な説明

1. 参加者自己紹介 10：10～
それぞれ自ら、名前、何年生、何小学校を紹介
2. 福祉って？高齢者の特徴は？ 10：15～
講座、グループディスカッション形式で
3. 高齢者と一緒に楽しもう 10：30～
ご利用者とボール渡しゲームと手遊びを実施
4. 高齢者疑似体験と車椅子体験 11：10～
疑似体験と車椅子を使用して高齢者の気持ちを体験。
5. 口腔体操 11：50～
デイサービスの利用者とお口の体操を実施
6. 昼食休憩時間 12：00～
ご利用者と同じ食事を召し上がってもらいました。
7. 介護ロボット体験 12：45～
コミュニケーションロボットとのふれあい。
8. かき氷イベント 13：15～
デイサービスのご利用者と
コミュニケーション及びかき氷の提供を行う。
9. 解散 14：00

②児童の様子



③プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・体験を通じて老人ホームのお仕事の内容がわかった。
- ・利用者とお話を出来てよかったです。勉強になった。
- ・みんな楽しそうだった。家族が老人ホームにはいるなら
このような楽しいホームを選びたい。

④企業・団体の気付きや感想など

- ・ご利用者の世代間交流の場として、また小学生の積極的に学ぶ姿勢を
目の当たりにし、改めてこちらのイベントに参加してよかったですと感じる。
このようなイベントをきっかけに超高齢社会である日本にとって
少しでも誰もが暮らしやすい生活が送れるようなきっかけとなればよいな
と感じました。

No.とプログラム名	No.75 おじいちゃん・おばあちゃんをよく知ろう！
企業・団体名	ニチイ学館ニチイケアセンター戸塚柏尾
実施日	2025年8月5日(火) 9:15~12:00
会場	ONE FOR ALL 横浜
対象学年と参加人数	小学生3年生~6年生 定員10名
参加の目的 (150文字程度)	小学生に今回の教室を通じて、高齢者の困りごとや認知症に関して理解してもらう。 介護に関する知識を学んでもらい、介護の楽しみを感じてもらう。 高齢者とのふれあいを通してやさしさを実感する。

☆ 当日のプログラム

第1部 09:15 – 10:00 (小学生用)認知症サポーター養成講座

オープニング・認知症サポーター養成講座実施

紙芝居

第2部 10:05 – 10:35 高齢者疑似体験

疑似体験キットを使用して子供たちに高齢者の疑似体験をしてもらう

第3部 10:40-11:10 高齢者と一緒にゲーム

小学生と高齢者が一緒にゲームを楽しむ

第4部 11:15-11:55 高齢者と一緒に工作

小学生と高齢者が一緒に工作を作る

11:55-12:00 クロージング

クロージング・修了証書授与 (注:修了証書は事務局からもらっているもの)

詳細

第一部 (小学生用)認知症サポーター養成講座

認知症サポーター小学生養成講座副読本の内容に従う形で認知症サポーター養成講座を授業形式で実施しました。

この副読本による説明の後、紙芝居で実際の認知症の方の困りごと・周りの人との対応方法を説明しました。

多くの子供たちが「おじいちゃん・おばあちゃん」が近くにいて、一人の子供は「うちのおばあちゃんは認知症だよ」とおおらかに話されていて、決して遠い世界の話ではないという感じで参加・聞かれていました。

主に重点を置いたのは、「失敗はたくさんするけど優しく接してください」ということです。ちょっと不思議そうな様子で聞いていたのが印象的でした。



副読本



第二部 高齢者疑似体験

「高齢者疑似体験キット」を使って身体に重りをつけたり、膝が曲がりにくいようにサポーターを付けたり、軍手をつけてペットボトルの蓋を開けようしたり、視野の狭くなるゴーグルをつけてもらったりして、小学生の普段とは違う状況を作り高齢者の体験をしてもらいました。

ペットボトルの蓋を開けにくそうに頑張っている姿が印象的でした。



第三部 高齢者と一緒にゲーム

第三部からはニチイケアセンター戸塚・柏尾のグループホームの高齢者も参加してのプログラムです。簡単なお互いの自己紹介の後、小学生と高齢者がペアになってゲームを楽しむ部です。

ゲームとなると子供たちは少し興奮してきます。でも決して独りよがりにならないで高齢者のペースに合わせてゲームを楽しみました。



第四部 高齢者と一緒に工作

高齢者とペアになり、竹をのこぎりで切り、ビスで足をつけて花立を作る作業に取り組みました。この辺になるとすっかり気分が盛り上がって使い慣れないのこぎりで竹を切る作業も一生懸命で高齢者と一緒に全員作りあげました。



クロージング

小学生たちも高齢者も怪我や熱中症になることもなく、無事に終了することができました。こどもたちも付き添いで来たお母さんたちも笑顔で挨拶をして帰途についています。

以上

No.とプログラム名	No.76 ヘルプマークを持つ人たちを助けるために明日からできること
企業・団体名	特定非営利活動法人ピュアスマイルスタジオ
実施日	8月6日(水)、8日(金)
会場	【港北区】大倉山記念館第四集会室、【中区】波止場会館中会議室3階陸側
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数10人
参加の目的 (150文字程度)	当団体でヘルプマークの普及活動があり、子ども達にもヘルプマークの意味やどのような人が持っているのかを楽しく学びながら知ってもらえたると参りました。

① 当日のプログラムの説明

どのような人がヘルプマークを持っているのか、紙芝居を使って『内部障害』『難病』とは何か、実際にヘルプマークを持っている人から話を聞き『援助』『配慮』を必要としている人はどんな人なのかをみんなで考えながら学び、うちわの作成をしました。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

ヘルプマークを持っている人が困っていたら自分から声をかけたい。内部障害や難病のことをもっと知りたい。

④ 企業・団体の気付きや感想など

こちらからの質問にしっかりと答えてくれるお子さんが多く、プログラムに真剣に取り組む姿勢に感動しました。

No.とプログラム名	No.77 赤ちゃん人形の抱っこ、お着替え、妊婦体験など子育てプチ体験
企業・団体名	青葉区地域子育て支援拠点ラフル/ラフルサテライト
実施日	8月5日(火)、7日(木)、8日(金)
会場	【青葉区】青葉区地域子育て支援拠点ラフル/ラフルサテライト
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数13人
参加の目的 (150文字程度)	リアルな赤ちゃん人形の抱っこ、おむつ替え、着替え、妊婦体験を行い、自身の幼いころを振り返り、家族の大切さを学びます。 ひろばで親子と接する体験を通じて、親の気持ちを知り、地域で子育てを応援している人がいること、子育ては家族だけで抱えず周りに頼って良いことを経験します。 グループワークや振り返りを通じて、自分の意見を発表すること、他の参加者の考えを聞く機会を通じて、それぞれの意見を尊重する気持ちを学びます。

① 当日のプログラムの説明

赤ちゃん人形の抱っこ、おむつ替え、着替え、妊婦ジャケット着用体験、ひろば体験。グループワークは両拠点をつなぎ、オンラインで行う。

② プログラム中の児童の言葉やグループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想

《楽しかったこと》

- ・赤ちゃんと触れ合ったことがないので、一緒に遊んだり抱っこさせてもらったりできて楽しかった。
- ・お母さんは大変だと思った。
- ・赤ちゃんが泣いているときにどうすればいいか分かった。

《今までおうちに人にしてもらって、うれしかったこと》

- ・一緒に、料理や買い物、あそんだこと。
- ・学校のことなどを話したこと。
- ・抱っこしてもらったり、褒めてもらったりしたこと。

《自分にできること》

- ・「大丈夫？」と声をかける。
- ・一緒にあそぶ。
- ・妊婦さんや小さな子どもがいる親子が困っていたら手伝う。
- ・(スーパーなどで) 泣いている子がいても悪く言わない。(優しくどうしたの？と声をかける)
- ・(青葉区の)子育て応援ストラップをつける。

③ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

アンケート作成、アンケート内容のファシリテーター、プログラム中の補助をお願いしました。

打合せから積極的に関わり、子どもたちに寄り添っていただきました。

④ 企業・団体の気付きや感想など

学生サポーターと、どのようなことを一緒に行うか、頼めるのか、不透明でお互いに迷いがあった。

ふだんは未就学児と関わる機会の少ない子どもたちが、妊婦体験や赤ちゃんの子育てを体験することで、自分が親から大切に育てて来てもらったことを振り返り、感謝の気持ちを持ち、

今後、地域の一員として未就学児の親子や妊婦に目を向け、温かく応援する気持ちを育む活動ができた。

No.とプログラム名	No.78 赤ちゃんのお世話を体験したり、小さい子たちと遊ぼう
企業・団体名	泉区地域子育て支援拠点すきっぷ
実施日	2025年 8月6日（水曜日）・8日（金曜日）
会場	【泉区】泉区地域子育て支援拠点すきっぷ 親子の居場所（ひろば）・研修室
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数=9人
参加の目的 (150文字程度)	子育ての大変さやマイナス面が強調されがちな今、小さな子どもと触れ合い、子どもの可愛らしさを実感することでポジティブな思い出を作ってもらう。人が生まれるまでの過程を知り、乳児の世話を体験することで、自分が大切にされ愛されて育てられたことを感じ、自分自身を大切にする気持ちを持つもらう機会とするため。

◆当日のプログラム内容

- ・生まれるまでの妊婦や胎児の過程を知り、妊婦ジャケットを着用して様々な動きをしてみることで、妊婦の気持ちを知る。
- ・赤ちゃん人形でお世話を体験したり、実際に赤ちゃんや乳幼児とふれあい、保護者とも交流する。



胎児模型の「妊娠1か月の子宮と胎児」を見て
「ヒトの形だ。。。」



妊婦ジャケットを着用して横になる
「結構重い！」



ひろばで本物の赤ちゃんを抱っこさせてもらって
「かわいい！」

◆プログラムに参加して「知りたいこと・やってみたいこと」

「赤ちゃんが泣き止まなかったらどうするの？」 「子育てで、一番大変なことは何ですか？」
「離乳食って、何才から？」 「すきっぷには、どのくらいのひんどで来てますか？」
「赤ちゃんと楽しくすごすコツをつかみたい」 「小さい子と、たくさん遊びたい」 「ミルクをあげたり授乳の仕方を知りたい」

◆ふりかえりでの感想

「緊張した」「楽しかった！」「赤ちゃんが何をしてほしいか分からぬので困った」
「思ったより赤ちゃんのお世話は大変だった」「家事と子育てを両立するのはとても大変なことなんだろうなと思った」「赤ちゃんを笑わせることができたり、仲良くなれたからよかったです」「大人になって子どもができたら、今回のこと思い出してもお世話をしたいと思った」「横浜市は色々な学習をする場を作ってくれて、ありがたいと思った」

◆団体の気づき・感想

10名の定員に70名を超える応募が市内全域からあり、「赤ちゃんや小さい子どもと触れ合いたい」と感じている小学生が多いことは嬉しい驚きだった。

小学生の感想が、子育ての難しさを捉えていることも興味深かった。

「親をはじめ家族が、妊娠中からずっと如何に子どもを大事に思い愛情を注いできたか」を知り、これから思春期に向かっていく子ども達が「自分自身の心や身体を大事にしよう」と思ってくれたら嬉しい。保護者の方（希望者のみ入館した）も自身の記憶を呼び起こしながら感慨深く、そして楽しそうに参加されていた。小学生のために赤ちゃんを連れてきてくれた拠点利用者にも、とても感謝している。

子どもアドベンチャーカレッジには多くの取組があるが、意外にも「子ども・子育て」ジャンルのプログラムは少ない。夏休み中の開催は施設によっては難しいと推測するが、小学生に今回のような機会を提供することは長いスパンで見ると大変有意義だと思われる。

No.とプログラム名	No.79 赤ちゃんのお世話や抱っこを体験してみよう！
企業・団体名	戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	【戸塚区】とっとの芽・とっとの芽サテライト
対象学年と参加人数	小学5～6年生、参加児童数9人
参加の目的 (150文字程度)	横浜市のニーズ調査から、実子を出産する前に赤ちゃんのお世話をしたことがない親が7割いることから、小学生の時から赤ちゃんに触れ合う体験ができる機会が必要と感じたこと。また自分が大切にされている事、命の尊さについても感じる機会としたかったため。

当日の流れ（両日とも）

- 1 13時00分～13時15分：自己紹介
- 2 13時15分～13時45分：講義「命の話 子育ての話」渡邊助産師
- 3 13時45分～15時00分：沐浴デモ・赤ちゃん人形でのお着替え体験
妊婦体験・missionシート作成
0歳児親子との交流・赤ちゃん抱っこ体験
- 5 15時00分～15時30分：振り返り（Missionの共有・感想）・修了証

【感想】

昨年度とても好評だったため、今年度は他の区の地域子育て支援拠点にも情報共有し、様々な場所で体験ができるようにした。30人ほどの申し込みがあり、12名に当選の案内をしたが体調不良などでキャンセルがあり、結果9名の参加となった。参加した子どもの中には、将来保育士や看護師になりたいと思っている子もあり、助産師の講話を必死でメモを取る姿も見られた。

沐浴デモでは初めて見る赤ちゃんグッズに興味津々で、助産師にたくさん質問する姿が見られた。またお着替え体験では、ボタンやひもがたくさんある服と格闘し、迎え袖の仕方を一生懸命練習していた様子が微笑ましかった。

親子との交流タイムでは、遊びに来ていた0歳児の保護者がとても上手に子どもたちを迎えてくれて、実際に抱っこさせてくれていた。子どもたちは「子育てで大変な事」「嬉しいかったこと」「赤ちゃんのしてほしいことはどうやったらわかるの？」などをお母さんに質問していた。お母さんたちも協力的で、子どもたちの質問に丁寧に答えてくれている様子だった。

★ 参加した子どもたちの感想

- 赤ちゃんと遊ぶのに、こんなに体を使うとは思っていなかったので、意外に体力を使ってびっくりした。
- 赤ちゃんを泣き止ませる方法を聞いてみたら、皆さん赤ちゃんが泣いている理由を探るなど言っていて、子育てが大変なことを知りました。
- 赤ちゃんと関わる機会がなかなかないから、一緒に遊んだり、抱っこしたりできて楽しかった。赤ちゃんを育てている人の大変さがよくわかりました。

【8月6日 東戸塚】



【8月7日 サテライト】



No.とプログラム名	No.80 赤ちゃんのお世話体験・入門編！
企業・団体名	西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート
実施日	8月7日（木曜日）、8日（金曜日）
会場	【西区】西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート 研修コーナー
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数9人 学生サポートー1人（事務局から派遣） 大学生ボランティア3名（団体独自で募集）
参加の目的 (150文字程度)	1. 少子化核家族化が進む中、日常生活で赤ちゃんと触れ合う機会が少なっている小学生に、お世話体験や親子との交流を通じて、赤ちゃんや命への興味関心をもってもらう 2. 乳幼児への愛着をもつとともに、自分も親に大切にされてきた存在を感じてもらう 3. 地域の中に子育て支援の場があることを知ってもらう。

① 当日のプログラムの内容の簡単な説明

- 9：30(13:00) 学生ボランティア集合
 10：00(13:30) 小学生到着
 10：10(13:40) 開始 施設のおはなし（5分）
 10：15(13:45) お世話体験 だっこ体験・おむつ替え・妊婦体験 （トータル20分）
 10：35(14:05) 来ている親子とのふれあい体験～だっこも可能なら～（15分）
 10：50(14:20) ディスカッションの時間（15分）
 10：05(14:35) まとめの時間
 11：15(14:45) 終了証 授与式
 11：20(14:50) 終了 荷物整理・片付け
 11：30(15:00) 出口でお見送り
 終了後 片付け・反省会
 12：00(15:30) 解散

② 児童の様子や学生サポーターの様子がわかる写真



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・赤ちゃんのお世話体験－着替え、オムツ替えが難しかった。手が痛くなった。
- ・妊婦ジャケット体験－重たかった。大変だと思った。荷物を持ったり、席をゆずりたい。
お腹に赤ちゃんがいるママはすごい！
- ・親子とふれあい体験－赤ちゃんは柔らかかった、かわいかった、一緒に遊ぶのが楽しかった、腕の太さが違った。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

派遣いただいた学生サポーター1名と、こちらの大学生ボランティア3名に参加いただきました。学生サポーターさんには子どもとのディスカッションタイムの企画進行をお願いし、頑張ってやってくださいました。学生の感想は以下です。

ディスカッションではファシリテーションの内容をよく理解してくれたので楽に進められたが意見を引き出すのが難しかった。初めて会った同士だったがグループで協力ができていた。

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

いかに参加児童たちの緊張をほぐすか、が肝心だと思った。次回はアイスブレイクなどの工夫が必要。ひろばの親子の輪に入りながら人形を使って抱っこ練習をしてよいかな、と思った。親子とふれあいの時間がとても良かったので次回は長めにとりたい。

No.とプログラム名	No. 81 保育園の子どもたちに絵本を読んでみよう！
企業・団体名	NPO 法人 Small Step (すもーるすてっぷ保育園)
実施日	8月5日（火曜日）、7日（木曜日）
会場	【南区】すもーるすてっぷ保育園
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数7人
参加の目的 (150文字程度)	私たちの法人は「病気のある子どもも地域の中で自立できる環境を創る」ことを目指し、活動している。医療的ケアのある子どもも含めた様々な子どもが通うインクルーシブな保育園について知ってもらうため参加した。

【プログラム内容】

- ・講話「保育のお仕事」「インクルーシブな保育について」
- ・絵本を読む練習
- ・体験①園児との交流タイム
- ・体験②お話会の参加、絵本読み聞かせ
- ・振り返り



【児童の意見や感想など】

- ・最初は緊張して上手に話せなかったりしたけど、小さい子たちと一緒に絵本を読んだり楽しく話したりしてちょっとずつ緊張が解れて、最初に読んだときよりも声が出てよかったです。
- ・みんなで協力して本を読めたと思いました。本をみんなに見せるのが難しかったです。

・みんな真剣に聞いてくれたり笑ってくれたりして、体験に来て良かったなと思います。みんなかわいくて個性豊かで、もっと子どもが好きになりました。

(当法人が制作した絵本「ゆめのいろほいくえんのいちにち いりょうてきケアのないこもあるこもじぶんらしく」) 本も読みやすくて絵も見やすくて、良い本だと思います。

・読み聞かせでは、間違えたところもありましたが、自分なりにできたと思います。着替えのときもできるか緊張してしまいましたが、ちゃんとできました。

・私も子どもが好きで、よく隣りの高校生が絵本を読んでくれました。私も本物の赤ちゃんに絵本を読んでみたかったのでとても嬉しかったです。

・赤ちゃんの着替え、本の読み聞かせの二つをやってみて、小さい子どもと仲が深まって、学校でも活かしたいと思いました。

【団体の気付きや感想など】

・年下のきょうだいがいたり保育士を目指していたりなど、経験のある児童はとても上手にお着替えの手伝いができていた。園児をお膝に乗せて一緒に手遊びなどをしてお話会に参加できた。参加児童たちの中には将来保育士になりたいと言っていた子もいたため、子どもたちのイメージを現実と合わせることになったと思うが、どの子も楽しそうで保育士の職業に対してプラスの印象を持ってもらえたのではないかと思う。

・絵本の読み聞かせ体験では、練習時に保育士から受けたアドバイス通り、読むスピードや音量などポイントをおさえてとても上手に読むことができていた。実践を行うことでどの子も意欲的に参加し、体験できていたので、今後も地域の小学生の子どもたちと園児が交流することができるなど、実践を伴うようなイベントを企画していきたい。

No.とプログラム名	No.82 まちを元氣にするイベント企画のお仕事体験
企業・団体名	大神商店会
実施日	8月5日(火)、8日(金)
会場	【神奈川区】大神商店会 事務局
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数9人
参加の目的 (150文字程度)	商店会で考える「地域での子育て」に通じる企画なので、会の活動を多くの方に知ってもらえる機会になることを期待して参加しました。

① 当日のプログラムの説明

子どもたちにイベントでの催し物を企画してもらった。

② 児童の様子や学生サポーターの様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

- ・色々な人とアイデアを考えるのが楽しかった。
- ・ここでやったことが学校でも活かせそう。

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

(学生サポーターの感想)

子どもたちと関わる中で、自分とは異なる視点や発想に触れ、日常の考え方を見直す貴重な機会となりました。初めての体験ばかりでしたが、柔軟に対応する力やコミュニケーションの大切さ、仲間と協力する協調性を学び、自分自身も成長できたと実感しています。

⑤ 企業・団体の皆様の気付きや感想など

3～6年生の子どもたちが一緒に取り組む中で年長者が小さな子の意見を尊重する場面が多くあり、とても微笑ましく思った。

No.とプログラム名	No.83 もし学校にいるとき、大地震が来たら？地震への備えを学ぼう！
企業・団体名	横浜市消防局予防部横浜市民防災センター
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【神奈川区】横浜市民防災センター
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数73人
参加の目的 (150文字程度)	夏休みの機会を捉え、こどもを中心に防災啓発ができるため。

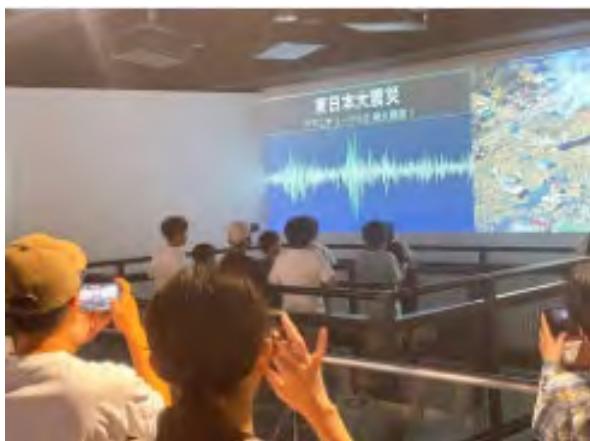
東日本大震災を振り返りながらこども向けの地震講話を30分、地震火災体験ツアー60分、避難所課題解決ゲーム60分（グループワーク、発表含む）を実施しました。

2日間で4回実施し、保護者を合わせて159人が参加されました。

避難所課題解決ゲームでは、大人が思いつかないような素直で優しさあふれることもの意見がありました。

グループディスカッションでは積極的にコミュニケーションを取っている班もあれば、初めて会う人に緊張を隠せず、大人が入ってやっと会話が始まる班など様々でしたが、マイクを持って発表する際には、楽しそうにしている姿が印象的でした。

今年度も調整等ありがとうございました。参加した保護者の方に対しても防災について伝えることができました。



No.とプログラム名	No.84 アイデアを生み出してみよう！お仕事づくり体験プログラム
企業・団体名	ピクニックスクール・株式会社ピクニックルーム
実施日	8月5日（火曜日）、6日（水曜日）
会場	【中区】泰生ポーチ、YOXO BOX
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数8人
参加の目的 (150文字程度)	仕事を知り、社会と自分の接点を見出すということをテーマに、ピクニックスクールから YOXO BOX、大学生のお兄さん社長と触れることで、新しい「しごと」についての価値観が生まれることを意図する。



① 当日のプログラムの説明

YOXO BOXに起業家さんを訪ね、話を聞き、自分のことを知るワークを実施。

気づきから自分が「いまならこういう仕事をやってみたい、興味がある」アウトプットまでおこなう。

② 児童の様子



③ プログラム中の児童の言葉や、グループディスカッション、振り返り会などで出された児童の意見や感想など

エピソード；

「サッカーをやっているからと言ってサッカー選手になりたいわけではない」と言っていた男児が、起業家の「野球に関わる仕事に挫折した際に出会った海洋事業を起業した」など、しっかり先輩のストーリーを把握した上で「本当はこどもに関わる仕事がしたい、サッカーも活かせたら」と今の自分を肯定しながら、やりたいことをアウトプットできていた。

全体的にアウトプットの精度が高く、自己分析シートの有用性が高かった。また、児童同士での初対面にも関わらず有効な対話をするなど、コミュニケーション力の高い児童が多くいた。

④ 企業・団体の気付きや感想など

参加者の思考力が高く、自己分析を適切に行い、さらに皆の前でしっかり披露できていた。

No.とプログラム名	No.85 建設のお仕事を体験してみよう！
企業・団体名	(一社) 横浜建設業協会/横浜建設業青年会/(株)アール・エフ・ラジオ日本
実施日	8月5日(火)
会場	【中区】ラジオ日本 ラジアントホール
対象学年と参加人数	小学3~6年生、参加児童数39人
参加の目的 (150文字程度)	建設業について、講話と体験で楽しく学んでもらいました。 プログラムを通して、建設業がどのような仕事でどのように市民の生活と関わっているのか、その大きさや魅力をPRすることを目的とし、参加しました。

◆プログラム内容

- ①建設業の仕事の話（講話）…15分
- ②一輪車運搬体験…15分
- ③水きれいスティックによる環境体験…15分
- ④室内ドローン体験…15分
- ⑤振り返り会…15分

※ラジオDJ体験（建設プログラム終了後各回3~4名、参加者は事前抽選により決定）

◆児童の様子や学生サポーターの様子



一輪車運搬体験

振り返り会

ラジオDJ体験

◆児童の意見や感想など

建設業について、今まで知らなかったことが知ることができた、などの意見・感想を多くいただきました。

体験学習では、ドローン操作が一番印象に残っていると答えた児童が多い中で、環境体験に興味を持つ児童もいたため、若い世代でも環境配慮への関心の高さを感じました。

また、実際にドローン操作を体験して、将来建設業に携わることになったら、ドローンを扱う仕事をしてみたいとの感想を受け、興味をもってもらう良いきっかけになったと思います。

◆学生サポーターの感想など

当日は、体験のサポートや振り返り会の進行を務めました。振り返り会では横浜建設業青年会の皆様に丁寧にサポートしていただき、大変心強く感じました。

また、サポーターとしてこのプログラムに携わったことにより、建設業の仕事が私たちの暮らしに思った以上に関わっていることを改めて実感し、自分自身の学びにも繋がり、貴重な機会になりました。

◆企業・団体の感想など

映像やクイズを交えて講話をし、また、ラジオDJ体験ではスタジオで本番ながらの雰囲気で、フリーアナウンサーの方に建設業に関する内容をインタビューしていただくなどして、理解を深めてもらいました。

体験学習では、機械の操作や環境に対する配慮などを学んでもらいました。

講話や体験を通じて、参加する前は建設業の事を良く知らなかったが、参加して興味が沸いたなどの反響があり、建設業の大切さや魅力をアピールすることができました。

この体験により、将来建設の仕事に就くことを目指すきっかけになれば嬉しく思います。

No.とプログラム名	No.86 段ボールで横浜のジオラマをつくって謎ときタイムトリップへ
企業・団体名	一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワーク
実施日	8月5日（火曜日）
会場	【中区】一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワーク
対象学年と参加人数	小学4～6年生、参加児童数 19人
参加の目的 (150文字程度)	ジオラマを通じて、子どもたちに横浜の歴史・魅力・災害リスクについて知ってほしい。

① 当日のプログラムの説明

関内周辺の埋め立て等による地形の変遷について、皆で段ボールジオラマを使って再現。時代ごとに出される謎を解きながら横浜の歴史を学びました。

ゲーム後、現代のジオラマを見ながら危なそうな場所について参加児童に考えて発表してもらい、実際のハザードマップとの対比によって地形やその成り立ちと災害リスクとの関係についても学びました。

② 児童の様子や学生サポーターの様子





③ 子どもたちの感想

- ・将来、家を建てるときに防災について考えてみたい
- ・津波、土砂崩れ、氾濫、内水など地形から災害を想像することができた
- ・ゲームをしながら災害について楽しく学べた
- ・ジオラマを見ながらだったので、どこで災害が起きやすいのか視覚的に理解できた。
- ・ふだん、気にしていない場所も歴史を振り返ることで危険か理解でき楽しかった

④ 学生サポーターの様子や気付き、感想など

周囲に気を配って積極的に行動してくれました。

⑤ 企業・団体の気付きや感想など

昨年同様に楽しみながら学んでもらうことができたと思います。現在はマンパワー的に1日が限界ですが、将来的に日数が増やせるよう体制をととのえられたらと思っています。

No.とプログラム名	No.87 ペーパークラフトを使って、まちをデザインしよう！
企業・団体名	横浜市都市整備局景観調整課
実施日	8月7日（木）
会場	【中区】横浜市役所1階 市民協働ラボ
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数10人
参加の目的 (150文字程度)	当課では、地域の個性を生かした魅力的な景観づくりを推進するための事業の一つとして、地域に誇りと愛着を持った未来の景観づくりの担い手を育むための「景観まちづくり学習」の普及啓発に取り組んでおり、その活動の一環として参加しています。

○プログラム内容

展望台から横浜のまちを見学しよう！

ペーパークラフトを組み立てて、じぶんだけのまちをデザインしよう！

ペーパークラフトに色塗りをして、建物をデザインしてもらいます☆

○当日の様子



ワークショップの様子



展望台見学の様子

○参加児童の主な感想

- ・ペーパークラフトに色塗りをして組み立てるのがたのしかった。
- ・展望台からまちを見渡せてきれいだった。

○事務局の気付き・感想

- ・横浜の特徴である、海や赤レンガなどの歴史的建造物を意識した色づかいをしている子どもも多く、驚かされた。
- ・熱中して取り組んでくれている子どもが多かった。
- ・児童により作業速度に差は有ったが、見本を参考にカラフルなデザインの街を作り上げてとても楽しそうだった。

No.とプログラム名	No.88 ペーパータワーチャレンジ！
企業・団体名	公益財団法人横浜市建築保全公社
実施日	8月6日（水曜日）、7日（木曜日）
会場	公益財団法人横浜市建築保全公社 会議室
対象学年と参加人数	小学3～6年生、参加児童数61人
参加の目的 (150文字程度)	ものづくりの魅力、建物に愛着を持ち大切に使ってもらうこと及び建設業の社会的な重要性を知ってもらうこと（将来の担い手確保）。

当日のプログラム内容

はじめに、建物やタワーについて職員講話を聴いてもらいました。その後、各チームの名前を決め、新聞紙6枚を使って制限時間内に高いタワーを建てるという課題に取り組んでもらいました。3～4人のチームで練習チャレンジと本番チャレンジを行い、タワーの高さを競いました。

チャレンジ終了後、各チームの高さの計測を行い、タワーとともに各チームの記念写真を撮影しました。

撮影後、優勝賞品である学校体育館の床廃材を再利用したアップサイクル「スマホスタンド」が完成するまでの動画を視聴し、振り返り会及び優勝チームの表彰を行いました。



講話の様子



動画視聴の様子



ペーパータワーチャレンジ！の様子



振り返りの様子

児童の感想

- ・タワーを新聞紙で本当に作れるのか疑問に思ったけれど、作れてびっくりした。
- ・法隆寺に心柱が使われていて驚いた。
- ・簡単に建つと思ったけれど、簡単に建たなかった。でも最終的に建ってよかったです。
- ・うまくいかなかったけれど、みんなで協力して作って楽しかった。
- ・昔の人の知恵を知ることができて良かった。
- ・優勝チームに負けたけど、立派なタワーができて良かった。

学生サポーターの気付きや感想

- ・学生サポーターに、受付補助、チーム活動中のコーディネーター、及び振り返り会の司会進行を担当してもらいました。プログラムの目的や意図をしっかり理解し、特に、司会進行については自ら計画し取り組んでいました。
- ・振り返り会では、単に各チームの感想発表だけではなく、アップサイクルの取り組みについての重要性を理解し、子どもたちにアップサイクルの知識の有無を問い合わせ、知らなかっただ子もたちについては、また一つ知識が増えたことを伝えていました。
- ・子どもたちの素敵な感想に感謝し、「この体験が何かに繋がったり、役に立ったりするきっかけになってくれたら嬉しく思う。」と自分の意志を伝えていました。
- ・学生サポーターから「この体験を通し、とても多くの発見や学びがありました。特に印象に残っていることは、イベントの振り返り部分の司会進行役を私一人で計画し、実行したことです。場面によって臨機応変に子どもたちと接するのはとても大変で、柔軟に対応することが苦手な私にとって、良い刺激になったと思います。このような貴重な経験をすることができたこと、とても嬉しく思います。」との感想をいただきました。

団体の気付きや感想

- ・講話の中に、新聞紙でタワーを作るヒントが隠されており、子どもたちは熱心に話を聴いていました。
- ・ヒントを掴んだチームは、役割分担をしながらチャレンジしていました。どのチームも建物が安定しないときや倒れてしまうときは、どのように改良したら安定した建物が建つか、みんなで意見を出し合いながら試行錯誤して再チャレンジしていました。
- ・タワーが建たなくても、最後まであきらめないで時間ぎりぎりまでチャレンジする姿勢や、学生サポーターの積極的な取組姿勢など学ぶこともあり、今後に繋げていきたいと思います。



子どもアドベンチャーカレッジ 2025 実施報告書

令和7年11月発行

横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

電話：045-671-3282